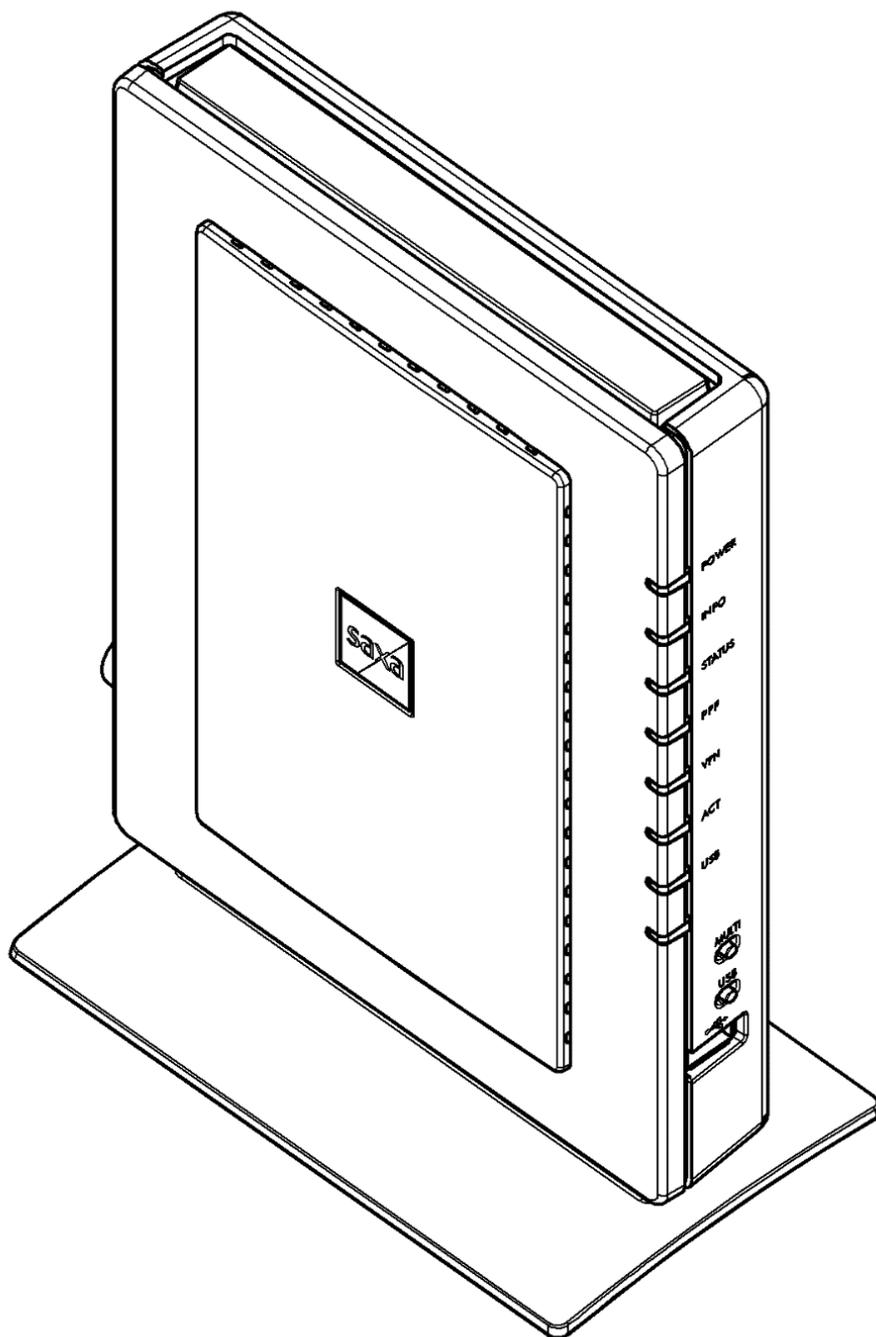




ユーザーズマニュアル

リモートVPNルータ

ZC1000



はじめに

このたびは、「ZC1000」をお買い上げいただきまして、誠にありがとうございます。

本製品は設定/保守をリモート(遠隔)で行えるVPNルータです。

ご使用になる前に、このユーザーズマニュアルをよくお読みのうえ正しくお使いください。

目次

目次	2	設定内容を初期化する	127
安全上のご注意	3	本製品を再起動する	130
構成品	6	時計を合わせる	131
構成図	7	USB ポートの利用設定を変更する	135
各部の名称	9	MULTI スイッチの機能を切り替える	136
本製品の設定(ユーザ編)	10	リンク設定を変更する	137
ログイン	11	ランプの省電力機能を切り替える	138
トップページ	12	ログインパスワードを変更する	139
システム状態を表示する	13	リモート保守の許可を実行する	140
ログを表示する	15	困ったときは	143
リモート保守の許可を実行する	17	ランプの表示を確認する	144
本製品の設定(管理者編)	18	本製品にアクセスできない	145
ログイン	19	インターネットに接続できない	146
トップページ	20	その他の問題	147
プロバイダ設定	22	付録	149
プロバイダ情報を変更する	26	製品仕様	149
プロバイダ情報(PPPoE)を編集する	26	プロバイダ設定詳細	152
プロバイダ情報(IPoE)を編集する	29	新規プロバイダ設定	152
プロバイダ情報を削除する	32	プロバイダ設定編集	158
プロバイダ情報(PPPoE)を追加する	34	プロバイダ設定削除	163
詳細設定と保守	36	プロバイダ設定追加	167
画面の説明	36	セキュリティレベル	169
<詳細設定>	40	用語集	171
インターネットへ接続する	41	免責事項	174
LAN の情報を設定する	50	索引	175
ルーティング情報を設定する	55		
アドレス変換情報を設定する	62		
SNMP 情報を設定する	70		
ブリッジ情報を設定する	73		
ファイアウォール機能を設定する	74		
優先・帯域制御機能を設定する	85		
UPnP 情報を設定する	92		
VPN パススルー機能を設定する	93		
<保守>	94		
本製品のファームウェアを更新する	96		
設定データを管理する	106		
システムの状態を確認する	113		
IP アドレスのリース状態を確認する	115		
ネットワークの通信状態を確認する	117		
VPN 接続状態を確認する	119		
設定情報を確認する	121		
ログを確認する	122		

安全上のご注意

安全にお使いいただくために必ずお読みください

以下は、お客様や他の人々への危害や財産への損害を未然に防ぎ、本製品を安全にお使いいただくために、守っていただきたい事項を示しています。ご使用前によくお読みいただき、正しくお使いください。

図記号の説明

 禁止(してはいけないこと)を示します。     	 強制 (必ずすること)を示します。  
------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

	警告 この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が死亡または重症(*1)を負う可能性が想定される内容を示しています。
	●一般のゴミとして放置しないでください 火災・けがの原因となります。破棄するときは、販売店にご相談ください。
	●電源アダプタは、AC100Vの商用電源以外は、絶対に使用しないでください 火災・感電・故障の原因となります。
	●テーブルタップや分岐コンセント・分岐ソケットを使用したタコ足配線はしないでください 火災・過熱の原因となります。
	●本製品を傾いた台の上や、振動、衝撃の多いところには置かないでください 落下・転倒により、けがの原因となります。
	万一、落下・転倒により破損したときは、電源アダプタの電源コネクタをコンセントから抜いて、販売店にご連絡ください。そのまま使用すると、火災・感電・故障の原因となります。
	●ぬれた手で電源コネクタ、LANケーブル、USBメモリを抜き差ししないでください 感電・けがの原因となります。
	●本製品に火の気を近づけたり、加熱しないでください 発熱・破裂し、火災・けがの原因となります。
	●電源コード、LANケーブル、USBメモリを傷つけたり、無理に曲げたり、引っ張ったり、ねじったり、たばねたり、高温部に近づけたり、重い物を載せたり、挟み込んだり、加工しないでください
	電源コード、LANケーブル、USBメモリが破損し、火災・感電の原因となります。 電源コード、LANケーブルが傷んだときは(芯線の露出、断線など)、電源アダプタの電源コネクタをコンセントから抜いて、販売店にご連絡ください。
	●電源コネクタはコンセントの奥までしっかり差し込んでください 電源コネクタの刃に、金属などが触れると火災・感電の原因となります。
	●電源アダプタの電源コネクタは、ほこりが付着していないことを確認してからコンセントに差し込んでください。また、電源コネクタにほこりが付着している場合は、よくふいてください。ほこりにより火災・感電の原因となります。半年、または1年に1回は電源コネクタをコンセントから抜いて点検・清掃してください。

	<p>●LAN ケーブルのモジュラプラグおよび USB メモリのコネクタは、ほこりが付着していないことを確認してからモジュラジャックまたは USB ポートに差し込んでください。また、モジュラプラグやコネクタにほこりが付着している場合は、よくふいてください。 ほこりにより火災・感電の原因となります。</p>
	<p>●本製品を電子レンジや高圧容器に入れたりしないでください 火災・故障の原因となります。</p>
	<p>●取付位置を変更しないでください 火災・感電・けがの原因となります。配線工事を行う場合は、販売店にご相談ください。</p>
 	<p>●本製品の通風孔や開口部などから、金属類を入れないでください 火災・感電・故障の原因となります。 万一、金属類が内部に入ったときは、すぐに電源アダプタの電源コネクタをコンセントから抜いて、販売店にご連絡ください。</p>
	<p>●本製品をぬれた手で触れたり、ぬれた布でふかないでください 火災・感電・故障の原因となります。</p>
 	<p>●万一、内部に水などが入った場合、そのまま使用しないでください すぐに電源アダプタの電源コネクタをコンセントから抜いて、販売店にご連絡ください。そのまま使用すると、火災・感電・故障の原因となります。</p>
 	<p>●本製品の上や近くに液体の入った容器（花瓶・植木鉢・コップ・化粧品・薬品など）を置かないでください 液体がこぼれて内部に入ると、火災・感電・故障の原因となります。 万一、液体が内部に入ったときは、すぐに電源アダプタの電源コネクタをコンセントから抜いて、販売店にご連絡ください。</p>
	<p>●雷が鳴り出したら、本製品・電源コード・LAN ケーブル・USB メモリなどに触れないでください 感電の原因となります。</p>
 	<p>●万一、煙が出ている、異常音がする、変なにおいがするなどの異常状態が発生した場合、そのまま使用しないでください すぐに電源アダプタの電源コネクタをコンセントから抜き、煙が出なくなるのを確認して販売店にご連絡ください。そのまま使用すると火災・感電・故障の原因となります。なお、お客様による修理は危険ですからおやめください。</p>
	<p>●高精度な制御や微弱な信号を取り扱う電子機器の近くで使用しないでください 電子機器が誤動作するなど影響が出る可能性があります。また使用を制限された場所での使用はお控えください。 (ご注意いただきたい電子機器の例：補聴器・医療用電子機器・ペースメーカー・火災報知機・自動ドア・自動制御機器など)</p>
	<p>●電源アダプタ、電源コードは、必ず専用のものを使用し、それ以外のものは絶対に使用しないでください 火災・感電・故障の原因となります。</p>
	<p>●ふたを開けたり、分解・改造・修理をしたりしないでください 火災・感電・故障の原因となります。 故障のときは販売店に修理をご依頼ください。 (分解・改造された製品は修理に応じられない場合があります)</p>



注意

この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が傷害(*2)を負う可能性が想定される内容および物的損害(*3)のみの発生が想定される内容を示しています。

- **電源アダプタの電源コネクタを抜くときは、必ず電源コネクタを持って抜いてください**
電源コードを引っ張ると、電源コードが破損し、火災・感電の原因となることがあります。
- **本製品の上に乗ったり、座ったりしないでください**
けがや故障の原因となることがあります。
- **直射日光の当たるところや、暖房設備・ボイラーなどのため著しく温度が上昇するところに置かないでください**
内部の温度が上がり、火災の原因となることがあります。
- **風呂場や加湿器のそばなど、湿度の高いところでは使用しないでください**
火災・感電・故障の原因となることがあります。
- **ごみやほこりが多い場所に置かないでください**
火災・感電・故障の原因となることがあります。
- **本製品を重ね置きしたり、開口部をふさいだりしないでください**
開口部をふさぐと、内部に熱がこもり、火災や故障の原因となることがあります。
- **電気雑音を発生するものに近い場所に置かないでください**
本製品を利用したインターネットや拠点間の通信速度が低下したり、使用できなくなることがあります。
<電気雑音の原因としては>
 - ・車やオートバイが近くを通る場合
 - ・放送局や無線局（アマチュア無線、CB 無線など）の近くで使用する場合
 - ・テレビ・ラジオ・蛍光灯・OA 機器・電子レンジ・電気コタツなどの近くで使用する場合
 - ・高周波溶接機・高周波ミシン・電気溶接機・ワイヤカッタなどの工作機械の近くで使用する場合
- **長時間ご使用にならないときは、安全のため必ず電源アダプタの電源コネクタをコンセントから抜き、LAN ケーブルや USB メモリも抜いてください**
- **電源アダプタの電源コードおよび LAN ケーブルを熱器具に近づけないでください**
電源コード、LAN ケーブルの被覆が溶けて、火災や感電の原因となることがあります。
- **屋外には設置しないでください**
屋外に設置した場合の動作保証はいたしません。

*1：重傷とは失明・けが・やけど（高温・低温）・感電・骨折・中毒などで後遺症が残るもの、治療に入院・長期の通院を要するものをさします。

*2：傷害とは治療に入院や長期の通院を要さない、けが・やけど・感電などをさします。

*3：物的損害とは家屋・家財および家畜・ペット等にかかわる拡大損害をさします。

■商標について

* Windows、Internet Explorer は、米国 Microsoft Corporation の米国およびその他の国における登録商標です。

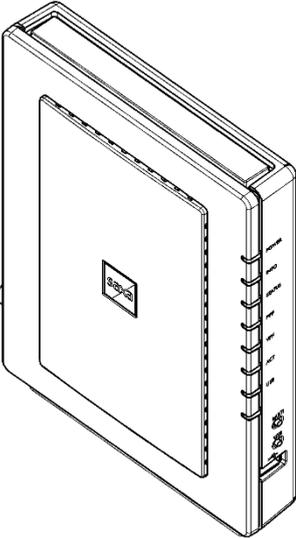
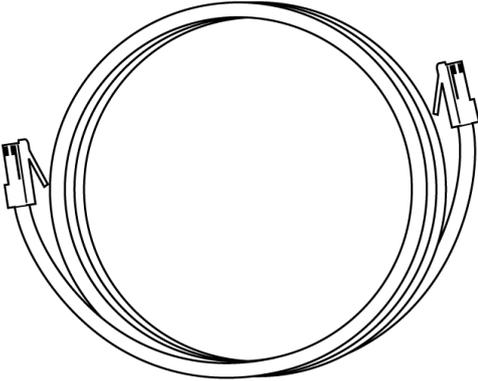
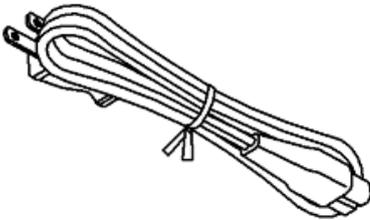
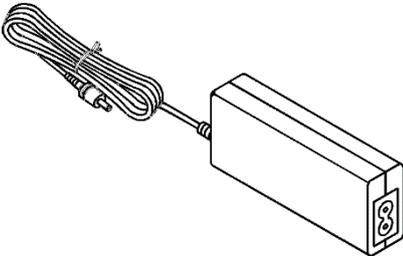
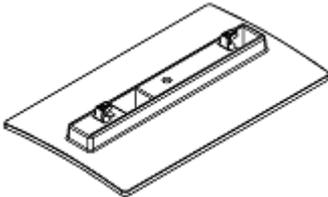
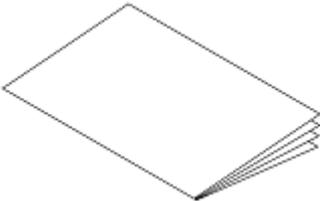
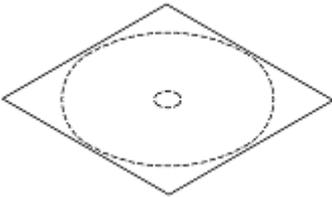
* Windows 7 は、Microsoft® Windows® 7 operating system の略です。

* その他、本文中での記載の製品名や品名は各社の商標または登録商標です。

* 本ユーザーズマニュアルでは、本文中の™、®は省略しています。

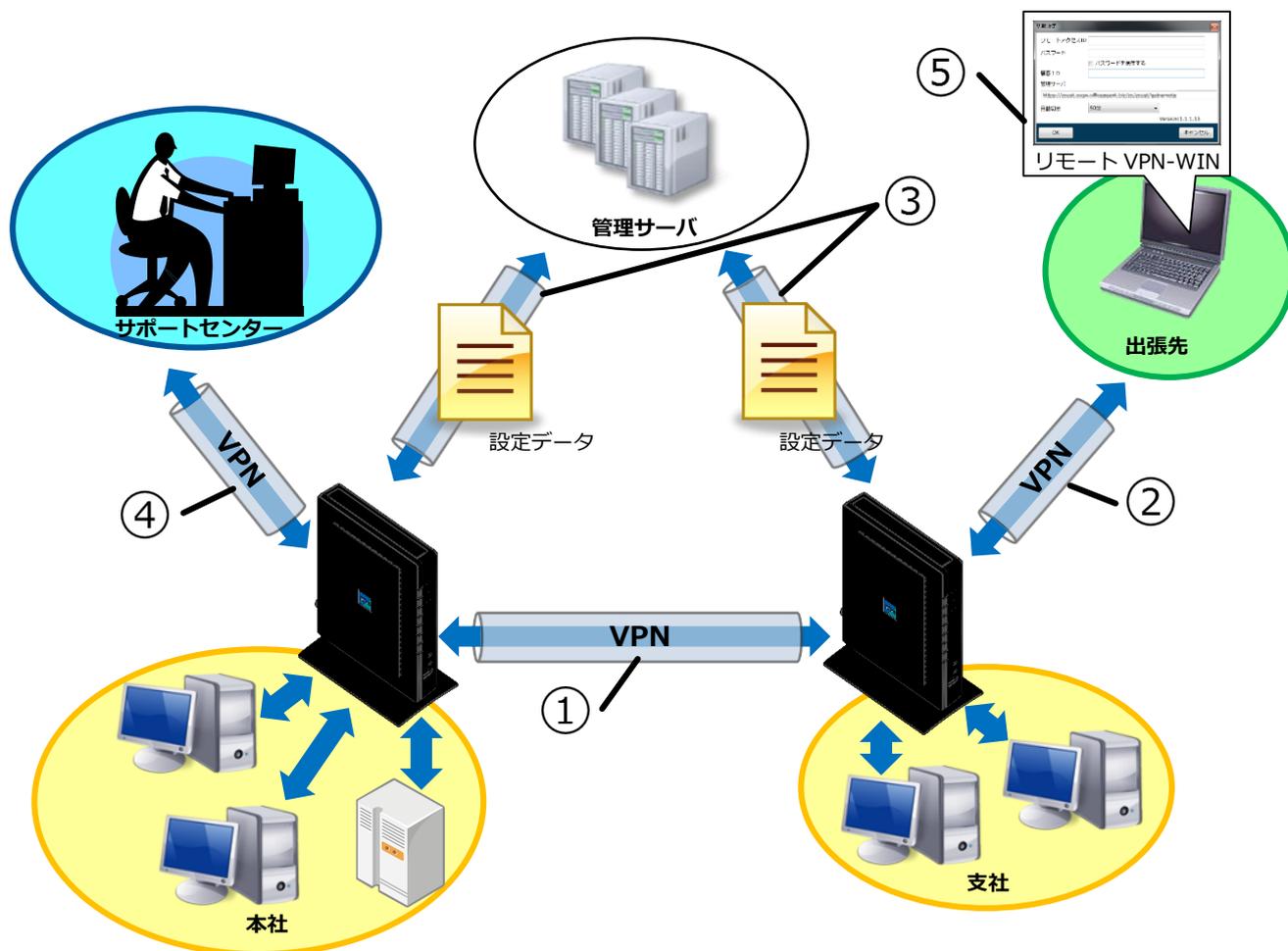
構成品

本製品には、以下の添付品が同梱されています。万一、不足しているものがある場合は販売店にお問い合わせください。

<p>ZC1000(本体) 1台</p> 	<p>LANケーブル 1本</p> 
<p>電源コード 1個</p> 	<p>電源アダプタ 1個</p> 
<p>壁掛け・縦置きスタンド 1台</p> 	<p>壁掛け用ネジ 2本</p> 
<p>はじめにお読みください（保証書付き） 1枚</p> 	<p>マニュアル用 CD-ROM 1枚</p> 

構成図

本製品を利用すると、出張先から社内ファイルサーバにアクセスすることや、サポートセンターからのリモート(遠隔)操作で本製品のメンテナンスを行うことができます。これらは VPN 接続を使用します。下記に本製品を使用した VPN 接続イメージを記載します。



①拠点間 VPN(*1)

拠点同士を接続し、データの送受信を行います。

②リモートアクセス VPN(*1)

社外から公衆網を使用して社内ネットワークへ接続することができます。リモートアクセス VPN の接続には[リモート VPN-WIN]を使用します。

③管理サーバ通信用 VPN(*1)

設定データのアップロード/ダウンロードに使用します。
設定データのアップロードにより管理サーバへ設定データをバックアップすることができます。
設定データのダウンロードにより設定の自動化が可能となり、ユーザによる複雑な設定が不要となります。(製品起動ごとに、管理サーバとの通信開始の際には設定データを自動ダウンロードします。)

④リモート保守 VPN(*1)

保守専用の VPN 接続です。本製品の保守に使用します。

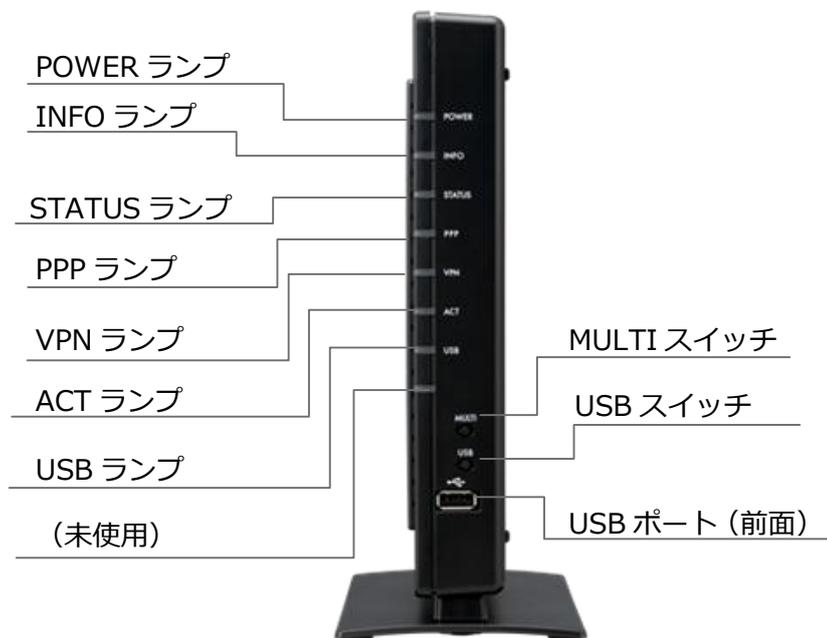
⑤ リモート VPN-WIN(*2)

Windows 用 VPN 接続アプリケーションです。

*1 : VPN 接続に関する設定は販売店へご相談ください。お客様による設定は行えません。

*2 : 詳しくは販売店へお問い合わせください。

各部の名称



本製品の設定(ユーザ編)

本製品はログイン時のユーザ名によって、設定できる項目や表示される内容に違いがあります。
本項ではユーザレベルでのログイン方法、設定、表示について説明します。

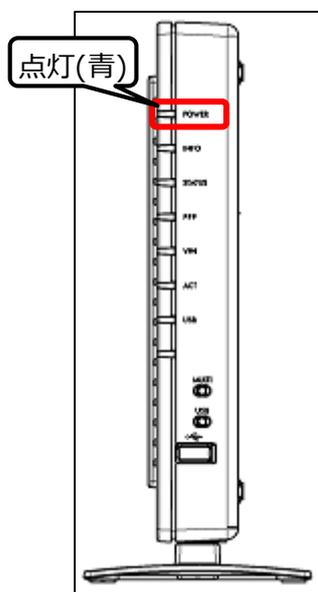
ログイン	11
トップページ	12
システム状態を表示する	13
ログを表示する	15
リモート保守の許可を実行する	17

本書の設定は Windows7 SP1、Internet Explorer10 で行っています。
環境によって本マニュアルと表示が異なる場合がございます。

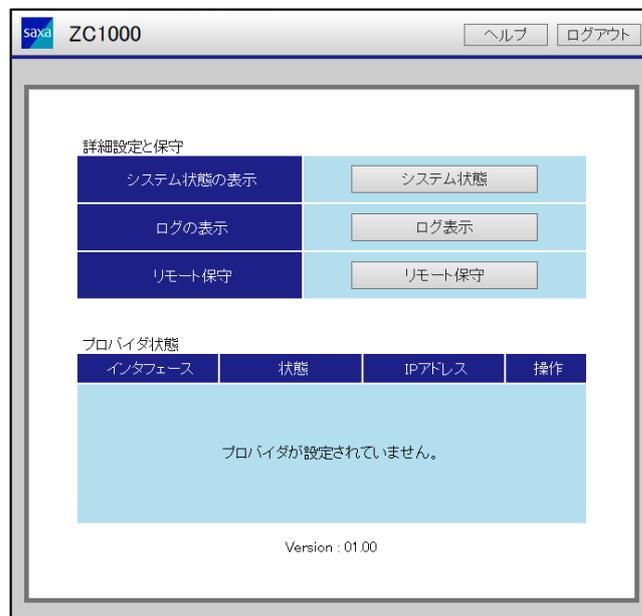
ログイン

本製品の設定は WEB ブラウザから行います。WEB ブラウザで本製品 LAN 側からログインしてください。

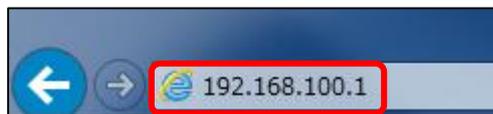
1 本製品の電源が入っていることを確認する



4 トップページが表示される



2 本製品に接続したパソコンから WEB ブラウザを起動し、「192.168.100.1」へアクセスする(*1)



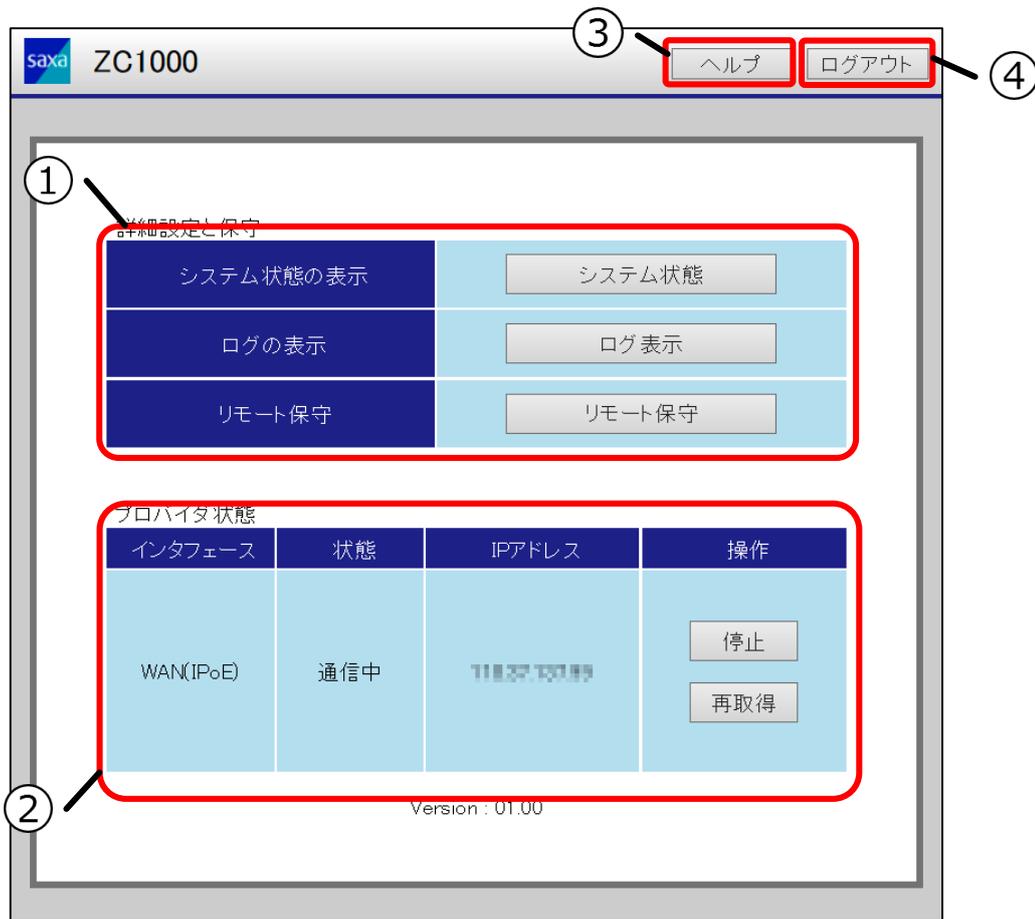
3 ユーザ名に「user」、パスワードは空欄のまま「OK」を押す(*1)



*1 : 記載されている IP アドレス、ユーザ名、パスワードは出荷時のものです。

トップページ

トップページからは[システム状態の表示]、[ログの表示]、[リモート保守]の許可開始、有効になっているインタフェースの操作ができます。



① 詳細設定と保守

[システム状態の表示]と[ログの表示]、[リモート保守]の操作ができます。

② プロバイダ状態

現在の WAN インタフェース状態が表示されます。

有効となっている WAN インタフェースは操作ができます。操作の種類はインターネットプロバイダ(プロバイダ)の接続種別で異なります。

プロバイダの接続種別が PPPoE(IPv4)の場合

「開始」と「停止」の操作ができます。

プロバイダの接続種別が IPoE(IPv4)の場合

「開始」と「停止」の操作ができます。また、DHCP を使用する IPoE を接続種別に行っている場合、IP アドレスの「再取得」の操作もできます。

③ ヘルプボタン

ヘルプボタンを押すとヘルプページを表示できます。

ヘルプページは表示されている画面についての説明が表示されます。

④ ログアウトボタン

ログアウトボタンを押すとログアウトできます。

ログアウト後に本製品にアクセスする場合は、もう一度ログインしてください。

システム状態を表示する

システム状態画面では[システム情報]、[インタフェース情報]、[WAN/LAN ポート情報]の表示、またインタフェース情報からは有効になっている WAN インタフェースの操作ができます。

1 システム状態画面を表示する



2 システム状態画面について

⑤ トップページへ戻る

システム情報 > システム状態

◆ システム状態

① 更新

システム情報

システムバージョン	01.00
MACアドレス(WAN)	00:02:25:5d:90:ed
MACアドレス(LAN)	00:02:25:5d:90:ed
現在時刻	2024/05/22 11:04:00

②

インタフェース情報

インタフェース	状態	IPアドレス	送信パケット数	受信パケット数	操作
WAN(IPoE)	通信中	118.207.120.199	59	134	停止 再取得
PPPoE1	無効		0	0	開始
PPPoE2	無効		0	0	開始
PPPoE3	無効		0	0	開始
PPPoE4	無効		0	0	開始
PPPoE5	無効		0	0	開始
LAN	通信中	192.168.1.1	147	471	

③

WAN/LANポート情報

ポート	状態	リンク速度
WAN	リンクアップ	100Mbps 全二重
LAN1	リンクアップ	100Mbps 全二重
LAN2	リンクダウン	
LAN3	リンクダウン	
LAN4	リンクダウン	

④

①更新ボタン

更新ボタンを押すと表示中の[システム情報]、[インタフェース情報]、[WAN/LAN ポート情報]が更新できます。

②システム情報

[システム情報]では[システムバージョン]、[MAC アドレス(WAN)]、[MAC アドレス(LAN)]、[現在時刻]が表示されます。

表示される[現在時刻]はシステム状態画面を表示した時点の時刻です。

③インタフェース情報

[インタフェース情報]では WAN インタフェース、LAN インタフェースの情報が表示されます。トップページの[プロバイダ情報]と同様に有効となっている WAN インタフェースは操作ができません。詳しくは『[トップページ](#)』を参照してください。

④WAN/LAN ポート情報

[WAN/LAN ポート情報]では WAN ポート、LAN ポートの状態とリンク速度が表示されます。[状態]では各ポートに端末が接続されているかが表示され、[リンク速度]では通信に使用されている速度が表示されます。

⑤トップページへ戻る

トップページへ戻るを押すとトップページへ戻ることができます。

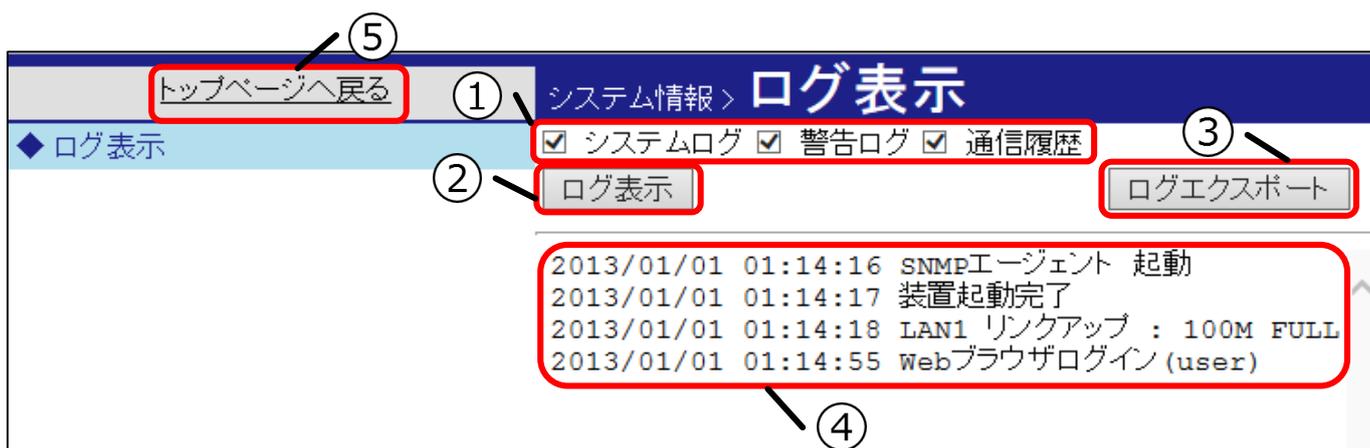
ログを表示する

ログ画面には本製品で発生した事象が表示されます。また、ログを外部に保存することができます。

1 ログ表示画面を表示する



2 ログ表示画面について

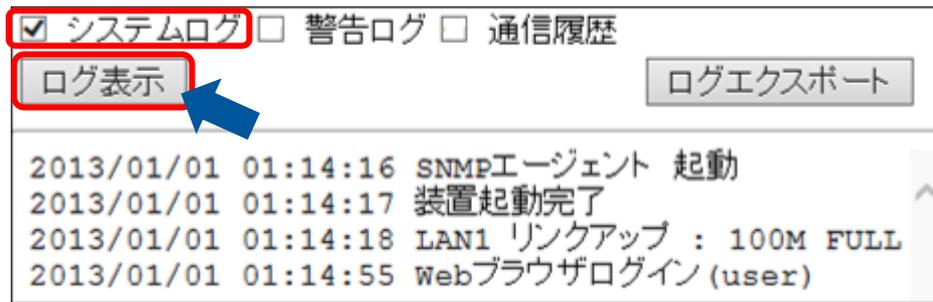


① ログ表示フィルタ

チェックの有無でログの表示/非表示を切り替えることができます。ログ表示フィルタを反映させるには「ログ表示」ボタンを押してください。

② ログ表示ボタン

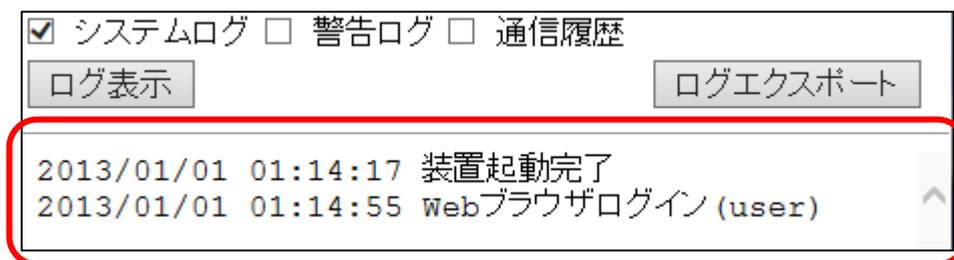
ログ表示ボタンを押すとログ情報が更新され、ログ表示フィルタが適用できます。



システムログ
 警告ログ
 通信履歴

```

2013/01/01 01:14:16 SNMPエージェント 起動
2013/01/01 01:14:17 装置起動完了
2013/01/01 01:14:18 LAN1 リンクアップ : 100M FULL
2013/01/01 01:14:55 Webブラウザログイン (user)
    
```

システムログ
 警告ログ
 通信履歴

```

2013/01/01 01:14:17 装置起動完了
2013/01/01 01:14:55 Webブラウザログイン (user)
    
```

③ ログエクスポートボタン

ログエクスポートボタンを押すことで本製品のログをエクスポートすることができます。エクスポートされるログは表示されているログではなく、本製品に保存されているすべてのログがエクスポートされます。エクスポートされるログにログ表示フィルタは適用されません。

④ ログ

ログ情報を表示します。

⑤ トップページへ戻る

トップページへ戻るを押すとトップページへ戻ることができます。

リモート保守の許可を実行する

本製品ではサポートセンターからのリモート(遠隔)による設定変更/保守ができます。本機能の使用はサポートセンターの指示のもと行ってください。

リモート保守の許可は MULTI スイッチからも実行できます。MULTI スイッチからリモート保守の許可を実行する場合には、『[MULTI スイッチからリモート保守の許可を実行する](#)』を参照してください。

1 リモート保守画面を表示する



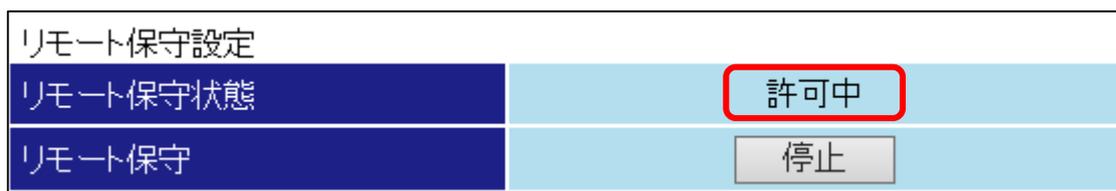
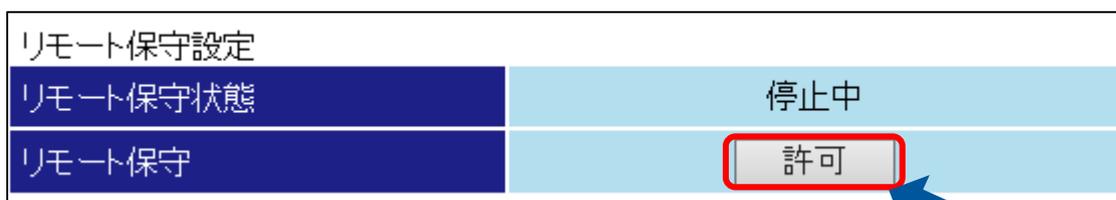
2 リモート保守画面について



① リモート保守

許可ボタンを押してください。[リモート保守状態]が「停止中」から「許可中」へ切り替わります。

「許可中」から「停止中」へ切り替える場合も同様の操作で切替えることができます。(*1)



*1: リモート保守状態は、最後に許可された時点から1時間経過すると自動的に停止中となります。

本製品の設定(管理者編)

本製品はログイン時のユーザ名によって、設定できる項目や表示される内容に違いがあります。
本項では管理者レベルでのログイン方法、設定、表示について説明します。

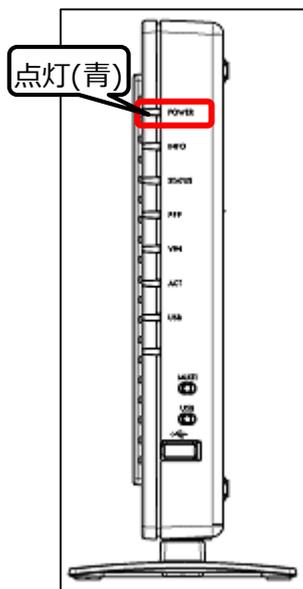
ログイン	19
トップページ	20
プロバイダ設定	22
プロバイダ情報を変更する	26
詳細設定と保守	36

本書の設定は Windows7 SP1、Internet Explorer10 で行っています。
環境によって本マニュアルと表示が異なる場合がございます。

ログイン

本製品の設定は WEB ブラウザから行います。WEB ブラウザで本製品 LAN 側からログインしてください。

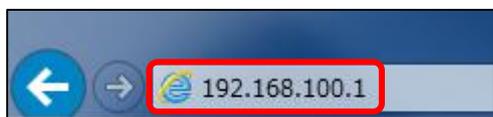
1 本製品の電源が入っていることを確認する



4 トップページが表示される



2 本製品に接続したパソコンから WEB ブラウザを起動し、「192.168.100.1」へアクセスする(*1)



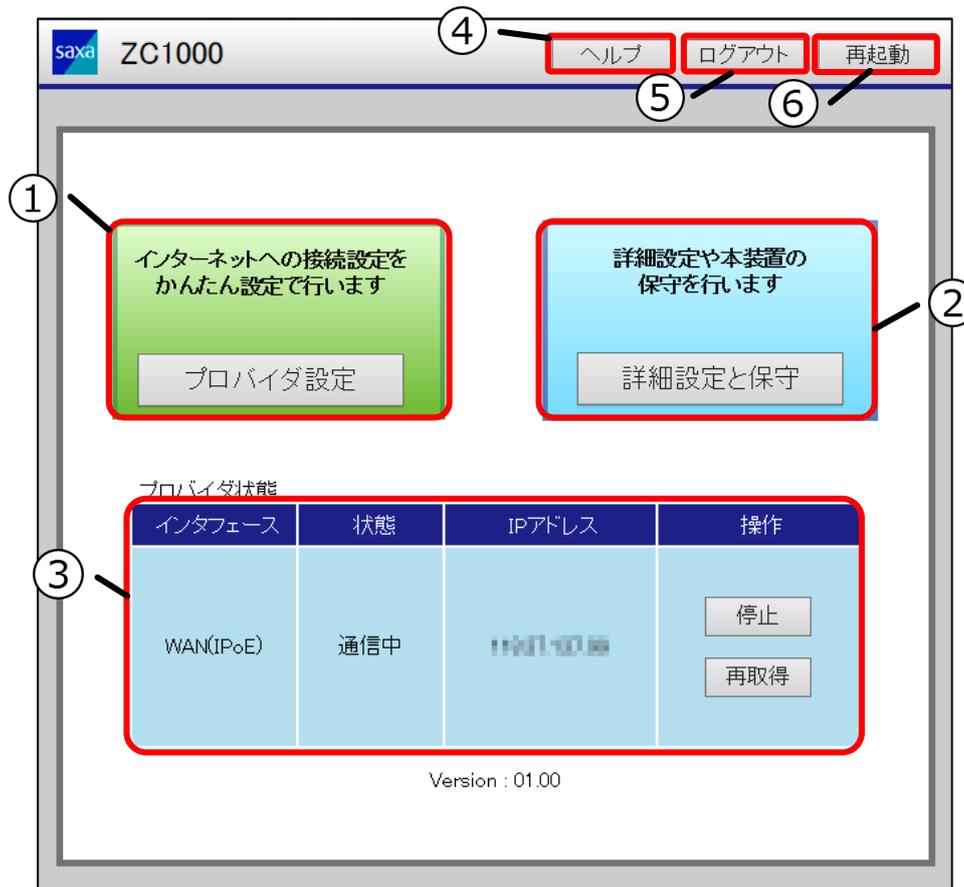
3 ユーザ名に「admin」、パスワードに「admin」を入力し、「OK」を押す(*1)



*1 : 記載されている IP アドレス、ユーザー名、パスワードは出荷時のものです。

トップページ

トップページからは各種設定、情報の表示、再起動、初期化などの操作ができます。



①プロバイダ設定

WAN 側インタフェースの設定が簡単に行えます。ここで設定したプロバイダ情報は[詳細設定と保守]からでも変更ができます。

②詳細設定と保守

詳細設定画面を表示できます。

③プロバイダ情報

現在の WAN インタフェース状態が表示されます。

有効となっている WAN インタフェースは操作できます。操作の種類はインターネットプロバイダ(プロバイダ)の接続種別で異なります。

プロバイダの接続種別が PPPoE(IPv4)の場合

「開始」と「停止」の操作ができます。

プロバイダの接続種別が IPoE(IPv4)の場合

「開始」と「停止」の操作ができます。また、DHCP を使用した IPoE を接続種別に行っていると IP アドレスの「再取得」の操作ができます。

④ヘルプボタン

ヘルプボタンを押すとヘルプページを表示できます。

ヘルプページは表示されている設定画面についての説明が表示されます。

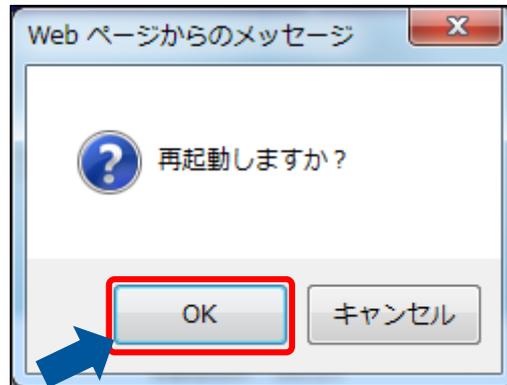
⑤ **ログアウト** ボタン

ログアウト ボタンを押すとログアウトできます。

ログアウト後に本製品にアクセスする場合は、もう一度ログインしてください。

⑥ **再起動** ボタン

再起動 ボタンを押すとメッセージが表示されます。OK ボタンを押すと再起動を開始します。



プロバイダ設定

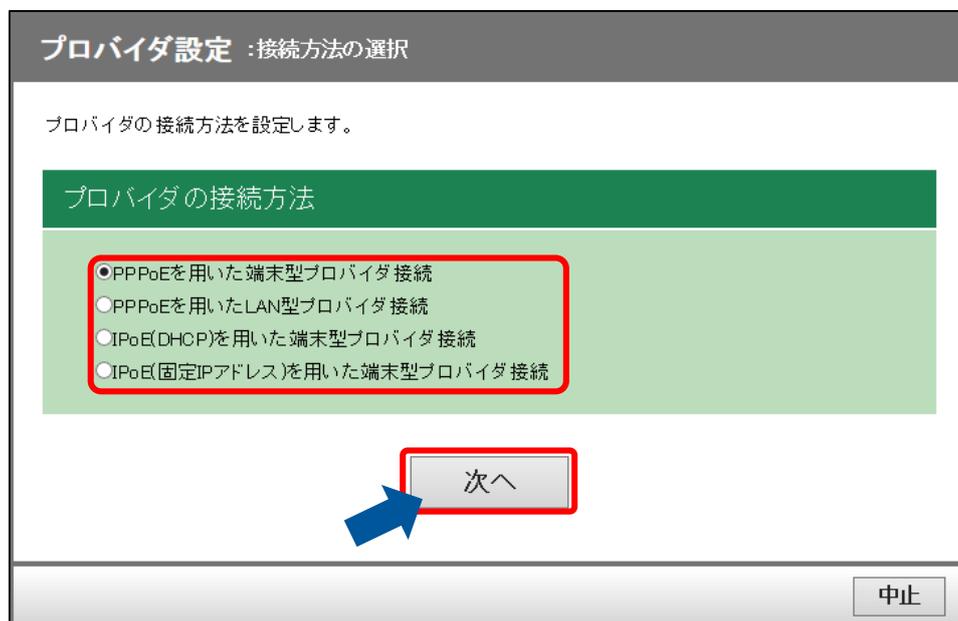
プロバイダ設定を使用することでインターネット接続に必要ないくつかの設定を自動で設定できます。インターネットプロバイダ（プロバイダ）から提供されたアカウント情報をお手元にご用意ください。プロバイダ設定を行う前に『[付録・新規プロバイダ設定](#)』で自動設定される項目を確認してください。自動で設定される項目は、プロバイダの接続方法やセキュリティレベルによって異なります。

- 設定変更後は設定データのアップロードを行い、設定データのバックアップを行ってください。アップロードについては『[設定データをアップロードする](#)』を参照してください。
- 設定変更後に設定データのアップロードが行われていない場合、装置再起動時に設定データが設定変更前の状態に戻ってしまう可能性があります。

1 プロバイダ設定画面を表示する



2 プロバイダの接続方法を選択する



PPPoE を用いた端末型プロバイダ接続

プロバイダに PPPoE を用いて接続する設定を行います。
フレッツ光ネクスト、B フレッツなどの回線を使用する場合に設定します。

PPPoE を用いた LAN 型プロバイダ接続

ネットワーク型プロバイダに接続する設定を行います。
フレッツ VPN ワイドなどの回線を使用する場合に設定します。

IPOE (DHCP) を用いた端末型プロバイダ接続

WAN ポートに割り当てられた IP アドレスを使用してプロバイダに接続する設定を行います。
CATV 回線 (ケーブルモデム) や ADSL 回線 (ADSL モデム) など IP アドレスを割り当てる機能を持つモデム/ルータ装置に接続して使用する場合に設定します。

IPOE (固定 IP アドレス) を用いた端末型プロバイダ接続

本装置の WAN ポートに固定的に IP アドレスを割り付けて使用するネットワークに接続する設定を行います。

3 プロバイダ情報を入力する**PPPoE をプロバイダの接続方法に選択した場合**

PPPoE には端末型接続と LAN 型接続の 2 種類がありますが、入力する項目に違いはありません。ただし、自動設定される項目には違いがありますので『[付録・新規プロバイダ設定](#)』でそれぞれの差分について確認してから設定を行ってください。

プロバイダ設定 : プロバイダ情報の入力

PPPoEを用いた端末型プロバイダ接続
PPP1インタフェースのプロバイダ情報を設定します。

プロバイダ契約情報	
接続ユーザ名	<input type="text"/>
接続パスワード	<input type="password"/>
DNSサーバIPアドレス(プライマリ)	<input type="text"/>
DNSサーバIPアドレス(セカンダリ)	<input type="text"/>
MTU値	<input type="text" value="1454"/>
MRU値	<input type="text" value="1454"/>
ファイアウォール	
セキュリティレベル	<input type="text" value="レベル5(最強)"/>

①接続ユーザ名

[接続ユーザ名]をプロバイダ提供のアカウント情報を元に入力してください。

②接続パスワード

[接続パスワード]をプロバイダ提供のアカウント情報を元に入力してください。

③DNS サーバ IP アドレス

[DNS サーバ IP アドレス]をプロバイダ提供のアカウント情報を元に入力してください。

④セキュリティレベル

『[付録・新規プロバイダ設定](#)』と『[付録・セキュリティレベル](#)』を確認し、[セキュリティレベル]を選択してください。

⑤設定保存ボタン

入力が完了しましたら設定保存ボタンを押してください。

IPoE(DHCP)を用いた端末型プロバイダ接続を選択した場合

PPPoE と同様に自動設定される項目があります。『[付録・新規プロバイダ設定](#)』を確認してから設定してください。

①DNS サーバ IP アドレス

[DNS サーバ IP アドレス]をプロバイダ提供のアカウント情報を元に入力してください。

②セキュリティレベル

『[付録・新規プロバイダ設定](#)』と『[付録・セキュリティレベル](#)』を確認し、[セキュリティレベル]を選択してください。

③設定保存ボタン

入力が完了しましたら設定保存ボタンを押してください。

IPoE(固定 IP アドレス)を用いた端末型プロバイダ接続

PPPoE と同様に自動設定される項目があります。『[付録・新規プロバイダ設定](#)』を確認してから設定してください。

プロバイダ設定 : プロバイダ情報の入力

IPoE(固定)を用いた端末型プロバイダ接続
WAN(IPoE)インタフェースのプロバイダ情報を設定します。

プロバイダ契約情報	
IPアドレス	<input type="text"/>
サブネットマスク	255.255.255.0(24ビット) ▼
ゲートウェイIPアドレス	<input type="text"/>
DNSサーバIPアドレス(プライマリ)	<input type="text"/>
DNSサーバIPアドレス(セカンダリ)	<input type="text"/>
MTU値	1500
ファイアウォール	
セキュリティレベル	レベル5(最強) ▼

① IP アドレス

[IP アドレス]をプロバイダ提供のアカウント情報を元に設定してください。

② サブネットマスク

[サブネットマスク]をプロバイダ提供のアカウント情報を元に設定してください。

③ ゲートウェイ IP アドレス

[ゲートウェイ IP アドレス]をプロバイダ提供のアカウント情報を元に入力してください。

④ DNS サーバ IP アドレス

[DNS サーバ IP アドレス]をプロバイダ提供のアカウント情報を元に設定してください。

⑤ セキュリティレベル

『[付録・新規プロバイダ設定](#)』と『[付録・セキュリティレベル](#)』を確認し、[セキュリティレベル]を選択してください。

⑥ 設定保存ボタン

入力が完了しましたら設定保存ボタンを押してください。

プロバイダ情報を変更する

プロバイダ情報の変更には編集、削除、追加があります。『[プロバイダ設定](#)』と同じように自動設定される項目があります。編集、削除、追加で自動設定される項目は異なりますので『[付録・プロバイダ設定詳細](#)』の編集、削除、追加の各項目を確認してから変更をしてください。

- 設定変更後の際は設定データのアップロードを行い、設定データのバックアップを行ってください。アップロードについては『[設定データをアップロードする](#)』を参照してください。
- 設定変更後に設定データのアップロードが行われていない場合、装置再起動時に設定データが設定変更前の状態に戻ってしまう可能性があります。

◆ プロバイダ情報(PPPoE)を編集する

編集ではプロバイダの接続方法を除く設定の編集が可能です。プロバイダの接続方法を変更するには現在のプロバイダ情報を削除する必要があります。プロバイダ情報の削除については『[プロバイダ情報を削除する](#)』を参照してください。

PPPoE には端末型接続と LAN 型接続の 2 種類がありますが、入力する項目に違いはありません。ただし、自動設定される項目には違いがありますので『[付録・新規プロバイダ設定](#)』でそれぞれの差分について確認してから設定を行ってください。

1 プロバイダ設定画面を表示する

インターネットへの接続設定をかんたん設定で行います

詳細設定や本装置の保守を行います

プロバイダ設定

詳細設定と保守

プロバイダ状態

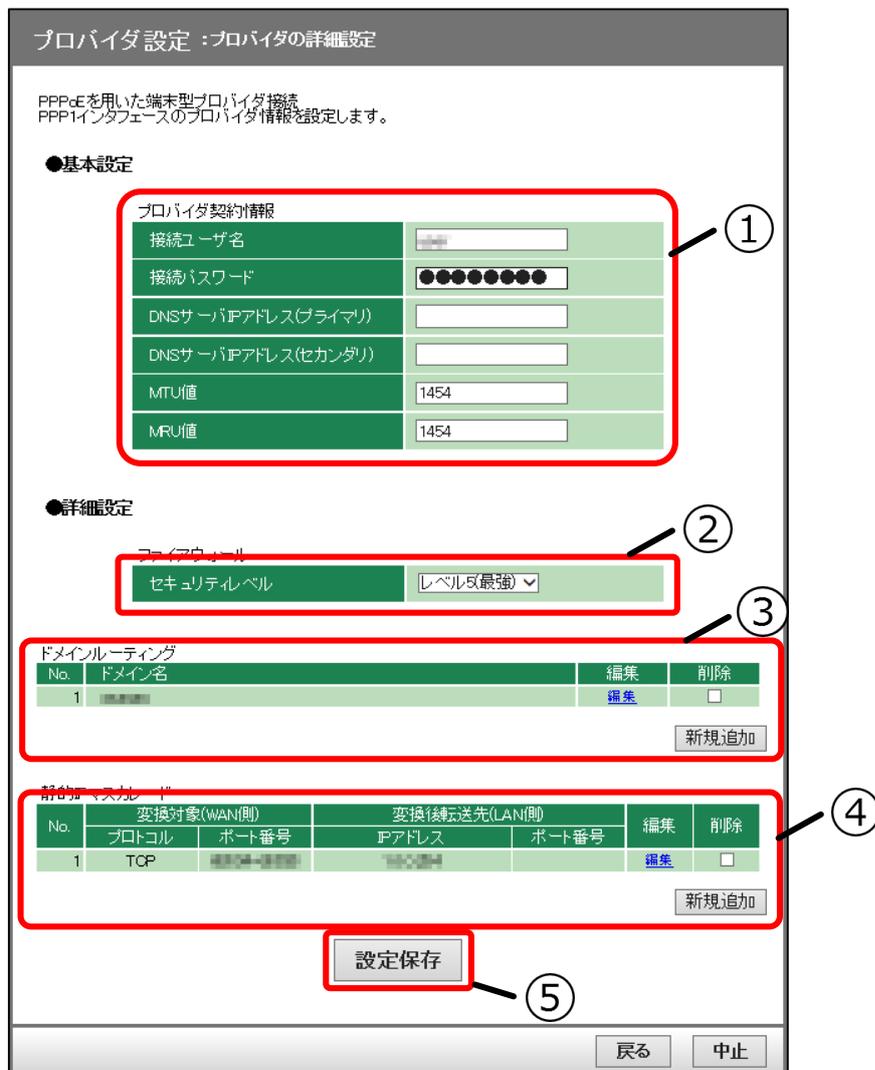
インタフェース	状態	IPアドレス	操作
PPPoE1	通信中	192.168.1.100	停止
PPPoE2	無効		開始
PPPoE3	無効		開始
PPPoE4	無効		開始
PPPoE5	無効		開始

Version : 01.00

2 プロバイダ編集画面を表示する



3 プロバイダ情報を編集する



①プロバイダ契約情報

『[プロバイダ設定](#)』と同じ設定項目が表示されます。

②セキュリティレベル

『[プロバイダ設定](#)』と同じ設定項目が表示されます。

③ドメインルーティング

ドメインルーティングを新規追加する場合

新規追加ボタンを押すことで現在設定している WAN インタフェースを経路先とするドメインを設定できます。詳しくは『[ドメインルーティングを設定する](#)』を参照してください。

登録されているドメインルーティングを編集する場合

編集を押すことで、ドメインルーティングの設定を編集できます。詳しくは『[ドメインルーティングを設定する](#)』を参照してください。

登録されているドメインルーティングを削除する場合

削除のチェックボックスにチェックを入れ、**設定保存**ボタンを押すことで設定が削除されます。

④静的 IP マスカレード

静的 IP マスカレードを新規追加する場合

新規追加ボタンを押すことで現在設定している WAN インタフェースを対象とする静的 IP マスカレードを設定できます。詳しくは『[静的 IP マスカレード設定を設定する](#)』を参照してください。

登録されている静的 IP マスカレードを編集する場合

編集を押すことで、静的 IP マスカレードの設定を編集できます。詳しくは『[静的 IP マスカレード設定を設定する](#)』を参照してください。

登録されている静的 IP マスカレードを削除する場合

削除のチェックボックスにチェックを入れ、**設定保存**ボタンを押すことで設定が削除されます。

⑤**設定保存**ボタン

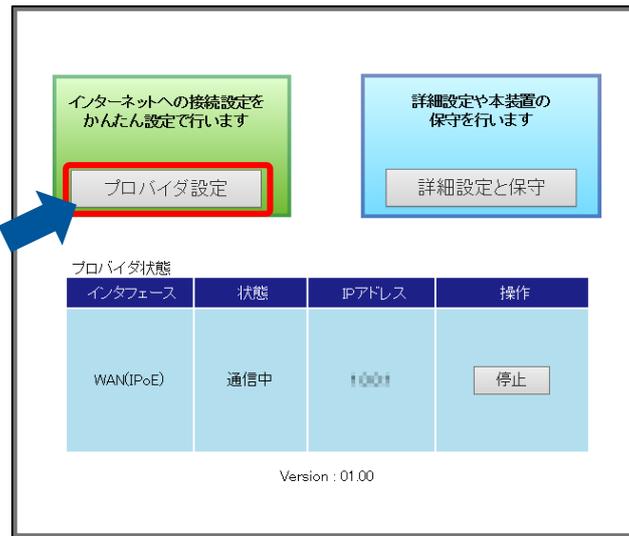
設定が完了しましたら**設定保存**ボタンを押してください。

◆ プロバイダ情報(IPoE)を編集する

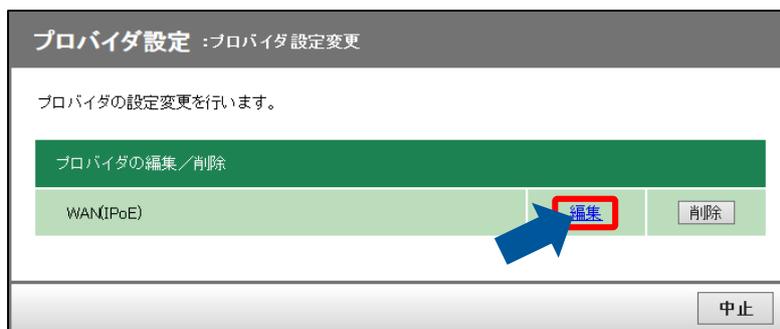
編集ではプロバイダの接続方法を除く設定の編集が可能です。プロバイダの接続方法を変更するには現在のプロバイダ情報を削除する必要があります。プロバイダ情報の削除については『[プロバイダ情報を削除する](#)』を参照してください。

自動設定される項目については『[付録・プロバイダ設定編集](#)』を確認してから編集を行ってください。手順はIPoE(固定IPアドレス)を例に説明します。IPoE(DHCP)を編集する場合は読み替えてください。

1 プロバイダ設定画面を表示する



2 プロバイダ編集画面を表示する



3 プロバイダ情報を編集する

プロバイダ設定 : プロバイダの詳細設定

IPv6(固定)を用いた端末型プロバイダ接続
WAN(IPv6)インタフェースのプロバイダ情報を設定します。

●基本設定

プロバイダ契約情報

IPアドレス	<input type="text"/>
サブネットマスク	<input type="text"/>
ゲートウェイIPアドレス	<input type="text"/>
DNSサーバIPアドレス(プライマリ)	<input type="text"/>
DNSサーバIPアドレス(セカンダリ)	<input type="text"/>
MTU値	<input type="text" value="1500"/>

●詳細設定

ファイアウォール

セキュリティレベル

ドメインルーティング

No.	ドメイン名	編集	削除
1	<input type="text"/>	<input type="button" value="編集"/>	<input type="checkbox"/>

静的IP マスカレード

No.	変換対象(WAN側)		変換後転送先(LAN側)		編集	削除
	プロトコル	ポート番号	IPアドレス	ポート番号		
1	TCP	<input type="text"/>	<input type="text"/>	<input type="text"/>	<input type="button" value="編集"/>	<input type="checkbox"/>

①プロバイダ契約情報

『[プロバイダ設定](#)』と同じ設定項目が表示されます。

②セキュリティレベル

『[プロバイダ設定](#)』と同じ設定項目が表示されます。

③ドメインルーティング

ドメインルーティングを新規追加する場合

ボタンを押すことで現在設定している WAN インタフェースを経路先とするドメインを設定できます。詳しくは『[ドメインルーティングを設定する](#)』を参照してください。

登録されているドメインルーティングを編集する場合

編集を押すことで、ドメインルーティングの設定を編集できます。詳しくは『[ドメインルーティングを設定する](#)』を参照してください。

登録されているドメインルーティングを削除する場合

削除のチェックボックスにチェックを入れ、ボタンを押すことで設定が削除されます。

④ 静的 IP マスカレード

静的 IP マスカレードを新規追加する場合

新規追加ボタンを押すことで現在設定している WAN インタフェースを対象とする静的 IP マスカレードを設定できます。詳しくは『[静的 IP マスカレード設定を設定する](#)』を参照してください。

登録されている静的 IP マスカレードを編集する場合

編集を押すことで、静的 IP マスカレードの設定を編集できます。詳しくは『[静的 IP マスカレード設定を設定する](#)』を参照してください。

登録されている静的 IP マスカレードを削除する場合

削除のチェックボックスにチェックを入れ、**設定保存**ボタンを押すことで設定が削除されます。

⑤ 設定保存ボタン

設定が完了しましたら**設定保存**ボタンを押してください。

◆ プロバイダ情報を削除する

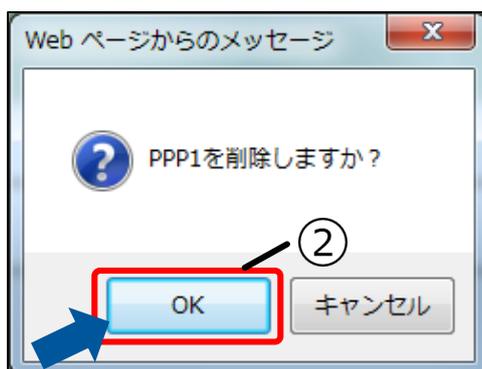
削除では登録されているプロバイダ情報の削除が可能です。削除を行うと自動設定が行われます。自動設定される項目については『[付録・プロバイダ設定削除](#)』を確認してから削除を行ってください。

手順は PPPoE で行っていますが、IPoE も同様の手順で削除が行えます。IPoE を削除する場合は読み替えて削除を行ってください。

1 プロバイダ設定画面を表示する



2 プロバイダ情報を削除する



①削除ボタン

削除ボタンを押すと削除操作に対するメッセージが表示されます。

②OKボタンを押す

削除操作に対するメッセージです。削除する対象に間違いがなければOKボタンを押してください。

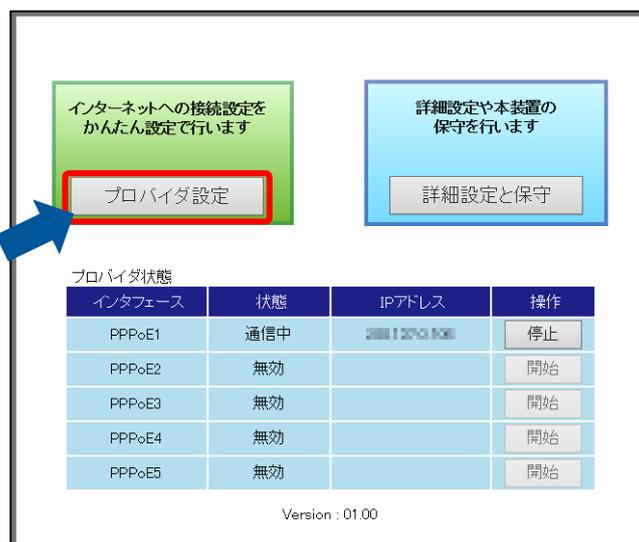
トップページに戻り、プロバイダ情報が削除されているか確認してください。

◆ プロバイダ情報(PPPoE)を追加する

追加ではプロバイダの接続方法に PPPoE 接続を選択している場合に可能です。複数の PPPoE セッションを接続する場合に使用します。

プロバイダ情報の追加と『[プロバイダ設定](#)』とでは自動設定される項目が異なります。『[付録・プロバイダ設定追加](#)』で自動設定される項目を確認してから追加を行ってください。

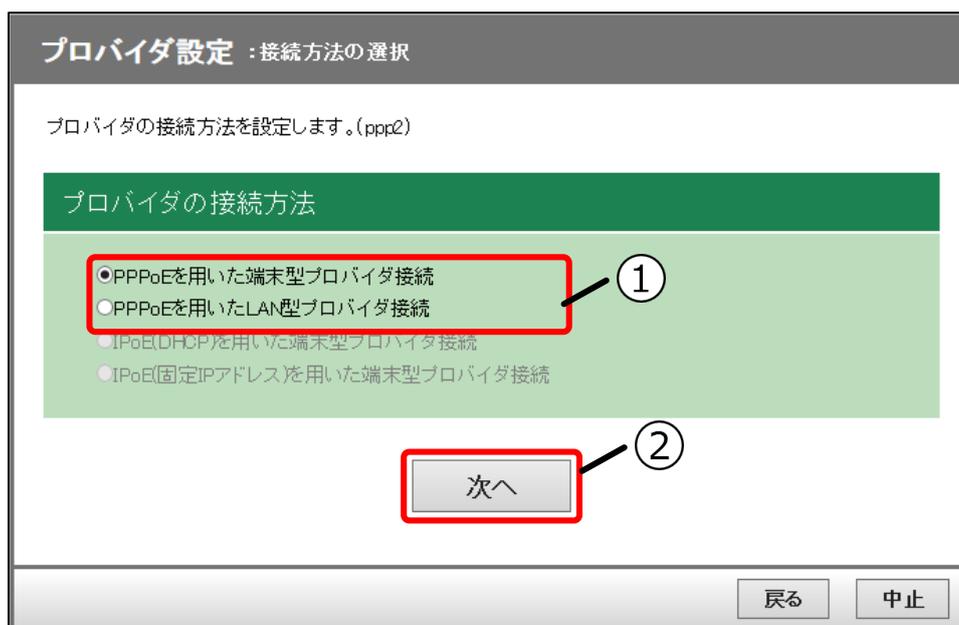
1 プロバイダ設定画面を表示する



2 追加する PPP を選択する



3 プロバイダの接続方法を選択する



①プロバイダの接続方法

[プロバイダの接続方法]を選択してください。『[プロバイダ設定](#)』とは異なり、選択できるプロバイダの接続方法は PPPoE に限ります。

②次へボタン

次へボタンを押してください。

プロバイダ情報の入力画面が表示されます。以降の手順は『[プロバイダ設定](#)』と同様です。『[プロバイダ設定](#)』を参照し、設定してください。自動設定される項目については『[付録・プロバイダ設定追加](#)』を参照してください。

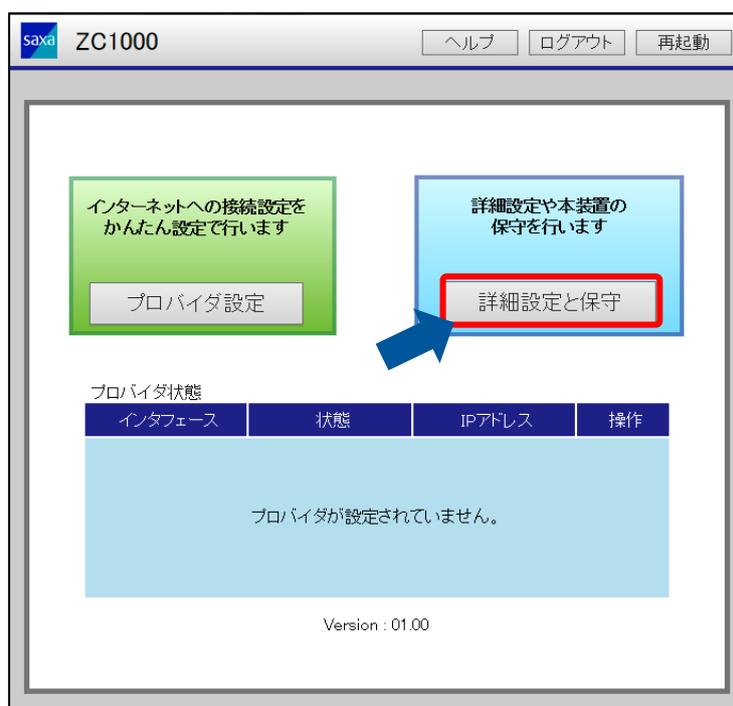
詳細設定と保守

詳細設定と保守では『[プロバイダ設定](#)』に比べ、より細かな設定が可能です。初期化や再起動ができ、設定次第ではネットワークに接続できなくなることがあります。詳細設定と保守はネットワーク知識、接続先環境に詳しい方以外使用しないでください。

- 設定変更後の際は設定データのアップロードを行い、設定データのバックアップを行ってください。アップロードについては『[設定データをアップロードする](#)』を参照してください。
- 設定変更後に設定データのアップロードが行われていない場合、装置再起動時に設定データが設定変更前の状態に戻ってしまう可能性があります。

◆ 画面の説明

1 詳細設定と保守画面を表示する



2 詳細設定と保守画面について

The screenshot shows the ZC1000 management interface. At the top left is the 'saxa ZC1000' logo. To the right are buttons for 'ヘルプ', 'ログアウト', and '再起動'. A left sidebar menu is highlighted with a red box and labeled '1', containing 'トップページへ戻る', 'システム情報', '基本設定', 'その他設定', and 'システム保守'. The main content area is titled '詳細設定と保守' (Detailed Settings and Maintenance) and labeled '2'. A red box highlights a warning message: '注意事項 ブラウザソフトのJavaScriptの設定は、必ず「有効」にしてご使用ください。' (Note: Browser software JavaScript settings must be set to 'Enabled' for use) and labeled '3'. Below the warning is a table with system information:

システムバージョン	01.00
MACアドレス(WAN)	*****
MACアドレス(LAN)	*****

The main content area is also labeled '4'.

①メニュー

各設定項目への移動に使用します。詳しくは『[メニュー](#)』を参照してください。

②ページ名称

メイン画面に表示している設定項目名称を表示します。

③メッセージ

注意事項やエラーなどのメッセージを表示します。

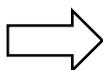
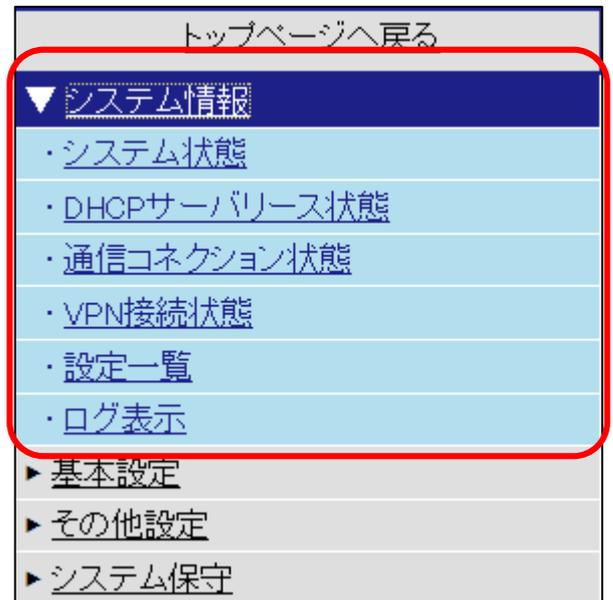
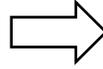
④メイン画面

情報の表示や設定項目を表示します。詳しくは『[メイン画面](#)』を参照してください。

● メニュー

メニューからは各設定項目を表示できます。

メニューは階層で構成されます。背景が灰色の項目は次の階層を持っており、項目を押すことで次の階層を表示することができます。背景が水色の項目を押すとメイン画面に設定画面が表示されます。



● メイン画面

メイン画面では表示した機能の設定ができます。

設定項目には表示されていない設定項目、入力が禁止されている設定項目、設定可能な設定項目があります。

設定項目のうち、次の接続種別のように「無効」を選択していると設定項目を表示しないものがあります。

また、次の IP アドレスのように設定項目が表示されても入力が禁止されている設定項目があります。

入力の可能・不可能はその項目の前段に当たる項目が無効・未選択の場合です。

ここでは IP アドレス設定方法を手動設定にすることで入力が可能になります。設定が可能な項目は背景が白色になります。

◆ <詳細設定>

詳細設定について説明します。目的から参照先を選択してください。

P.41 インターネットへ接続する

P.50 LAN の情報を設定する

P.55 ルーティング情報を設定する

P.62 アドレス変換情報を設定する

P.70 SNMP 情報を設定する

P.73 ブリッジ情報を設定する

P.74 ファイアウォール機能を設定する

P.85 優先・帯域制御を設定する

P.92 UPnP 情報を設定する

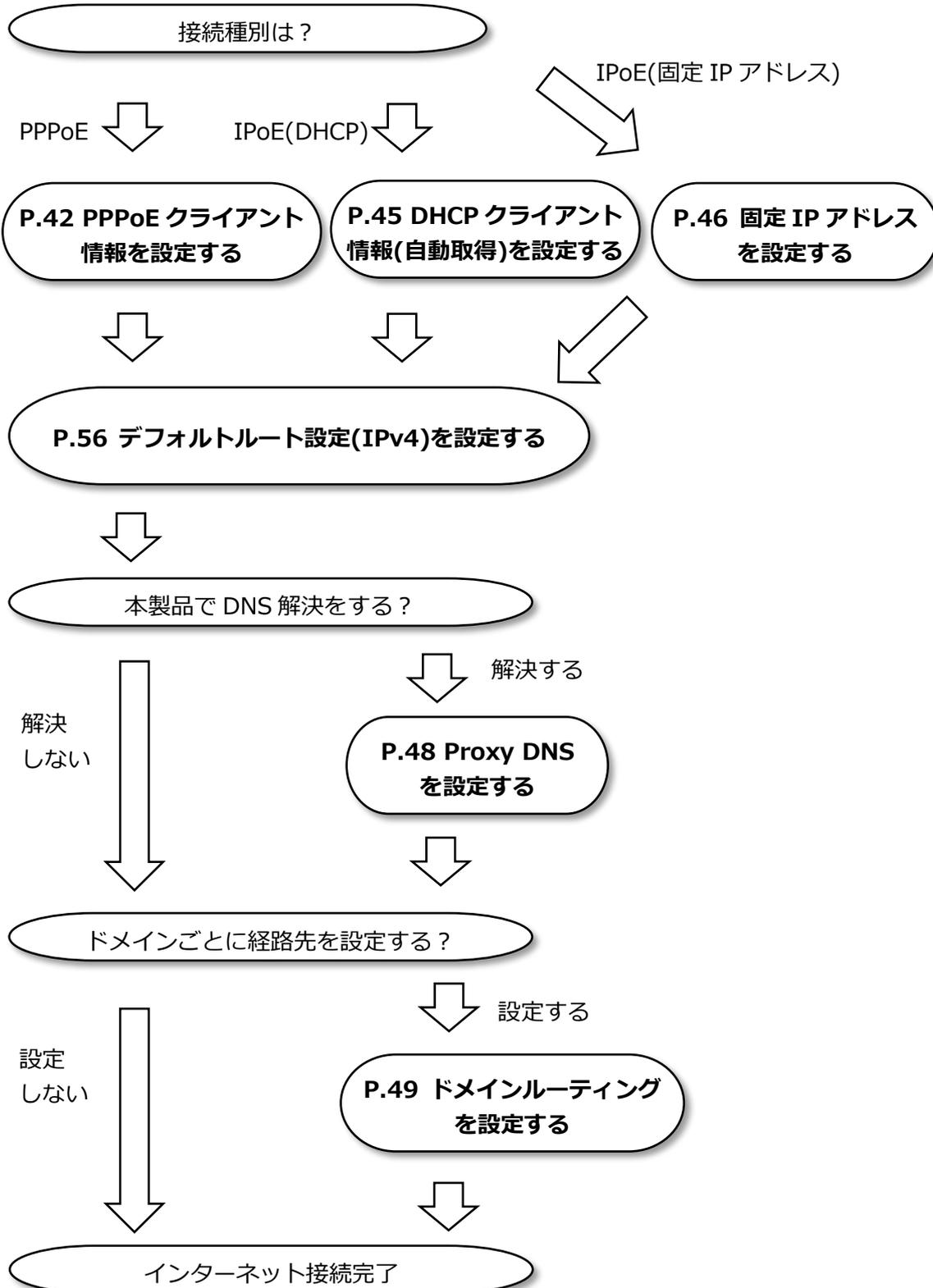
P.93 VPN パススルー機能を設定する

◆ インターネットへ接続する

インターネットへ接続する設定を行います。

お客様の契約したインターネット接続サービスに合わせて、説明をご覧ください。

- インターネットプロバイダ (プロバイダ) から提供されたアカウント情報をお手元にご用意ください。



● PPPoE クライアント情報を設定する

PPPoE クライアント情報を設定します。

1 WAN/プロバイダ画面を表示する



2 接続種別で PPPoE (IPv4) を選択する



3 PPPoE 設定(IPv4)の編集画面を表示する

機能設定					
接続種別		PPPoE(IPv4) ▼			
設定保存		元に戻す			
PPPoE設定(IPv4)					
No.	インターフェース名	PPPoEセッション	接続方式	接続ユーザー名	編集
1	PPP1	無効	常時接続		編集
2	PPP2	無効	常時接続		編集
3	PPP3	無効	常時接続		編集
4	PPP4	無効	常時接続		編集
5	PPP5	無効	常時接続		編集

4 PPPoE セッションを設定する

PPPoEセッション1	
基本設定	
PPPoEセッション	<input type="radio"/> 無効 <input checked="" type="radio"/> 有効 ①
接続方式	<input checked="" type="radio"/> 常時接続 <input type="radio"/> 要求時接続 ②
認証方式	自動 ▼ ③
接続ユーザ名	<input type="text"/> ④
接続パスワード	<input type="text"/> ⑤
詳細設定 (IPv4)	
IPアドレス設定方式	自動取得 ▼ ⑥
IPアドレス	<input type="text"/> ⑦
DNSサーバIPアドレス(プライマリ)	<input type="text"/>
DNSサーバIPアドレス(セカンダリ)	<input type="text"/>
自動切断機能	<input type="radio"/> 無効 <input checked="" type="radio"/> 有効
自動切断監視時間	5 <input type="text"/> 分 ⑧
MTU値	1454 <input type="text"/> ⑨
MRU値	1454 <input type="text"/>
⑩ <input type="button" value="設定保存"/> <input type="button" value="元に戻す"/>	

① PPPoE セッション

「有効」を選択してください。

② 接続方式

PPPoE セッションを常に接続する場合

「常時接続」のまま変更しないでください。
通常はこちらで問題ありません。

PPPoE セッションを要求があった時に接続し、自動で切断する場合

「要求時接続」を選択すると新たに自動切断機能が有効になります。
自動切断機能を「有効」として、自動切断監視時間を入力してください。

接続方式	<input type="radio"/> 常時接続 <input checked="" type="radio"/> 要求時接続	要求時接続
自動切断機能	<input type="radio"/> 無効 <input checked="" type="radio"/> 有効	自動切断機能
自動切断監視時間	5 <input type="text"/> 分	自動切断監視時間

PPPoE セッションを要求があった時に接続し、自動で切断しない場合

「要求時接続」を選択すると新たに自動切断機能が有効になります。
自動切断機能を「無効」としてください。

接続方式	<input type="radio"/> 常時接続 <input checked="" type="radio"/> 要求時接続
自動切断機能	<input checked="" type="radio"/> 無効 <input type="radio"/> 有効
自動切断監視時間	5 分

注釈: 要求時接続 (接続方式欄)
注釈: 自動切断機能 (自動切断機能欄)

③認証方式

通常は「自動」のままご使用ください。

④接続ユーザ名

[接続ユーザ名]にプロバイダ提供のアカウント情報を元に入力してください。

⑤接続パスワード

[接続パスワード]にプロバイダ提供のアカウント情報を元に入力してください。

⑥IP アドレス設定方式**プロバイダから IP アドレスを指定されていない場合**

「自動取得」のまま変更しないでください。

プロバイダから IP アドレスを指定されている場合

「手動設定」を選択すると新たに IP アドレスの入力フォームが有効になります。プロバイダ提供のアカウント情報から指定の IP アドレスを入力してください。

IPアドレス設定方式	<input checked="" type="radio"/> 手動設定
IPアドレス	<input type="text"/>

注釈: 手動設定 (IPアドレス設定方式欄)
注釈: IP アドレス (IPアドレス欄)

複数の IP アドレスを割り当てるサービスをご契約の場合

「unnumbered」を選択してください。

⑦DNS サーバ IP アドレス

[DNS サーバ IP アドレス]をプロバイダ提供のアカウント情報を元に入力してください。

⑧MTU 値

通常は初期状態のままご使用ください。

⑨MRU 値

通常は初期状態のままご使用ください。

⑩設定保存ボタン

入力が完了しましたら設定保存ボタンを押してください。

● DHCP クライアント情報(自動取得)を設定する

DHCP クライアント情報(自動取得)を設定します。

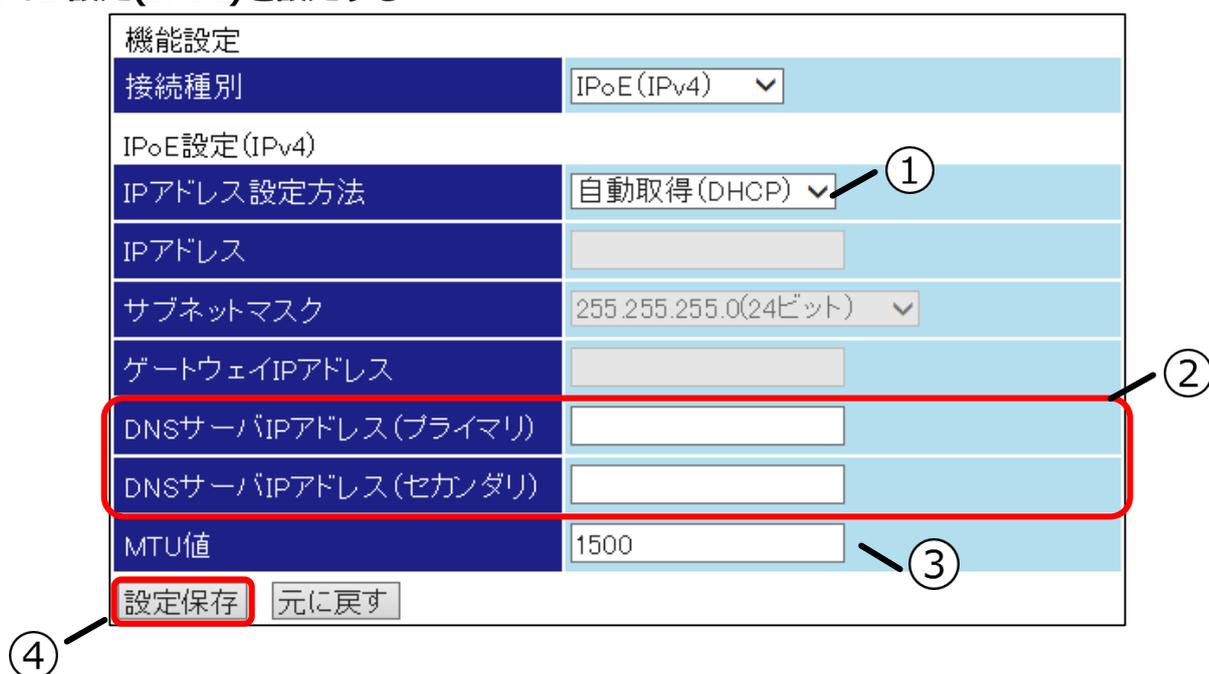
1 WAN/プロバイダ画面を表示する



2 接続種別を IPoE(IPv4)に設定する



3 IPoE 設定(IPv4)を設定する



①IP アドレス設定方法

「自動取得(DHCP)」が選択されていることを確認してください。

②DNS サーバ IP アドレス

[DNS サーバ IP アドレス] をプロバイダ提供のアカウント情報を元に入力してください。

③MTU 値

通常は初期状態のままご使用ください。

④設定保存ボタン

入力が完了しましたら設定保存ボタンを押してください。

● 固定 IP アドレスを設定する

固定 IP アドレスを設定します。

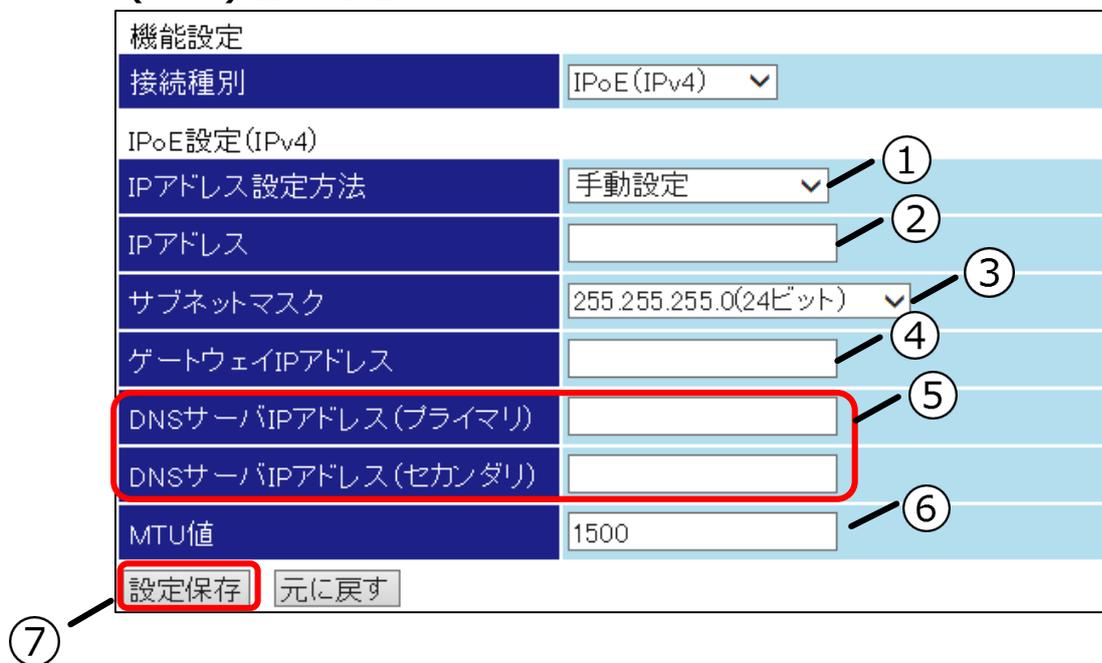
1 WAN/プロバイダ画面を表示する



2 接続種別で IPoE(IPv4)を選択する



3 IPoE 設定(IPv4)を設定する



① IP アドレス設定方法

「手動設定」を選択してください。

② IP アドレス

[IP アドレス]をプロバイダ提供のアカウント情報を元に設定してください。

③ サブネットマスク

[サブネットマスク]をプロバイダ提供のアカウント情報を元に設定してください。

④ ゲートウェイ IP アドレス

[ゲートウェイ IP アドレス]をプロバイダ提供のアカウント情報を元に入力してください。

⑤ DNS サーバ IP アドレス

[DNS サーバ IP アドレス]をプロバイダ提供のアカウント情報を元に設定してください。

⑥ **MTU 値**

通常は初期状態のままご使用ください。

⑦ **設定保存ボタン**

入力が完了しましたら**設定保存**ボタンを押してください。

● Proxy DNS を設定する

Proxy DNS を設定します。

1 DNS 画面を表示する



2 Proxy DNS 設定(IPv4)を設定する

 A screenshot of the 'Proxy DNS設定 (IPv4)' (Proxy DNS Settings (IPv4)) page. The page has a light blue background. At the top, the title 'Proxy DNS設定 (IPv4)' is displayed. Below it, there are two main sections. The first section is 'DNS問い合わせ先' (DNS Query Destination), which has a dropdown menu currently showing 'PPP1' with a checkmark and a circled '1' next to it. The second section is 'ドメインルーティング設定' (Domain Routing Settings), which includes a 'ドメインルーティング機能' (Domain Routing Function) with two radio buttons: '無効' (Disabled) and '有効' (Enabled). At the bottom left, there are two buttons: '設定保存' (Save Settings) and '元に戻す' (Reset), with a circled '2' next to the '設定保存' button.

①DNS 問い合わせ先

選択できる問い合わせ先は接続種別設定により異なります。設定にあわせて問い合わせ先のインタフェースを選択してください。

IPoE(IPv4)を接続種別に選択している場合

「WAN(IPoE)」を選択してください。

PPPoE(IPv4)を接続種別に選択している場合

「PPP1～5」のうち、有効にしているものを選択してください。

②設定保存ボタン

入力が完了しましたら設定保存ボタンを押してください。

● ドメインルーティングを設定する

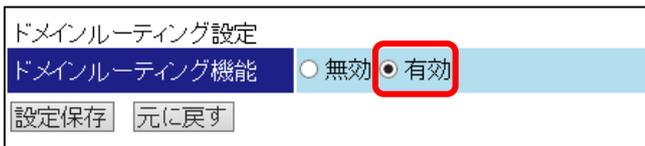
ドメインルーティングを設定します。

ドメインルーティングを設定することでドメインごとに経路先を指定できます。

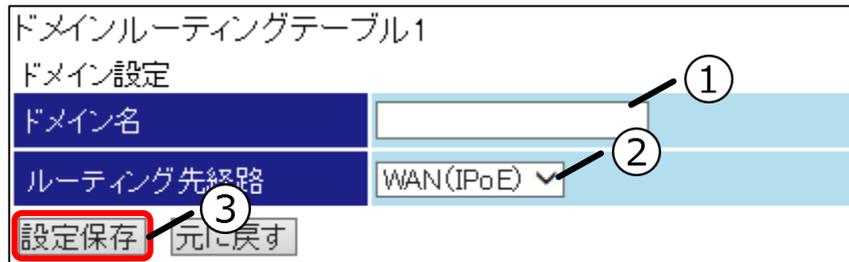
1 DNS 画面を表示する



2 ドメインルーティング機能を有効にする



4 ドメイン設定を設定する



①ドメイン名

ルーティング先を指定する「ドメイン名」を入力してください。

②ルーティング先経路

選択できる問い合わせ先は接続種別設定により異なります。設定にあわせてルーティング先のインタフェースを選択してください。

IPoE(IPv4)を接続種別に選択している場合

「WAN(IPoE)」を選択してください。

PPPoE(IPv4)を接続種別に選択している場合

「PPP1～5」のうち、有効にしているものを選択してください。

③設定保存ボタン

入力が完了しましたら設定保存ボタンを押してください。

3ドメインルーティングテーブルの編集画面を表示する

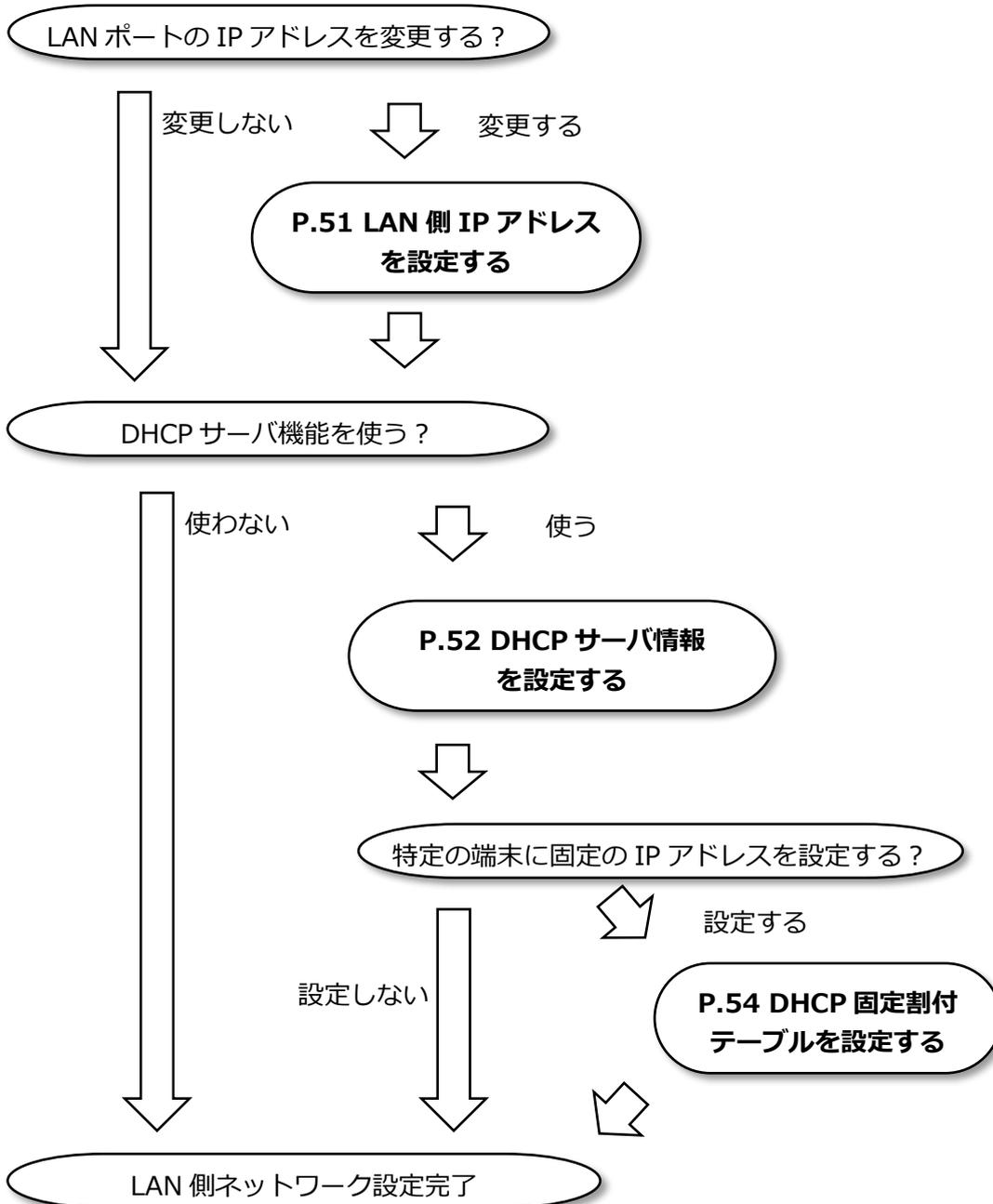
No.	ドメイン名	ルーティング先経路	編集	削除
1			編集	<input type="checkbox"/>
2			編集	<input type="checkbox"/>
3			編集	<input type="checkbox"/>
4			編集	<input type="checkbox"/>

テーブルの登録後に削除を行う場合は、本画面の削除チェックボックスにチェックを入れ、**選択した設定を削除**ボタンを押してください。

◆ LAN の情報を設定する

LAN 側ネットワークの設定を行います。

- 本設定は LAN 側ネットワークに大きく影響しますのでご注意ください。



● LAN 側 IP アドレスを設定する

LAN 側 IP アドレスを設定します。

LAN 側 IP アドレスの変更には再起動が必要です。再起動後の本製品の IP アドレスは変更後の IP アドレスになりますのでご注意ください。

1 LAN 画面を表示する



2 IP アドレス設定(IPv4)を設定する

IPアドレス設定 (IPv4)									
IPアドレス	192.168.100.1 ①								
サブネットマスク	255.255.255.0(24ビット) ②								
<table border="1"> <tr> <td>99</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>100</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table> ③		99				100			
99									
100									
<input type="button" value="設定保存"/> <input type="button" value="元に戻す"/>									

① IP アドレス

設定する[IP アドレス]を入力してください。

② サブネットマスク

[サブネットマスク]を設定してください。

③ 設定保存ボタン

入力が完了しましたら設定保存ボタンを押してください。設定した IP アドレスは再起動後に有効になります。再起動方法については『[本製品を再起動する](#)』を参照してください。

● DHCP サーバ情報を設定する

DHCP サーバ情報を設定します。

DHCP サーバを使用することで LAN 側ネットワーク端末の IP アドレスを管理することができます。

1 LAN 画面を表示する



2 DHCP サーバ設定(IPv4)を設定する

機能設定 (IPv4)											
DHCPサーバ	<input type="radio"/> 無効 <input checked="" type="radio"/> 有効 ①										
DHCPサーバ設定 (IPv4)											
払出し先頭IPアドレス	192.168.100.10 ②										
払出し終了IPアドレス	192.168.100.69										
払出しIPアドレス個数	60 ③										
リース時間	24 時間 ④										
ゲートウェイIPアドレス	192.168.100.1 ⑤										
DNSサーバIPアドレス (プライマリ)	192.168.100.1										
DNSサーバIPアドレス (セカンダリ)											
WINSサーバIPアドレス (プライマリ)											
WINSサーバIPアドレス (セカンダリ)											
<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 10%;">99</td> <td style="width: 40%;"></td> <td style="width: 10%;"></td> <td style="width: 10%;"></td> <td style="width: 10%;"></td> </tr> <tr> <td>100</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table>		99					100				
99											
100											
<input style="border: 1px solid red; border-radius: 50%; padding: 2px;" type="button" value="設定保存"/> <input type="button" value="元に戻す"/> ⑥											

① DHCP サーバ

「有効」が選択されていることを確認してください。

② 払出し先頭 IP アドレス

払出す個数を考慮し、ネットワーク内で重複しない IP アドレスを入力してください。

③ 払出し IP アドレス個数

払出す IP アドレスの個数を入力してください。

④ リース時間

払出した IP アドレスのリース時間を入力してください。通常は変更の必要はありません。

⑤ サーバ情報

LAN 側ネットワークに存在するサーバ情報を入力してください。IP アドレスとともに配布されます。

⑥ 設定保存ボタン

入力が完了しましたら設定保存ボタンを押してください。

● DHCP 固定割付テーブルを設定する

DHCP 固定割付テーブルを設定します。

指定の MAC アドレスを持つ端末に対して固定の IP アドレスを払い出すことができます。

1 LAN 画面を表示する



2 DHCP 固定割付テーブル(IPv4)を設定する

DHCP固定割付テーブル (IPv4)			
No.	固定割付IPアドレス	対象MACアドレス	
1	<input type="text"/>	<input type="text"/>	
2	<input type="text"/>	<input type="text"/>	
3	<input type="text"/>	<input type="text"/>	
<input type="button" value="設定保存"/> <input type="button" value="元に戻す"/>			

①固定割付 IP アドレス

LAN 側ネットワークで重複しないよう IP アドレスを入力してください。

②対象 MAC アドレス

固定 IP アドレスを割付ける端末の MAC アドレスを入力してください。

③設定保存ボタン

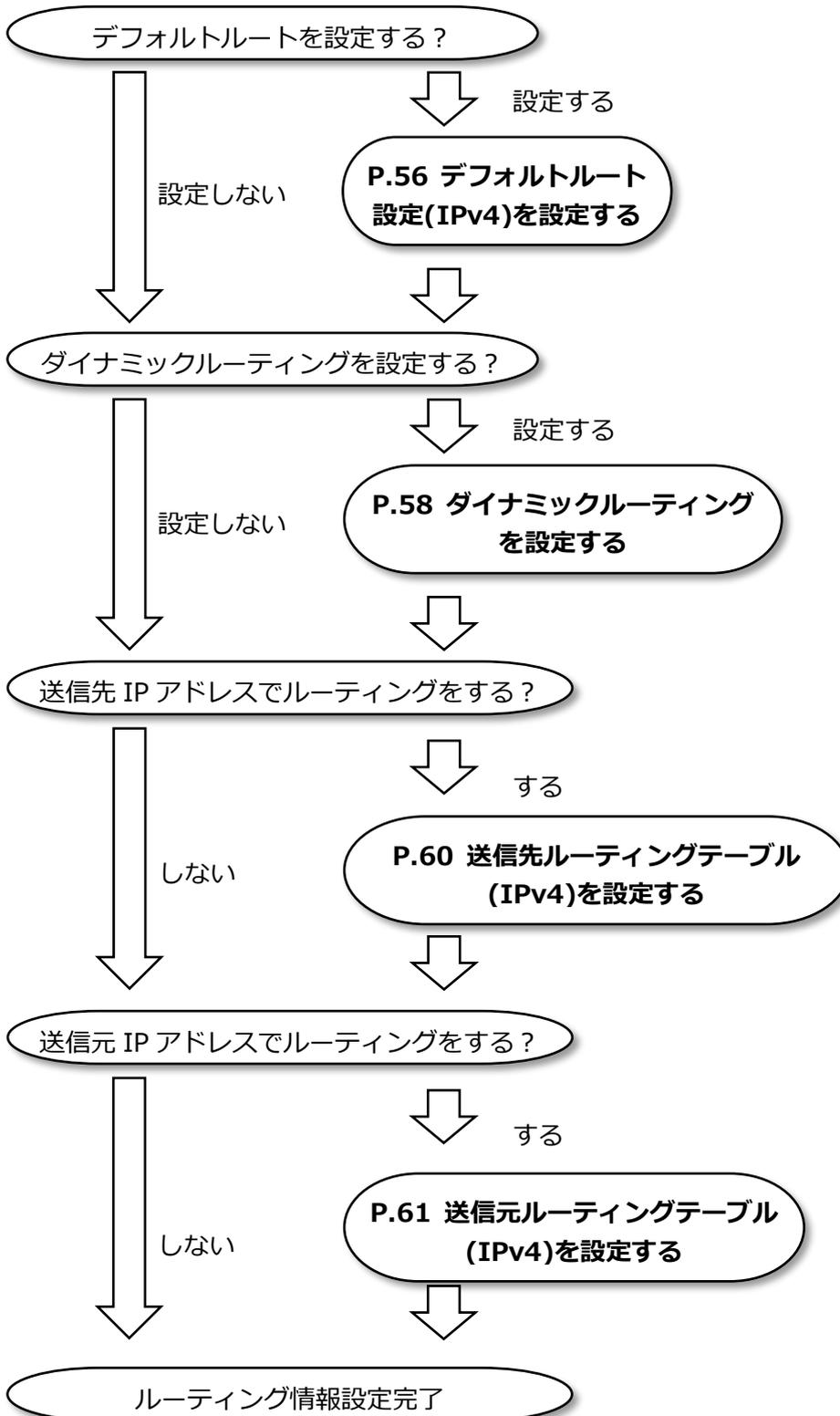
入力が完了しましたら設定保存ボタンを押してください。

◆ ルーティング情報を設定する

ルーティング情報の設定を行います。

ルーティング情報を設定することで条件に該当するパケットを特定の経路先へ送信することができます。

- ネットワークに詳しい方以外は本設定を行わないようにしてください。



● デフォルトルート設定(IPv4)を設定する

デフォルトルート設定(IPv4)を設定します。

1 ルーティング画面を表示する



2 デフォルトルート設定(IPv4)を設定する

デフォルトルート設定(IPv4)	
デフォルトゲートウェイ	<input type="radio"/> 無効 <input checked="" type="radio"/> 有効 ①
経路先	PPP1 ②
経路先ゲートウェイIPアドレス	<input type="text"/>
ダイナミックルーティング設定	
RIP機能	<input checked="" type="radio"/> 無効 <input type="radio"/> 有効
送信設定(LAN)	RIPv1
受信設定(LAN)	RIPv1/RIPv2
認証方式(LAN)	なし
認証テキスト(LAN)	<input type="text"/>
認証キー(LAN)	<input type="text"/>
送信設定(WAN)	RIPv1
受信設定(WAN)	RIPv1/RIPv2
認証方式(WAN)	なし
認証テキスト(WAN)	<input type="text"/>
認証キー(WAN)	<input type="text"/>
<input checked="" type="button" value="設定保存"/> <input type="button" value="元に戻す"/>	

③

①デフォルトゲートウェイ

「有効」が選択されていることを確認してください。

②経路先

デフォルトルート設定(IPv4)で使用するインタフェースを選択してください。

選択できるインタフェースは接続種別設定により異なります。

IPoE(IPv4)を接続種別に選択している場合

「WAN(IPoE)」を選択してください。

PPPoE(IPv4)を接続種別に選択している場合

「PPP1～5」のうち、有効にしているものを選択してください。

経路先を IP アドレスで指定する場合

経路先を IP アドレスで指定する場合は「IP アドレス指定」を選択してください。「IP アドレス指定」を選択すると[経路先ゲートウェイ IP アドレス]が有効になります。経路先となる IP アドレスを入力してください。

The image shows a configuration form with two rows. The first row is labeled '経路先' (Destination) and has a dropdown menu with 'IPアドレス指定' (IP Address Designation) selected. A callout box points to this dropdown with the text 'IP アドレス指定'. The second row is labeled '経路先ゲートウェイIPアドレス' (Destination Gateway IP Address) and has an empty text input field. A callout box points to this field with the text '経路先ゲートウェイ IP アドレス'.

③設定保存ボタン

入力が完了しましたら設定保存ボタンを押してください。

● ダイナミックルーティングを設定する

ダイナミックルーティングを設定します。

ダイナミックルーティングで使用するプロトコルはRIPv1、RIPv2です。LAN、WANのそれぞれでプロトコルを設定します。ここではLAN、WANともにRIPv1での設定方法について説明します。

1 ルーティング画面を表示する



2 RIP 機能を有効にする

ダイナミックルーティング設定	
RIP機能	<input type="radio"/> 無効 <input checked="" type="radio"/> 有効
送信設定(LAN)	RIPv1
受信設定(LAN)	RIPv1/RIPv2
認証方式(LAN)	なし
認証テキスト(LAN)	
認証キー(LAN)	
送信設定(WAN)	RIPv1
受信設定(WAN)	RIPv1/RIPv2
認証方式(WAN)	なし
認証テキスト(WAN)	
認証キー(WAN)	
<input type="button" value="設定保存"/> <input type="button" value="元に戻す"/>	

3 ダイナミックルーティング設定を設定する

ダイナミックルーティング設定	
RIP機能	<input type="radio"/> 無効 <input checked="" type="radio"/> 有効
送信設定(LAN)	RIPv1
受信設定(LAN)	RIPv1/RIPv2
認証方式(LAN)	なし
認証テキスト(LAN)	
認証キー(LAN)	
送信設定(WAN)	RIPv1
受信設定(WAN)	RIPv1/RIPv2
認証方式(WAN)	なし
認証テキスト(WAN)	
認証キー(WAN)	
<input checked="" type="button" value="設定保存"/> <input type="button" value="元に戻す"/>	

① RIP機能 (有効)
 ② 送信設定(LAN) (RIPv1)
 ③ 受信設定(LAN) (RIPv1/RIPv2)
 ④ 送信設定(WAN) (RIPv1)
 ⑤ 受信設定(WAN) (RIPv1/RIPv2)
 ⑥ 認証方式(WAN) (なし)
 ⑦ 設定保存

①送信設定(LAN)

LAN インタフェースでルーティング情報の送信に使用するプロトコルを設定します。「RIPv1」から変更しないでください。

②受信設定(LAN)

LAN インタフェースで受信するルーティング情報のプロトコルを設定します。「RIPv1/RIPv2」から変更しないでください。

③認証方式(LAN)

RIPv1 では認証を使用できません。本例で設定した場合は受信したルーティング情報が RIPv2 の場合に使用されます。

④送信設定(WAN)

WAN インタフェースでルーティング情報の送信に使用するプロトコルを設定します。「RIPv1」から変更しないでください。

⑤受信設定(WAN)

WAN インタフェースで受信するルーティング情報のプロトコルを設定します。「RIPv1/RIPv2」から変更しないでください。

⑥認証方式(WAN)

RIPv1 では認証を使用できません。本例で設定した場合は受信したルーティング情報が RIPv2 の場合に使用されます。

⑦設定保存ボタン

入力が完了しましたら**設定保存**ボタンを押してください。

● 送信先ルーティングテーブル(IPv4)を設定する

送信先ルーティングテーブル(IPv4)を設定します。

送信先 IP アドレスごとにルーティングの経路先を変更できます。

1 ルーティング画面を表示する



2 送信先ルーティングテーブル(IPv4)の編集画面を表示する

No.	送信先IPアドレス/サブネットマスク長	ルーティング先経路 経路先ゲートウェイIPアドレス	編集	削除
1			編集	<input type="checkbox"/>
2			編集	<input type="checkbox"/>
3			編集	<input type="checkbox"/>

テーブルの登録後に削除を行う場合は、本画面の削除チェックボックスにチェックを入れ、**選択した設定を削除**ボタンを押してください。

3 送信先ルーティング設定(IPv4)を設定する

The screenshot shows the configuration form for '送信先ルーティング1設定(IPv4)'. It has four fields: '送信先IPアドレス' (1), '送信先サブネットマスク長' (2), 'ルーティング先経路' (3), and '経路先ゲートウェイIPアドレス'. At the bottom, there are '設定保存' (4) and '元に戻す' buttons.

①送信先 IP アドレス

[送信先 IP アドレス]を入力してください。

②送信先サブネットマスク長

[送信先 IP アドレス]で入力した IP アドレスのサブネットマスク長を選択してください。

③ルーティング経路先

インタフェースで指定する場合

「WAN(IPoE)」、「PPP1～PPP5」から選択してください。有効ではないインタフェースを選択した場合は無効となります。

IP アドレスで指定する場合

「IP アドレス指定」を選択してください。新たに[経路先ゲートウェイ IP アドレス]が有効になります。経路先ゲートウェイの IP アドレスを入力してください。

This close-up shows the 'ルーティング先経路' dropdown menu with 'IPアドレス指定' selected. Below it, the '経路先ゲートウェイIPアドレス' field is visible and highlighted with a callout box.

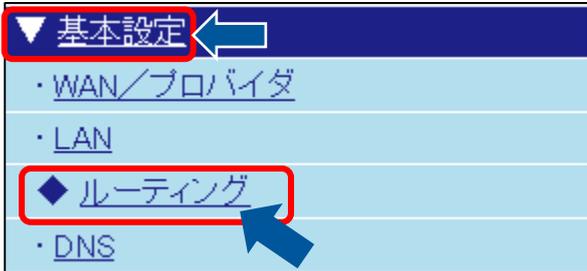
④設定保存ボタン

入力が完了しましたら**設定保存**ボタンを押してください。

● 送信元ルーティングテーブル(IPv4)を設定する

送信元ルーティングテーブル(IPv4)の設定方法を説明します。
送信元 IP アドレスごとにルーティングの経路先を変更できます。

1 ルーティング画面を表示する



2 送信元ルーティングテーブル(IPv4)の編集画面を表示する

No.	送信元IPアドレス/サブネットマスク長	ルーティング先経路 経路先ゲートウェイIPアドレス	編集	削除
1			編集	<input type="checkbox"/>
2			編集	<input type="checkbox"/>
3			編集	<input type="checkbox"/>
4			編集	<input type="checkbox"/>

テーブルの登録後に削除を行う場合は、本画面の削除チェックボックスにチェックを入れ、**選択した設定を削除**ボタンを押してください。

3 送信元ルーティング設定(IPv4)を設定する

送信元ルーティング1 設定(IPv4)

送信元IPアドレス ①

送信元サブネットマスク長 255.255.255.0(24ビット) ②

ルーティング先経路 PPP1 ③

経路先ゲートウェイIPアドレス

設定保存 ④

①送信元 IP アドレス

[送信元 IP アドレス]を入力してください。

②送信元サブネットマスク長

[送信元 IP アドレス]で入力した IP アドレスのサブネットマスク長を選択してください。

③ルーティング経路先

インタフェースで指定する場合

「WAN(IPoE)」、「PPP1~PPP5」から選択してください。有効ではないインタフェースを選択した場合は無効となります。

IP アドレスで指定する場合

「IP アドレス指定」を選択してください。新たに[経路先ゲートウェイ IP アドレス]が有効になります。経路先ゲートウェイの IP アドレスを入力してください。

ルーティング先経路 IPアドレス指定

経路先ゲートウェイIPアドレス

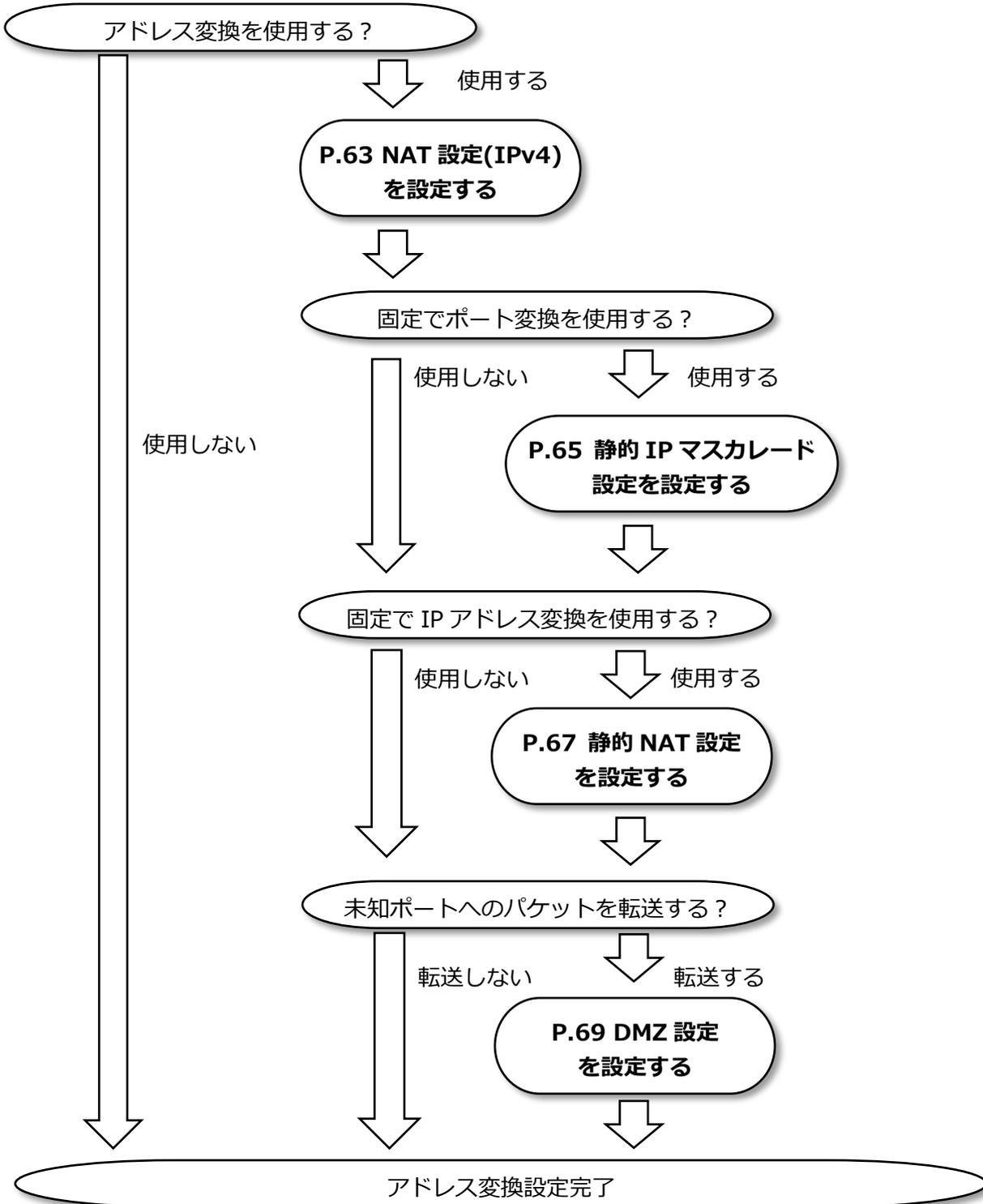
④設定保存ボタン

入力が完了しましたら**設定保存**ボタンを押してください。

◆ アドレス変換情報を設定する

アドレス変換情報を設定します。

- インターネットへの接続種別に注意して NAT の有無を設定してください。



● NAT 設定(IPv4)を設定する

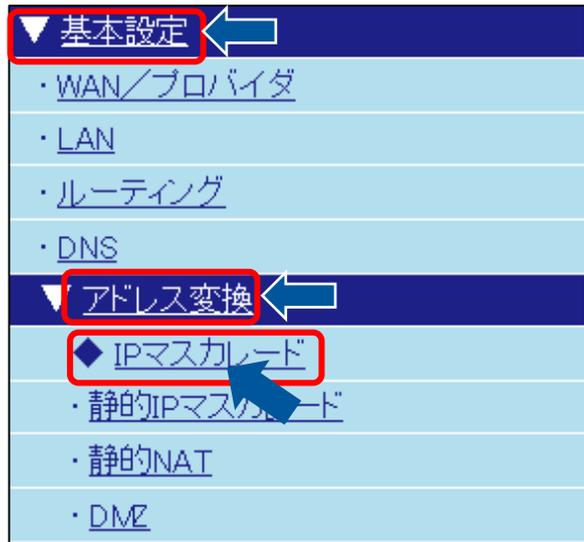
NAT 設定(IPv4)を設定します。

LAN 側の端末からインターネット等にアクセスする場合に、グローバルアドレスに変換して動作させることができます。

インタフェースごとに NAT 機能の有効/無効、変換に使用するポート番号について設定できます。変換後のポート番号は動的に割り当てられます。

初期ではすべてのインタフェースで NAT 機能が有効になっています。

1 IP マスカレード画面を表示する



2 NAT 設定(IPv4)が有効になっていることを確認する

NAT設定 (IPv4)		
WAN (IPv4E)	<input type="radio"/> 無効	<input checked="" type="radio"/> 有効
PPP1	<input type="radio"/> 無効	<input checked="" type="radio"/> 有効
PPP2	<input type="radio"/> 無効	<input checked="" type="radio"/> 有効
PPP3	<input type="radio"/> 無効	<input checked="" type="radio"/> 有効
PPP4	<input type="radio"/> 無効	<input checked="" type="radio"/> 有効
PPP5	<input type="radio"/> 無効	<input checked="" type="radio"/> 有効

3 IP マスカレード設定(IPv4)を設定する

IPマスカレード設定 (IPv4)		
WAN (IPv4E)利用ポート番号範囲 (TCP)	50000 ~ 59999	①
WAN (IPv4E)利用ポート番号範囲 (UDP)	50000 ~ 59999	
PPP1利用ポート番号範囲 (TCP)	50000 ~ 59999	
PPP1利用ポート番号範囲 (UDP)	50000 ~ 59999	
PPP2利用ポート番号範囲 (TCP)	50000 ~ 59999	
PPP2利用ポート番号範囲 (UDP)	50000 ~ 59999	
PPP3利用ポート番号範囲 (TCP)	50000 ~ 59999	
PPP3利用ポート番号範囲 (UDP)	50000 ~ 59999	
PPP4利用ポート番号範囲 (TCP)	50000 ~ 59999	
PPP4利用ポート番号範囲 (UDP)	50000 ~ 59999	
PPP5利用ポート番号範囲 (TCP)	50000 ~ 59999	
PPP5利用ポート番号範囲 (UDP)	50000 ~ 59999	

設定保存 元に戻す

②

①利用ポート番号範囲

使用している WAN インタフェースごとに設定します。TCP、UDP で利用するポート番号範囲を入力してください。

②設定保存ボタン

入力が完了しましたら設定保存ボタンを押してください。

● 静的 IP マスカレード設定を設定する

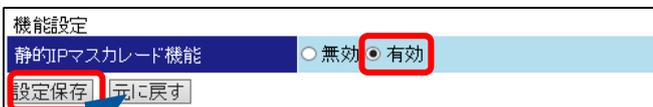
静的 IP マスカレード設定を設定します。

LAN 側に設置したサーバにパケットを転送するための変換用のテーブルを設定します。対象とするプロトコルやポート番号、転送先の IP アドレスやポート番号を静的に設定することができます。

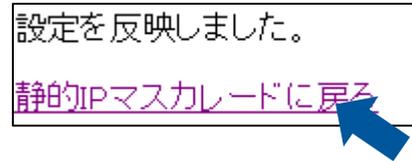
1 静的 IP マスカレード設定画面を表示する



2 静的 IP マスカレード機能を有効にする



3 静的 IP マスカレード画面に戻る

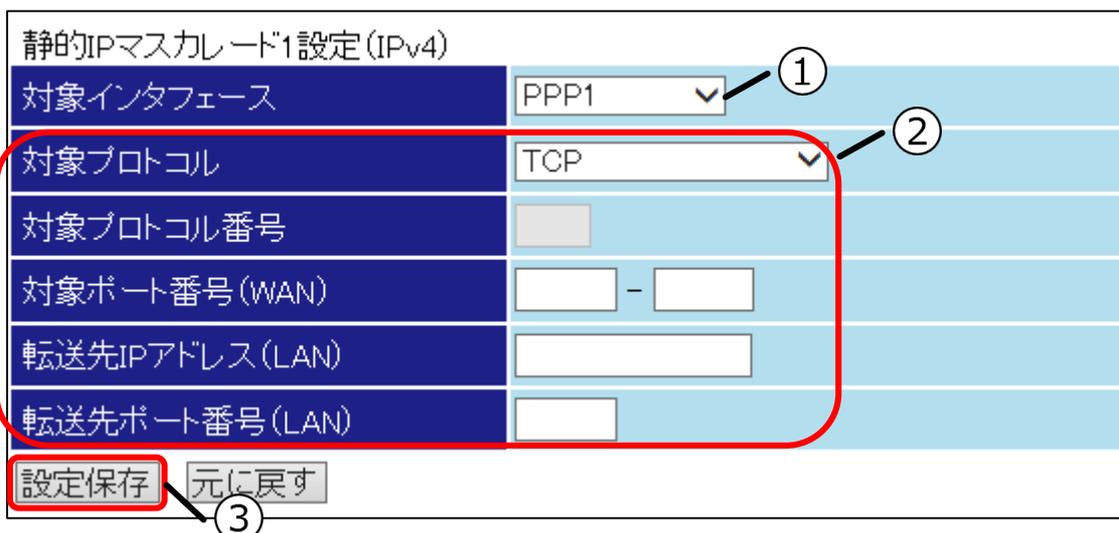


4 静的 IP マスカレードテーブル(IPv4)の編集画面を表示する



テーブルの登録後に削除を行う場合は、本画面の削除チェックボックスにチェックを入れ、**選択した設定を削除**ボタンを押してください。

5 静的 IP マスカレード設定(IPv4)を設定する



①対象インタフェース

静的 IP マスカレード機能を適用するインタフェースを選択してください。

②対象プロトコル

対象プロトコルに TCP を指定する場合

「TCP」が選択されていることを確認してください。[対象ポート番号(WAN)]で入力されたポート範囲に該当する TCP パケットを、[転送先 IP アドレス(LAN)]、[転送先ポート番号(LAN)]で指定した転送先に転送します。

本機能を適用する[対象ポート番号(WAN)]を入力し、転送先となる[転送先 IP アドレス(LAN)]と[転送先ポート番号(LAN)]を入力してください。

対象プロトコル	TCP	TCP
対象プロトコル番号		
対象ポート番号 (WAN)		対象ポート番号(WAN)
転送先IPアドレス (LAN)		転送先 IP アドレス(LAN)
転送先ポート番号 (LAN)		転送先ポート番号(LAN)

対象プロトコルに UDP を指定する場合

「UDP」を選択してください。[対象ポート番号(WAN)]で入力されたポート範囲に該当する UDP パケットを、[転送先 IP アドレス(LAN)]、[転送先ポート番号(LAN)]で指定した転送先に転送します。

本機能を適用する[対象ポート番号(WAN)]を入力し、転送先となる[転送先 IP アドレス(LAN)]と[転送先ポート番号(LAN)]を入力してください。

対象プロトコル	UDP	UDP
対象プロトコル番号		
対象ポート番号 (WAN)		対象ポート番号(WAN)
転送先IPアドレス (LAN)		転送先 IP アドレス(LAN)
転送先ポート番号 (LAN)		転送先ポート番号(LAN)

対象プロトコルをプロトコル番号で指定する場合

「プロトコル番号指定」を選択してください。[対象プロトコル番号]の入力フォームが有効になります。本機能を適用するプロトコル番号を入力し、転送先となる[転送先 IP アドレス(LAN)]を入力してください。

対象プロトコル	プロトコル番号指定	プロトコル番号指定
対象プロトコル番号		プロトコル番号
対象ポート番号 (WAN)		
転送先IPアドレス (LAN)		転送先 IP アドレス(LAN)
転送先ポート番号 (LAN)		

③設定保存ボタン

入力が完了しましたら設定保存ボタンを押してください。

● 静的 NAT 設定を設定する

静的 NAT 設定を設定します。

LAN 側に設置したサーバを公開するために WAN 側の IP アドレスと LAN 側の転送先 IP アドレスを 1 対 1 で変換する設定を行います。

1 静的 NAT 画面を表示する

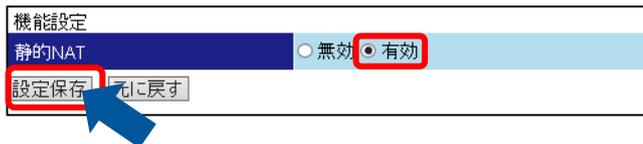


4 静的 NAT テーブル(IPv4)の編集画面を表示する

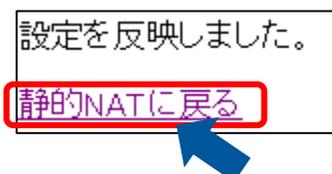


テーブルの登録後に削除を行う場合は、本画面の削除チェックボックスにチェックを入れ、**選択した設定を削除**ボタンを押してください。

2 静的 NAT を有効にする



3 静的 NAT 設定画面に戻る



5 静的 NAT 設定を設定する

The screenshot shows a configuration page titled "静的NAT1設定". It contains three input fields: "対象インタフェース" (Target Interface) with a dropdown menu showing "PPP1", "対象IPアドレス(WAN)" (Target IP Address (WAN)), and "転送先IPアドレス(LAN)" (Destination IP Address (LAN)). At the bottom, there are two buttons: "設定保存" (Save Settings) and "元に戻す" (Reset). Numbered callouts (1-4) point to the dropdown menu, the WAN IP field, the LAN IP field, and the "設定保存" button, respectively.

①対象インタフェース

本機能を適用するインタフェースを選択してください。

②対象 IP アドレス(WAN)

本機能を適用する IP アドレスを入力してください。

③転送先 IP アドレス(LAN)

転送先端末の IP アドレスを入力してください。

④設定保存ボタン

入力が完了しましたら設定保存ボタンを押してください。

● DMZ 設定を設定する

DMZ 設定を設定します。

WAN 側から LAN 側へのアクセスのうち、未知ポートへのアクセスを特定の LAN 側端末に転送することができます。

1 DMZ 画面を表示する



2 DMZ 設定(IPv4)を設定する

DMZ設定 (IPv4)	
DMZホスト機能	<input type="radio"/> 無効 <input checked="" type="radio"/> 有効 ①
対象インタフェース	PPP1 ✓ ②
転送先IPアドレス (LAN)	<input type="text"/> ③
<input type="button" value="設定保存"/> <input type="button" value="元に戻す"/>	④

① DMZ ホスト機能

「有効」を選択してください。

② 対象インタフェース

DMZ 機能を適用するインタフェースを選択してください。

③ 転送先 IP アドレス(LAN)

該当するパケットの転送先端末の IP アドレスを入力してください。

④ 設定保存ボタン

入力が完了しましたら設定保存ボタンを押してください。

◆ SNMP 情報を設定する

SNMP 情報を設定します。

SNMP 機能を使用すると本製品のネットワーク管理情報をモニタすることができます。また、SNMP マネージャをインストールした端末を登録し、本製品で発生した事象(トラップ)を通知することができます。

1 SNMP 画面を表示する



2 SNMP 設定とトラップ送信設定を設定します

SNMP設定	
SNMPエージェント機能	<input type="radio"/> 無効 <input checked="" type="radio"/> 有効 ①
エージェントプロトコル	SNMPv1 ②
Sysname	<input type="text"/> ③
SysLocation	<input type="text"/> ④
SysContact	<input type="text"/> ⑤
読み出し専用コミュニティ名	public ⑥
アクセス制限	<input checked="" type="radio"/> 無効 <input type="radio"/> 有効 ⑦
アクセス許可送信元IPアドレス	<input type="text"/>
アクセス許可送信元サブネットマスク長	255.255.255.0(24ビット) ⑧
トラップ送信設定	
トラップ送信機能	<input checked="" type="radio"/> 無効 <input type="radio"/> 有効 ⑧
トラップ送信プロトコル	<input checked="" type="radio"/> SNMPv1 <input type="radio"/> SNMPv2c
トラップ送信先IPアドレス	<input type="text"/>
トラップ送信コミュニティ名	<input type="text"/>
送信元ホストアドレス	<input type="text"/> ⑨
<input type="button" value="設定保存"/> <input type="button" value="元に戻す"/>	

①SNMP エージェント機能

初期では「有効」が選択されています。無効が選択されている場合は「有効」を選択してください。

②エージェントプロトコル

SNMP 機能で使用するプロトコルを選択してください。

③Sysname

[Sysname]は SNMP マネージャで本製品を参照する際に表示する名称です。一意の名称を入力してください。

④SysLocation

[SysLocation]は本製品の設置場所に関する情報を入力してください。

⑤SysContact

[SysContact]にはメールアドレス等、管理者に関する情報を入力してください。

⑥読み出し専用コミュニティ名

MIB 情報読み出しに使用するコミュニティ名を入力してください。コミュニティ名はパスワードとして機能します。

⑦アクセス制限

アクセス制限を設定しない場合

「無効」が選択されていることを確認してください。

アクセス制限を設定する場合

「有効」を選択してください。「有効」を選択するとアクセスを許可する設定が有効になります。アクセスを許可する端末の IP アドレスとサブネットマスクを入力してください。

アクセス制限	<input type="radio"/> 無効 <input checked="" type="radio"/> 有効 有効
アクセス許可送信元IPアドレス	<input type="text"/> アクセス許可送信元 IP アドレス
アクセス許可送信元サブネットマスク長	<input type="text" value="255.255.255.0(24ビット)"/> アクセス許可送信元サブネットマスク長

⑧トラップ送信機能

トラップを送信しない場合

「無効」が選択されていることを確認してください。

トラップを送信する場合

「有効」を選択してください。「有効」を選択するとトラップ送信に関する設定が有効になります。

トラップ送信設定	
トラップ送信機能	<input type="radio"/> 無効 <input checked="" type="radio"/> 有効 ①
トラップ送信プロトコル	<input checked="" type="radio"/> SNMPv1 <input type="radio"/> SNMPv2c ②
トラップ送信先IPアドレス	<input type="text"/> ③
トラップ送信コミュニティ名	<input type="text"/> ④
送信元ホストアドレス	<input type="text"/> ⑤

①トラップ送信機能

「有効」を選択してください。

②トラップ送信プロトコル

トラップ送信プロトコルで SNMPv1 を使用する場合

「SNMPv1」を選択してください。

トラップ送信プロトコルで SNMPv2c を使用する場合

「SNMPv2c」を選択してください。「SNMPv2c」を選択すると[送信元ホストアドレス]が無効になります。

トラップ送信プロトコル	<input type="radio"/> SNMPv1 <input checked="" type="radio"/> SNMPv2c
トラップ送信先IPアドレス	<input type="text"/>
トラップ送信コミュニティ名	<input type="text"/>
送信元ホストアドレス	<input style="background-color: #cccccc;" type="text"/>

③トラップ送信先 IP アドレス

トラップ送信先の IP アドレスを入力してください。

④トラップ送信コミュニティ名

トラップ送信に使用するコミュニティ名を入力してください。
コミュニティ名はトラップ送信時にパスワードとして機能します。

⑤送信元ホストアドレス

送信元ホストのアドレスを入力してください。

⑨設定保存ボタン

入力が完了しましたら設定保存ボタンを押してください。

◆ ブリッジ情報を設定する

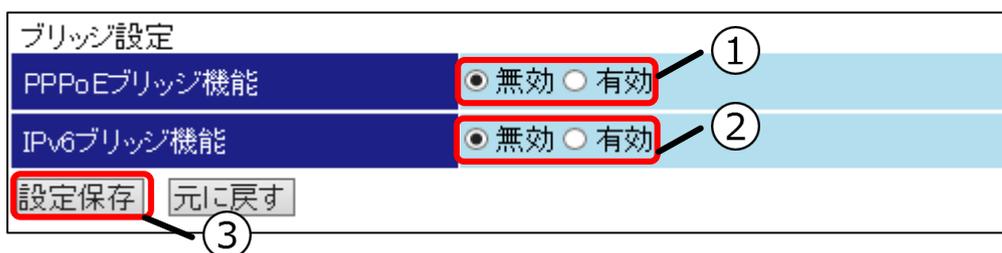
ブリッジ機能を設定します。

本機能を設定することで LAN-WAN 間での PPPoE セッションの接続と IPv6 を使用した通信が可能になります。

1 ブリッジ画面を表示する



2 ブリッジ設定を設定する



① PPPoE ブリッジ機能

LAN-WAN 間で PPPoE セッションを接続する場合は「有効」を選択してください。

② IPv6 ブリッジ機能

LAN-WAN 間で IPv6 での通信を行う場合は「有効」を選択してください。

③ 設定保存ボタン

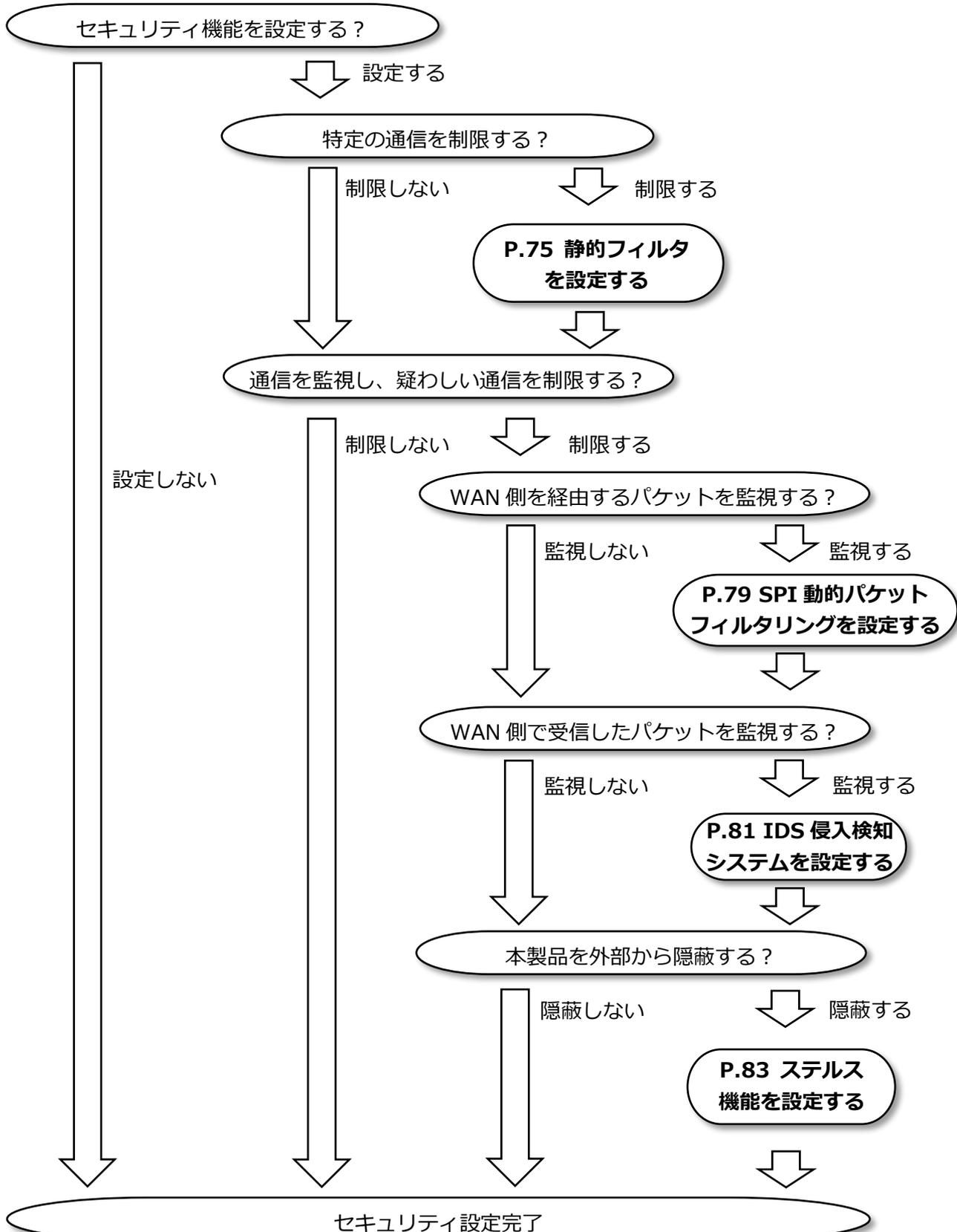
入力が完了しましたら設定保存ボタンを押してください。

◆ ファイアウォール機能を設定する

ファイアウォール機能を設定します。

ファイアウォール機能を設定することにより、アクセス制限をすることができます。

- ファイアウォール機能の設定を間違えるとインターネットや本製品へアクセスできなくなります。ご注意ください。



● 静的フィルタを設定する

静的フィルタを設定します。

静的フィルタは LAN/WAN インタフェースごとに設定できます。フィルタを設定することで特定の packets に対し、通過の許可/拒否を設定できます。

1 静的フィルタ画面を表示する



2 静的フィルタ(IPv4)を有効にする



3 静的フィルタ設定(IPv4)を設定するインタフェースの編集画面を表示する

静的フィルタ設定 (IPv4)

No.	インタフェース名	編集
1	LAN	編集
2	WAN (IPv6E)	編集
3	PPP1	編集
4	PPP2	編集
5	PPP3	編集
6	PPP4	編集
7	PPP5	編集

4 フィルタテーブル(IPv4)の編集画面を表示する

フィルタテーブル (IPv4)
対象インタフェース: LAN

No.	有効	フィルタ種別	適用方向 入力 出力	プロトコル	送信元 IPアドレス ポート	送信元 IPアドレス ポート	詳細	サービス系フィルタ種別	編集	削除
1	<input checked="" type="checkbox"/>		<input checked="" type="checkbox"/>					静的フィルタ	編集	<input checked="" type="checkbox"/>
2	<input checked="" type="checkbox"/>		<input checked="" type="checkbox"/>					静的フィルタ	編集	<input type="checkbox"/>
3	<input checked="" type="checkbox"/>		<input checked="" type="checkbox"/>					静的フィルタ	編集	<input type="checkbox"/>
4	<input checked="" type="checkbox"/>		<input checked="" type="checkbox"/>					静的フィルタ	編集	<input type="checkbox"/>
5	<input checked="" type="checkbox"/>		<input checked="" type="checkbox"/>					静的フィルタ	編集	<input type="checkbox"/>
6	<input checked="" type="checkbox"/>		<input checked="" type="checkbox"/>					静的フィルタ	編集	<input type="checkbox"/>
7	<input checked="" type="checkbox"/>		<input checked="" type="checkbox"/>					静的フィルタ	編集	<input type="checkbox"/>
8	<input checked="" type="checkbox"/>		<input checked="" type="checkbox"/>					静的フィルタ	編集	<input type="checkbox"/>
9	<input checked="" type="checkbox"/>		<input checked="" type="checkbox"/>					静的フィルタ	編集	<input type="checkbox"/>
10	<input checked="" type="checkbox"/>		<input checked="" type="checkbox"/>					静的フィルタ	編集	<input type="checkbox"/>
11	<input checked="" type="checkbox"/>		<input checked="" type="checkbox"/>					静的フィルタ	編集	<input type="checkbox"/>
12	<input checked="" type="checkbox"/>		<input checked="" type="checkbox"/>					静的フィルタ	編集	<input type="checkbox"/>
13	<input checked="" type="checkbox"/>		<input checked="" type="checkbox"/>					静的フィルタ	編集	<input type="checkbox"/>
14	<input checked="" type="checkbox"/>		<input checked="" type="checkbox"/>					静的フィルタ	編集	<input type="checkbox"/>
15	<input checked="" type="checkbox"/>		<input checked="" type="checkbox"/>					静的フィルタ	編集	<input type="checkbox"/>
16	<input checked="" type="checkbox"/>		<input checked="" type="checkbox"/>					静的フィルタ	編集	<input type="checkbox"/>
17	<input checked="" type="checkbox"/>		<input checked="" type="checkbox"/>					静的フィルタ	編集	<input type="checkbox"/>
18	<input checked="" type="checkbox"/>		<input checked="" type="checkbox"/>					静的フィルタ	編集	<input type="checkbox"/>
19	<input checked="" type="checkbox"/>		<input checked="" type="checkbox"/>					静的フィルタ	編集	<input type="checkbox"/>
20	<input checked="" type="checkbox"/>		<input checked="" type="checkbox"/>					静的フィルタ	編集	<input type="checkbox"/>
21	<input checked="" type="checkbox"/>		<input checked="" type="checkbox"/>					静的フィルタ	編集	<input type="checkbox"/>
22	<input checked="" type="checkbox"/>		<input checked="" type="checkbox"/>					静的フィルタ	編集	<input type="checkbox"/>

テーブルの登録後に削除を行う場合は、本画面の削除チェックボックスにチェックを入れ、**選択した設定を削除**ボタンを押してください。

5 静的フィルタ設定(IPv4)を設定する

静的フィルタ1設定(IPv4) 対象インタフェース:LAN	
フィルタ種別	<input type="radio"/> 許可 <input checked="" type="radio"/> 拒否 ①
送信先IPアドレス指定	<input checked="" type="radio"/> 無効 <input type="radio"/> 有効 ②
送信先IPアドレス	<input type="text"/>
送信先サブネットマスク長	255.255.255.0(24ビット) ▼
送信元IPアドレス指定	<input checked="" type="radio"/> 無効 <input type="radio"/> 有効 ③
送信元IPアドレス	<input type="text"/>
送信元サブネットマスク長	255.255.255.0(24ビット) ▼
トランスポート層プロトコル指定	<input checked="" type="radio"/> 無効 <input type="radio"/> 有効 ④
トランスポート層プロトコル	TCP ▼
トランスポート層プロトコル番号	<input type="text"/>
送信先ポート指定	<input checked="" type="radio"/> 無効 <input type="radio"/> 有効
送信先ポート番号	<input type="text"/> ~ <input type="text"/>
送信元ポート指定	<input checked="" type="radio"/> 無効 <input type="radio"/> 有効
送信元ポート番号	<input type="text"/> ~ <input type="text"/>
<input type="button" value="設定保存"/> <input type="button" value="元に戻す"/> ⑤	

①フィルタ種別

パケットを通過させる場合

「許可」を選択してください。

パケットを破棄する場合

「拒否」を選択してください。

②送信先IPアドレス指定

パケットの送信先を指定する場合

「有効」を選択してください。「有効」を選択すると[送信先IPアドレス]、[送信先サブネットマスク長]が有効になります。パケットが指定の送信先の場合、本フィルタリング設定の対象となります。

送信先IPアドレス指定	<input type="radio"/> 無効 <input checked="" type="radio"/> 有効
送信先IPアドレス	<input type="text"/> 送信先IPアドレス
送信先サブネットマスク長	255.255.255.0(24ビット) ▼ 送信先サブネットマスク長

パケットの送信先を指定しない場合

「無効」を選択してください。本フィルタリング設定の対象にパケットの送信先は含まれなくなります。

送信先IPアドレス指定	<input checked="" type="radio"/> 無効 <input type="radio"/> 有効
送信先IPアドレス	<input type="text"/>
送信先サブネットマスク長	255.255.255.0(24ビット) ▼

③送信元 IP アドレス指定

パケットの送信元を指定する場合

「有効」を選択してください。「有効」を選択すると[送信元 IP アドレス]、[送信元サブネットマスク長]が有効になります。パケットが指定の送信元の場合、本フィルタリング設定の対象となります。

送信元IPアドレス指定	<input type="radio"/> 無効 <input checked="" type="radio"/> 有効
送信元IPアドレス	<input type="text"/> 送信元 IP アドレス
送信元サブネットマスク長	255.255.255.0(24ビット) ▼ 送信元サブネットマスク長

パケットの送信元を指定しない場合

「無効」を選択してください。本フィルタリング設定の対象にパケットの送信元は含まれなくなります。

送信元IPアドレス指定	<input checked="" type="radio"/> 無効 <input type="radio"/> 有効
送信元IPアドレス	<input type="text"/>
送信元サブネットマスク長	255.255.255.0(24ビット) ▼

④トランスポート層プロトコル指定

トランスポート層プロトコルを指定する場合

トランスポート層プロトコル指定を「有効」にしてください。「有効」を選択すると[トランスポート層プロトコル]、[送信先ポート指定]、[送信元ポート指定]が有効になります。

トランスポート層プロトコル指定	<input type="radio"/> 無効 <input checked="" type="radio"/> 有効 I
トランスポート層プロトコル	TCP ▼ II
トランスポート層プロトコル番号	<input type="text"/>
送信先ポート指定	<input checked="" type="radio"/> 無効 <input type="radio"/> 有効 III
送信先ポート番号	<input type="text"/> ~ <input type="text"/>
送信元ポート指定	<input checked="" type="radio"/> 無効 <input type="radio"/> 有効 IV
送信元ポート番号	<input type="text"/> ~ <input type="text"/>

設定保存 元に戻す

① **トランスポート層プロトコル指定**

「有効」を選択してください。

② **トランスポート層プロトコル**

TCP、UDP、ICMP から指定する場合

「TCP」、「UDP」、「ICMP」から選択してください。パケットが指定したプロトコルの場合、本フィルタリング設定の対象となります。

TCP、UDP、ICMP 以外のプロトコルを指定する場合

「プロトコル番号指定」を選択してください。「プロトコル番号指定」を選択すると [トランスポート層プロトコル番号] が有効になり、[送信先ポート指定] と [送信元ポート指定] が無効になります。

③ **送信先ポート指定**

送信先のポート番号を指定する場合

「有効」を選択してください。「有効」を選択した場合、[送信先ポート番号] が有効になります。範囲で指定する場合は開始と終了のポート番号を入力してください。特定のポートを指定する場合は同じポート番号を入力してください。

送信先のポート番号を指定しない場合

「無効」を選択してください。

④ **送信元ポート指定**

送信元のポート番号を指定する場合

「有効」を選択してください。「有効」を選択した場合、[送信元ポート番号] が有効になります。範囲で指定する場合は開始と終了のポート番号を入力してください。特定のポートを指定する場合は同じポート番号を入力してください。

送信元のポート番号を指定しない場合

「無効」を選択してください。

トランスポート層プロトコルを指定しない場合

「無効」を選択してください。フィルタリング条件にプロトコル番号は含まれなくなります。

⑤ **設定保存ボタン**

入力が完了しましたら **設定保存** ボタンを押してください。

設定保存後、静的フィルタ画面から適用方向をチェックボックスで決定し、**設定保存** ボタンを押してください。

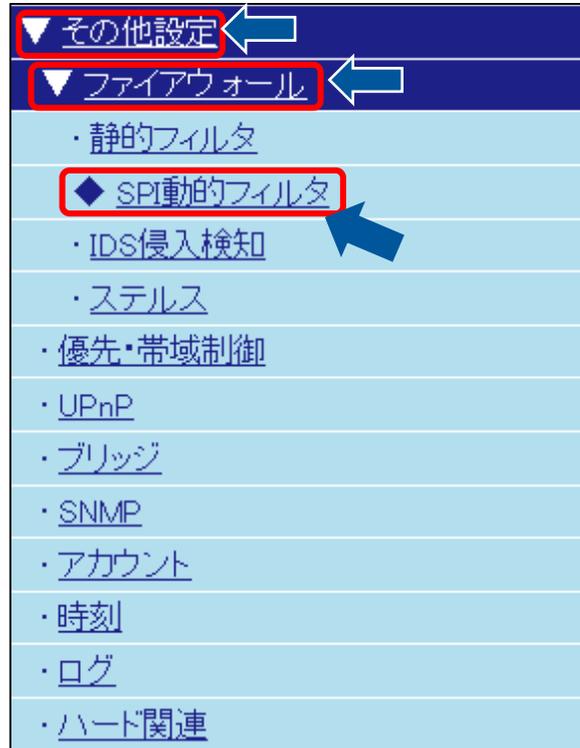


● SPI 動的パケットフィルタリングを設定する

SPI 動的パケットフィルタリングを設定します。

外部への通信を監視し、外部からの不正なパケットを破棄することができます。

1 SPI 動的フィルタ画面を表示する



2 SPI 動的パケットフィルタリング設定(IPv4)を設定する



① **SPI 動的パケットフィルタリング設定(IPv4)**

[SPI 動的パケットフィルタリング設定(IPv4)]はインタフェースごとに行います。設定する項目はSPI 動的パケットフィルタリングの有効/無効とログ出力の有効/無効です。初期値ではすべてのインタフェースで「有効」が設定されています。

② **設定保存ボタン**

入力が完了しましたら**設定保存**ボタンを押してください。

● IDS 侵入検知システムを設定する

IDS 侵入検知システムを設定します。

外部からの攻撃を検知して、攻撃元 IP アドレスからのパケットを一定時間破棄することができます。また、送信元アドレスがプライベートアドレスのパケットの場合に、そのパケットの破棄を行います。

1 IDS 侵入検知画面を表示する



2 IDS 侵入検知システム設定(IPv4)を設定する



①IDS 侵入検知システム設定(IPv4)

[IDS 侵入検知システム設定(IPv4)]はインタフェースごとに行います。設定する項目は IDS 侵入検知システムの有効/無効、ログ出力の有効/無効、IDS 侵入検知システムの対象となったパケットを破棄する時間を設定します。初期値ではすべてのインタフェースで「有効」が設定され、破棄時間は「1」時間が設定されています。

②設定保存ボタン

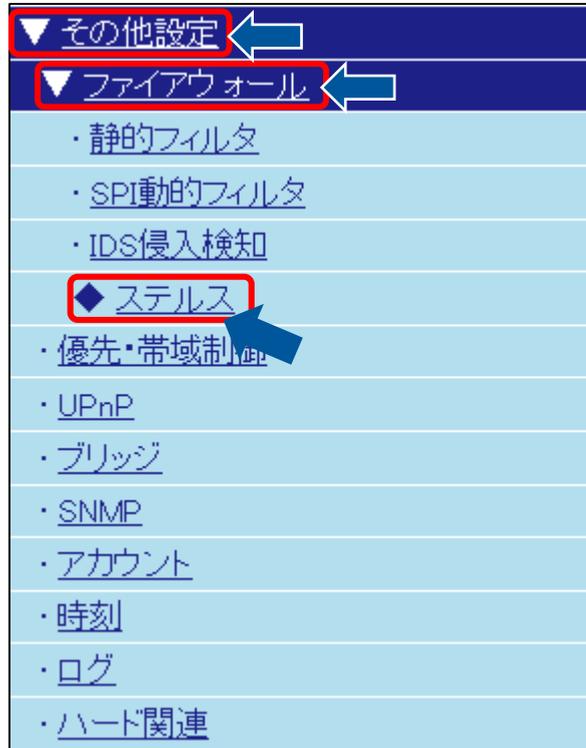
入力が完了しましたら設定保存ボタンを押してください。

● ステルス機能を設定する

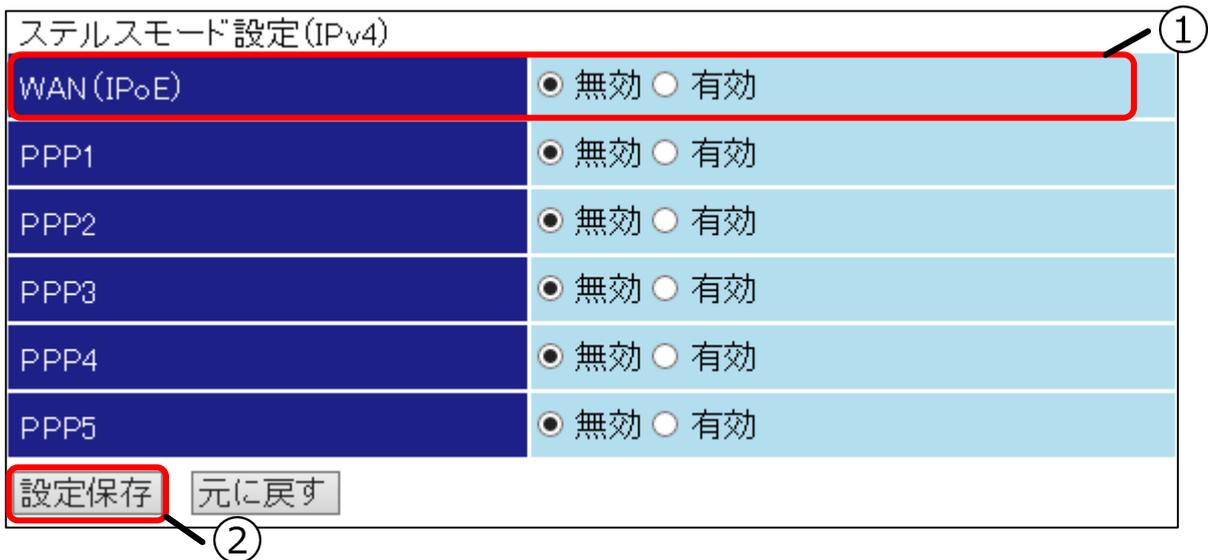
ステルス機能を設定します。

外部からの Ping 等に対して応答を返さないようになります。応答を返さないことで本製品の存在を隠蔽することができます。

1 ステルス画面を表示する



2 ステルスモード設定(IPv4)を設定する



①ステルスモード設定(IPv4)

[ステルスモード設定(IPv4)]はインタフェースごとに行います。設定する項目はステルスモードの有効/無効を設定します。初期値ではすべてのインタフェースで「無効」が設定されています。

②設定保存ボタン

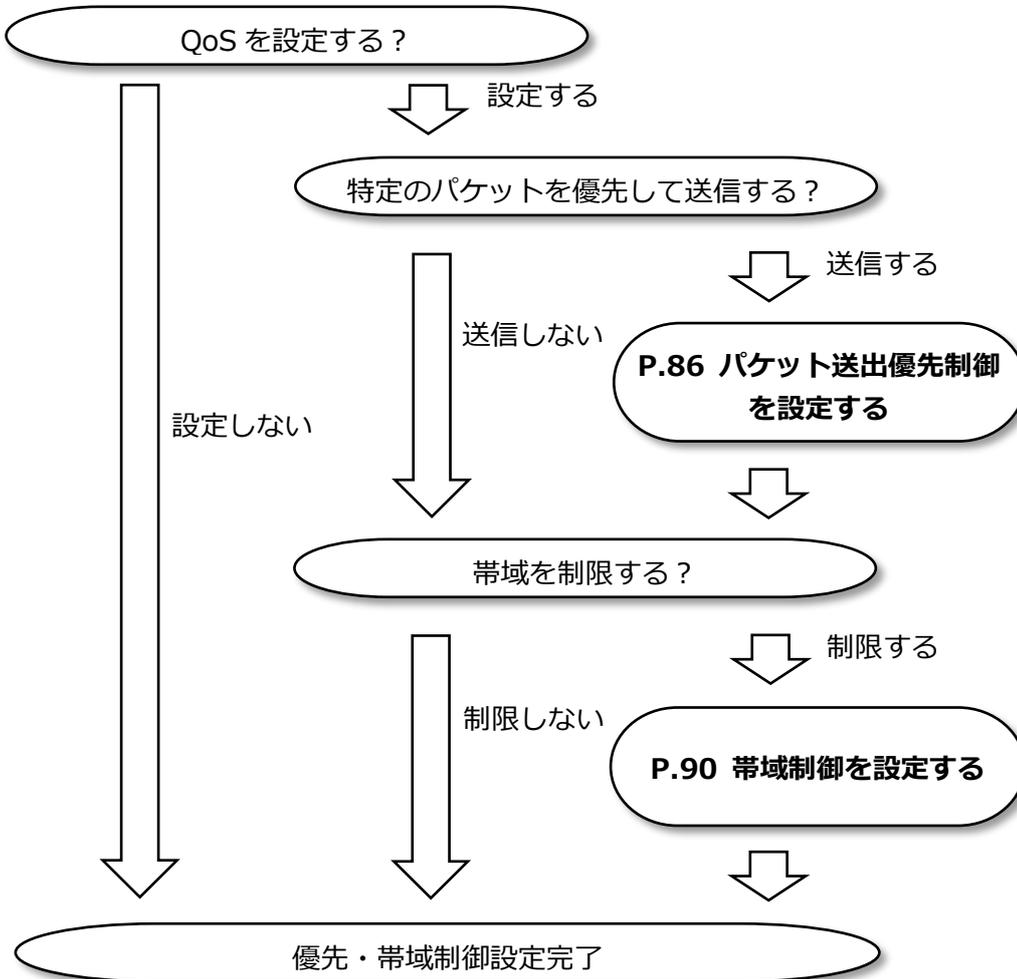
入力が完了しましたら**設定保存**ボタンを押してください。

◆ 優先・帯域制御機能を設定する

優先・帯域制御機能を設定します。

お客様の運用形態に合わせて機能を設定してください。

- 本機能を使用することで通信品質の改善をすることができます。



● パケット送出優先制御を設定する

パケット送出優先制御を設定します。

優先制御テーブルにしたがってパケットの送出を行います。テーブルに該当しないパケットはクラス 1、優先度 1 となります。

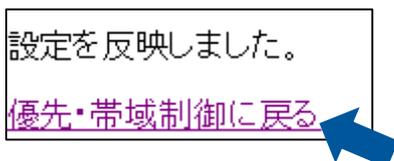
1 優先・帯域制御画面を表示する



2 優先・帯域制御機能を有効にする



3 優先・帯域制御画面に戻る



4 優先制御テーブルの編集画面を表示する

DSCP値	プロトコル	送信元		送信先		編集	削除
		IPアドレス	ポート	IPアドレス	ポート		
						編集	<input type="checkbox"/>
						編集	<input type="checkbox"/>
						編集	<input type="checkbox"/>

テーブルの登録後に削除を行う場合は、本画面の削除チェックボックスにチェックを入れ、**選択した設定を削除**ボタンを押してください。

5 優先制御テーブルを設定する

優先制御テーブル1	
クラス	クラス1 ①
優先度	優先1(低) ②
出力インタフェース	WAN (IPoE) ③
DSCP値設定	<input checked="" type="radio"/> 無効 <input type="radio"/> 有効 ④
DSCP値	<input type="text"/>
送信元IPアドレス指定	<input checked="" type="radio"/> 無効 <input type="radio"/> 有効 ⑤
送信元IPアドレス	<input type="text"/>
送信元サブネットマスク長	255.255.255.0(24ビット) ⑤
送信先IPアドレス指定	<input checked="" type="radio"/> 無効 <input type="radio"/> 有効 ⑥
送信先IPアドレス	<input type="text"/>
送信先サブネットマスク長	255.255.255.0(24ビット) ⑥
トランスポート層プロトコル指定	<input checked="" type="radio"/> 無効 <input type="radio"/> 有効 ⑦
トランスポート層プロトコル	UDP ⑦
トランスポート層プロトコル番号	<input type="text"/>
送信元ポート番号指定	<input checked="" type="radio"/> 無効 <input type="radio"/> 有効 ⑦
送信元ポート番号	<input type="text"/> ~ <input type="text"/>
送信先ポート番号指定	<input checked="" type="radio"/> 無効 <input type="radio"/> 有効 ⑦
送信先ポート番号	<input type="text"/> ~ <input type="text"/>
<input type="button" value="設定保存"/> <input type="button" value="元に戻す"/> ⑧	

① クラス

[クラス]を選択してください。クラスは優先度に影響しません。クラスごとに用途を決めることで管理がしやすくなります。

② 優先度

設定する[優先度]を選択してください。

③ 出力インタフェース

[出力インタフェース]を選択してください。有効となっているインタフェースに限ります。

④DSCP 値設定

DSCP 値を指定する場合

[DSCP 値設定]を「有効」にしてください。[DSCP 値]が有効になりますので値を入力してください。

DSCP 値設定	<input type="radio"/> 無効 <input checked="" type="radio"/> 有効
DSCP 値	<input type="text"/> DSCP 値

DSCP 値を指定しない場合

[DSCP 値設定]を「無効」にしてください。

⑤送信元 IP アドレス指定

送信元 IP アドレスを指定する場合

[送信元 IP アドレス指定]を「有効」にしてください。[送信元 IP アドレス]と[送信元サブネットマスク長]が有効になりますので IP アドレスを入力してください。

送信元IPアドレス 指定	<input type="radio"/> 無効 <input checked="" type="radio"/> 有効
送信元IPアドレス	<input type="text"/> 送信元 IP アドレス
送信元サブネットマスク長	255.255.255.0(24ビット) ▼ 送信元サブネットマスク長

送信元 IP アドレスを指定しない場合

[送信元 IP アドレス指定]を「無効」にしてください。

⑥送信先 IP アドレス指定

送信先 IP アドレスを指定する場合

[送信先 IP アドレス指定]を「有効」にしてください。[送信先 IP アドレス]と[送信先サブネットマスク長]が有効になりますので IP アドレスを入力してください。

送信先IPアドレス 指定	<input type="radio"/> 無効 <input checked="" type="radio"/> 有効
送信先IPアドレス	<input type="text"/> 送信先 IP アドレス
送信先サブネットマスク長	255.255.255.0(24ビット) ▼ 送信先サブネットマスク長

送信先 IP アドレスを指定しない場合

[送信先 IP アドレス指定]を「無効」にしてください。

⑦トランスポート層プロトコル指定

TCP、UDP、ICMP から指定する場合

トランスポート層プロトコル指定を「有効」にしてください。「有効」を選択すると[トランスポート層プロトコル]、[送信先ポート指定]、[送信元ポート指定]が有効になります。

トランスポート層プロトコル指定	<input type="radio"/> 無効 <input checked="" type="radio"/> 有効	①
トランスポート層プロトコル	TCP	②
トランスポート層プロトコル番号		③
送信元ポート番号指定	<input checked="" type="radio"/> 無効 <input type="radio"/> 有効	④
送信元ポート番号		
送信先ポート番号指定	<input checked="" type="radio"/> 無効 <input type="radio"/> 有効	
送信先ポート番号		
<input type="button" value="設定保存"/> <input type="button" value="元に戻す"/>		

① トランスポート層プロトコル指定

「有効」を選択してください。

② トランスポート層プロトコル

TCP、UDP、ICMP から指定する場合

「TCP」、「UDP」、「ICMP」から選択してください。パケットが指定したプロトコルの場合、パケット送出優先制御の対象となります。

TCP、UDP、ICMP 以外のプロトコルを指定する場合

「プロトコル番号指定」を選択してください。「プロトコル番号指定」を選択すると [トランスポート層プロトコル番号] が有効になり、[送信先ポート指定] と [送信元ポート指定] が無効になります。

④ 送信元ポート番号指定

送信元のポート番号を指定する場合

「有効」を選択してください。「有効」を選択した場合、[送信元ポート番号] が有効になります。範囲で指定する場合は開始と終了のポート番号を入力してください。特定のポートを指定する場合は同じポート番号を入力してください。

送信元のポート番号を指定しない場合

「無効」を選択してください。

④ 送信先ポート番号指定

送信先のポート番号を指定する場合

「有効」を選択してください。「有効」を選択した場合、[送信先ポート番号] が有効になります。範囲で指定する場合は開始と終了のポート番号を入力してください。特定のポートを指定する場合は同じポート番号を入力してください。

送信先のポート番号を指定しない場合

「無効」を選択してください。

⑧ 設定保存ボタン

入力が完了しましたら **設定保存** ボタンを押してください。

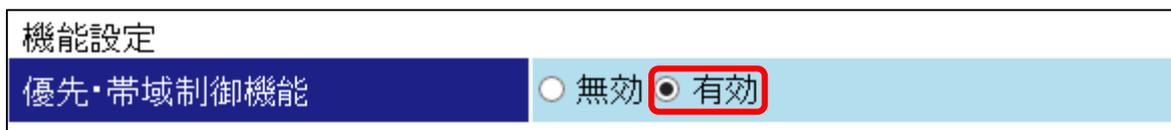
● 帯域制御を設定する

帯域制御を設定します。

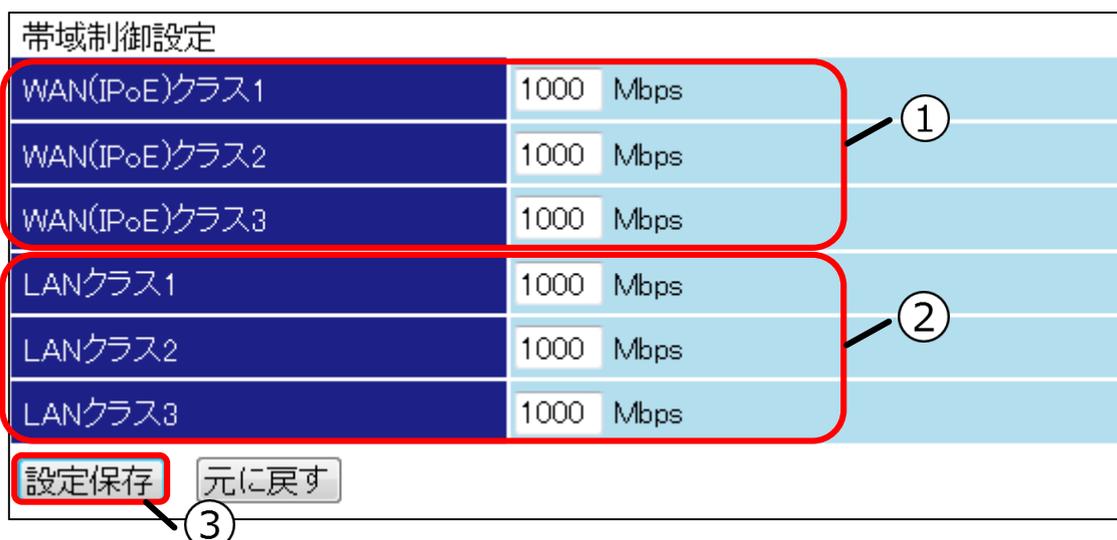
1 優先・帯域制御画面を表示する



2 優先・帯域制御機能を有効にする



3 帯域制御設定を設定する



① WAN(IPoE)クラス

WAN インタフェースのクラスごとに帯域を入力してください。クラスは『[パケット送出優先制御を設定する](#)』で設定したクラスです。

②LAN クラス

LAN インタフェースのクラスごとに帯域を入力してください。クラスは『[パケット送出優先制御を設定する](#)』で設定したクラスです。

③設定保存ボタン

入力が完了しましたら設定保存ボタンを押してください。

◆ UPnP 情報を設定する

UPnP 情報を設定します。

UPnP 情報を設定することにより、UPnP 対応の製品や OS が提供するサービスを使用することができます。

1 UPnP 画面を表示する



2 UPnP 設定をする



① UPnP(IGD)機能

「有効」を選択してください。

② 対象インタフェース

選択できる問い合わせ先は接続種別設定により異なります。設定にあわせてルーティング先のインタフェースを選択してください。

IPoE(IPv4)を接続種別に選択している場合

「WAN(IPoE)」を選択してください。

PPPoE(IPv4)を接続種別に選択している場合

「PPP1～5」のうち、有効にしているものを選択してください。

③ 設定保存ボタン

入力が完了しましたら設定保存ボタンを押してください。

◆ VPN パススルー機能を設定する

VPN パススルー機能を設定します。

VPN パススルー機能を設定することで WAN 側ネットワーク上の VPN クライアントからの VPN パケットを LAN 側ネットワーク内に設置された VPN サーバへ転送することができます。本機能が対象とする VPN は PPTP に限ります。

1 PPTP VPN 画面を表示する



2 PPTP パススルー設定(IPv4)を設定する

PPTP/パススルー設定 (IPv4)	
PPTP/パススルー機能	<input type="radio"/> 無効 <input checked="" type="radio"/> 有効 ①
対象インタフェース	PPP1 ②
転送先IPアドレス(LAN)	③
<input type="button" value="設定保存"/> ④ <input type="button" value="元に戻す"/>	

① PPTP パススルー機能

「有効」を選択してください。

② 対象インタフェース

選択できる問い合わせ先は接続種別設定により異なります。設定にあわせてルーティング先のインタフェースを選択してください。

IPoE(IPv4)を接続種別を選択している場合

「WAN(IPoE)」を選択してください。

PPPoE(IPv4)を接続種別を選択している場合

「PPP1～5」のうち、有効にしているものを選択してください。

③ 転送先 IP アドレス(LAN)

PPTP サーバの IP アドレスを選択してください。

④ 設定保存ボタン

入力が完了しましたら設定保存ボタンを押してください。

◆ <保守>

P.95 本製品のファームウェアを更新する

P.105 設定データを管理する

P.113 システムの状態を確認する

P.115 IP アドレスのリース状態を確認する

P.117 ネットワークの通信状態を確認する

P.119 VPN 接続状態を確認する

P.121 設定情報を確認する

P.122
~126 ログを確認する

P.127
~129 設定内容を初期化する

P.130 本製品を再起動する

P.131
~134 時計を合わせる

P.135 USB ポートの利用設定を変更する

P.136 **MULTI スイッチの機能を切り替える**

P.137 **リンク設定を変更する**

P.138 **ランプの省電力機能を切り替える**

P.139 **ログインパスワードを変更する**

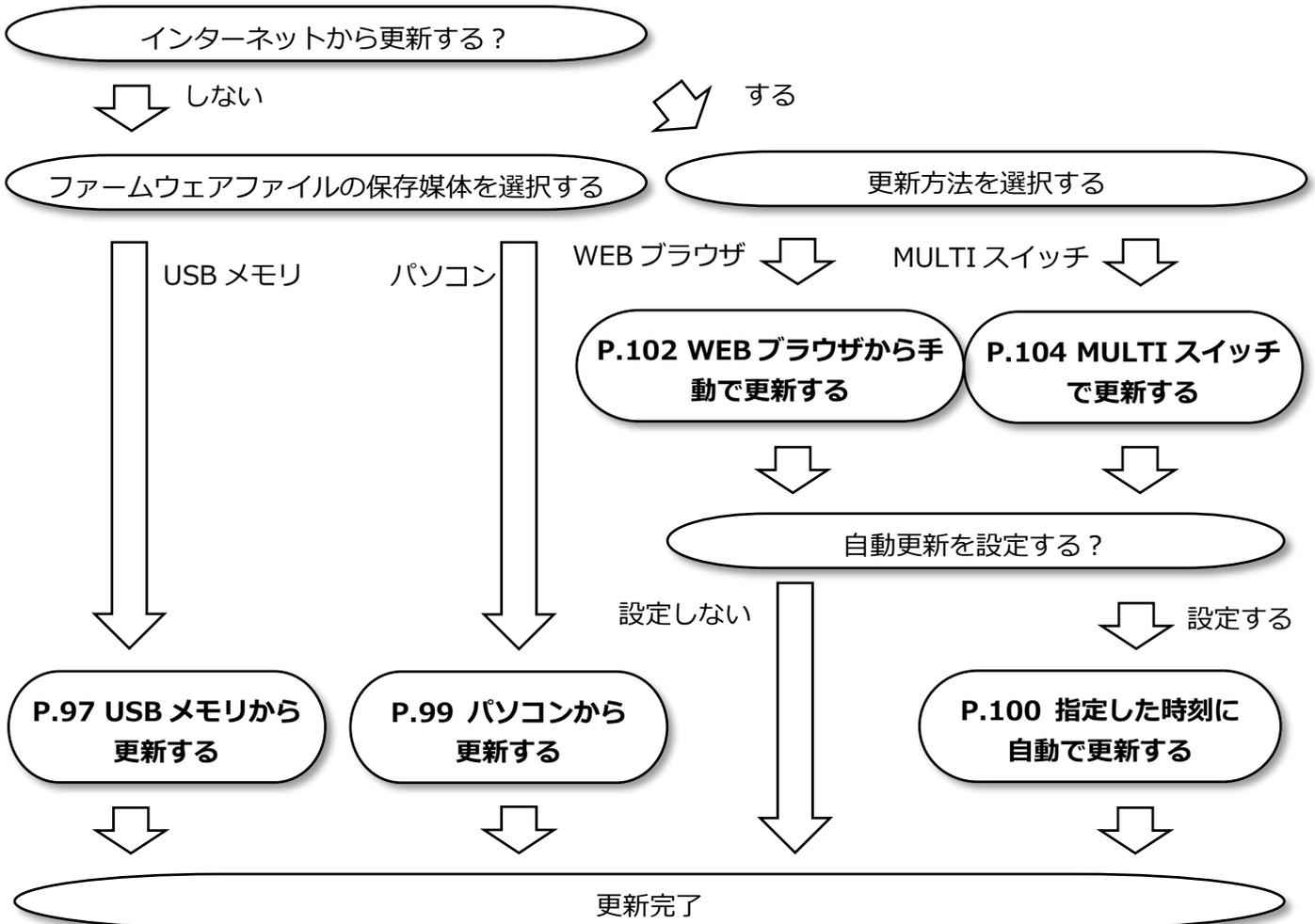
P.140
~142 **リモート保守の許可を実行する**

◆ 本製品のファームウェアを更新する

本製品のファームウェアを更新します。

更新はオンライン更新とローカル更新の2種類があります。ローカルで更新を行う場合は最新のファームウェアファイルをご用意ください。

- 本製品の更新を行うと自動的に再起動します。一時的に本製品が使用できなくなりますのでご注意ください。
- 更新中は装置の電源を切らないでください。正常に動作しなくなる恐れがあります。



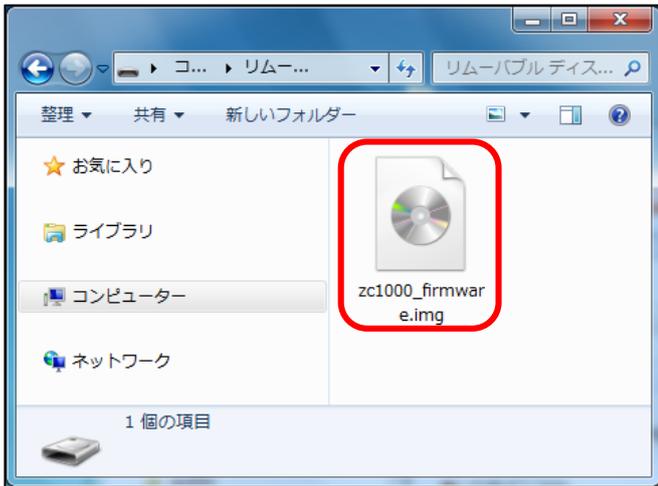
● USB メモリから更新する

USB メモリからファームウェアを更新します。

USB メモリからの更新には MULTI スイッチ機能の設定が必要になります。『[MULTI スイッチの機能を切り替える](#)』を参照し、設定を行ってください。

USB メモリから更新を行うにはファームウェアファイルが必要になります。ファームウェアファイルをご用意してからお読みください。

1 USB メモリのルートフォルダにファームウェアファイルを格納する



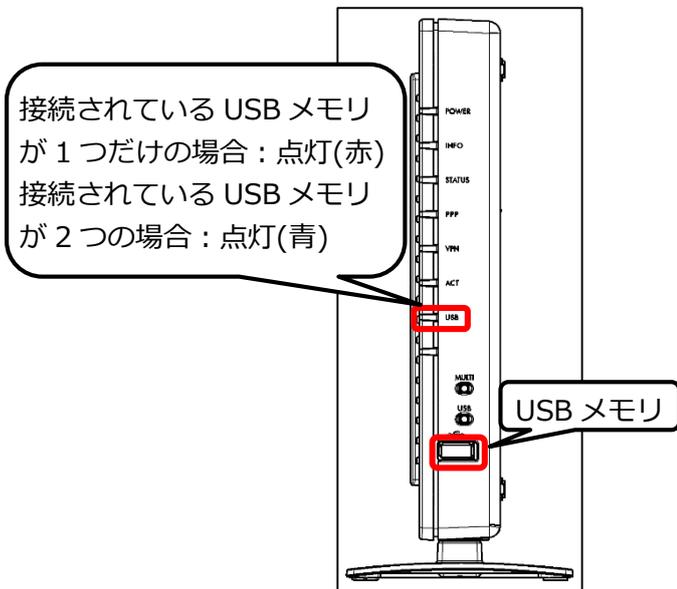
3 ローカル画面を表示する



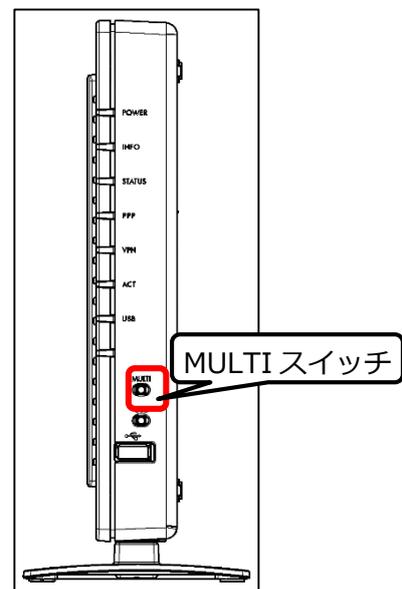
4 ローカルファームウェア更新(USB)設定のファイル名にファームウェアファイル名を入力し、設定を保存する



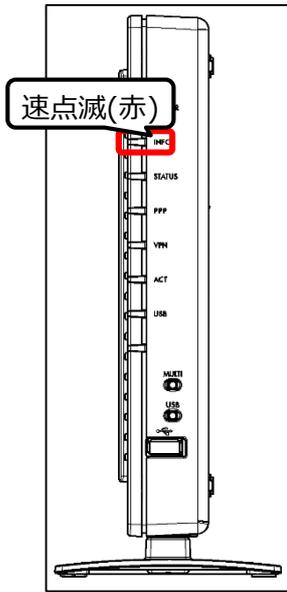
2 USB メモリを USB ポート(前面)へ接続する



5 MULTI スイッチを 5 秒間押し続ける



6 更新開始(INFO ランプが速点滅(赤))されるため、MULTIスイッチを離し、更新完了後、自動的に再起動されるまで待つ



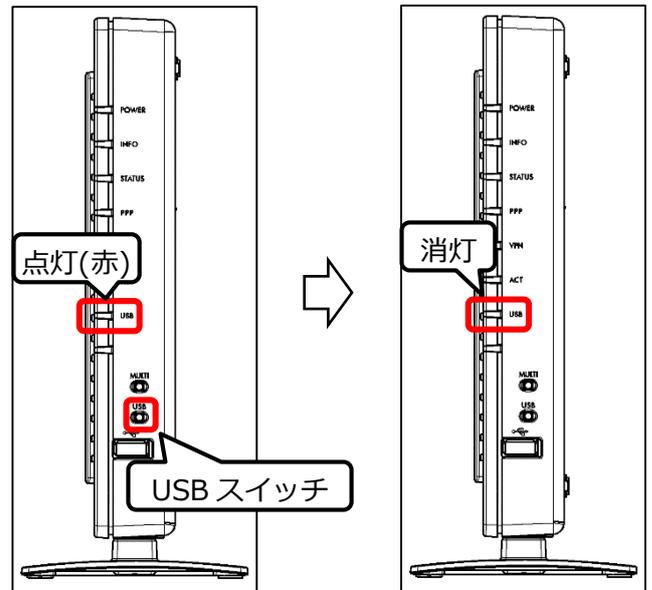
7 トップページからシステムバージョンを確認する



8 USB スイッチを 2 秒間押し続けて USB メモリを取り外す

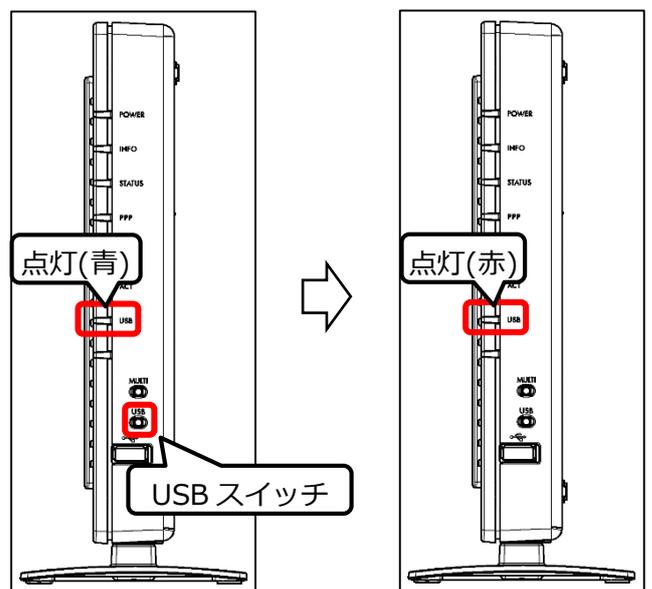
接続されている USB メモリが 1 つだけの場合

USB スイッチを 2 秒間押し続けると、USB ランプが消灯し、USB メモリが取り外し可能となります。USB ランプが消灯しているのを確認してから USB メモリを取り外してください。USB ポート（前面）と USB ポート（背面）いずれも同じ手順となります。



接続されている USB メモリが 2 つの場合

「接続されている USB メモリが 1 つだけの場合」と同じ操作を行うと、USB ランプが点灯(青)から点灯(赤)になり、USB ポート（前面）の取り外しが可能となります。もう一度同じ操作で、USB ランプが消灯し USB ポート（背面）の取り外しが可能となります。

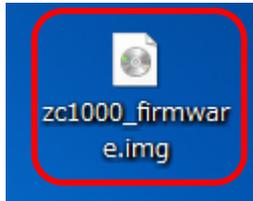


● パソコンから更新する

パソコンからファームウェアを更新します。

パソコンから更新するにはファームウェアファイルが必要になります。ファームウェアファイルをご用意してから、お読みください。

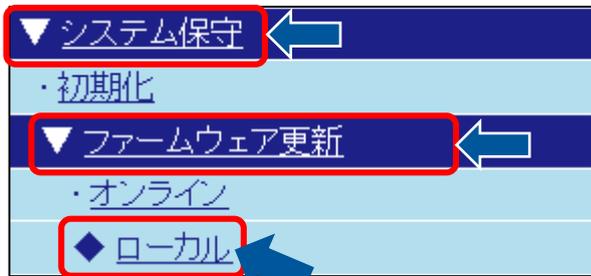
1 パソコンの任意のフォルダにファームウェアファイルを保存する



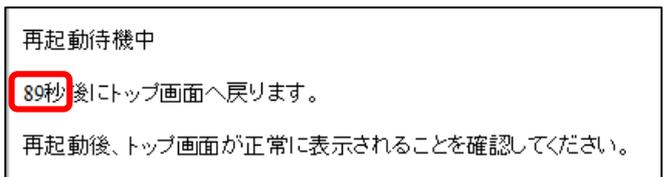
5 ローカルファームウェア更新を開始する



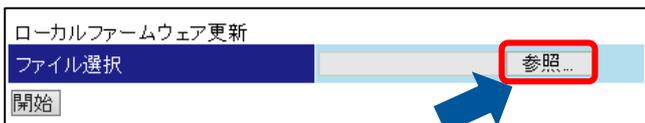
2 ローカル画面を表示する



6 再起動が完了するまで待つ



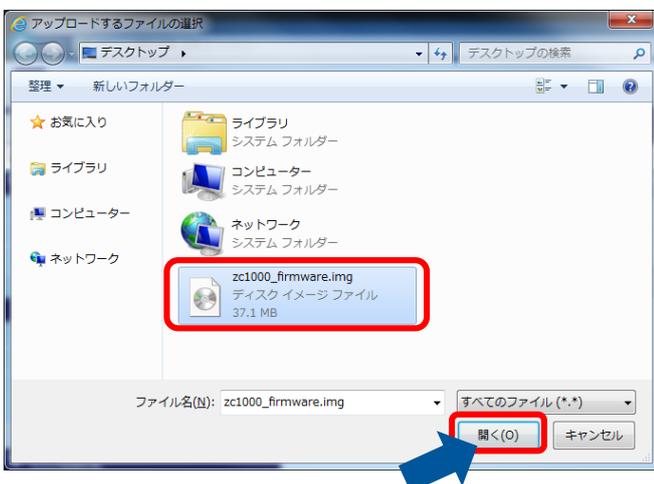
3 ローカルファームウェア更新のファイル選択でファームウェアファイルを参照する



7 システムバージョンを確認する



4 ファームウェアファイルを選択する



● 指定した時刻に自動で更新する

指定した時刻に自動で更新する設定をします。

1 オンライン画面を表示する



2 オンラインファームウェア更新設定を設定する

オンラインファームウェア更新設定	
オンラインファームウェア更新機能	有効(自動更新する) <input checked="" type="checkbox"/> ①
更新チェック時刻	2 時 ②
更新チェック周期	3 日 ③
更新後の自動再起動時刻	4 時 ④
ファームウェア更新先	<input checked="" type="radio"/> サクサ更新サーバ <input type="radio"/> その他 ⑤
ファームウェア更新先URL	<input type="text"/>
<input checked="" type="button" value="設定保存"/> ⑥ <input type="button" value="元に戻す"/>	

①オンラインファームウェア更新機能

自動更新する場合

「有効(自動更新する)」を選択してください。

「有効(自動更新する)」を選択すると設定された時刻、周期で新しいファームウェアの有無を確認します。

新しいファームウェアがあった場合は更新を開始します。指定された時刻に再起動を行いますので注意してください。

更新チェックのみ行う場合

「有効(更新チェックのみ)」を選択してください。

「有効(更新チェックのみ)」では更新を行いません。新しいファームウェアがあるかを確認します。

新しいファームウェアがあった場合、INFO ランプが点灯(赤)します。

無効にする場合

「無効」を選択してください。

「無効」を選択すると更新に関連する動作はすべて無効になります。

②更新チェック時刻

更新チェックを行う時刻を設定します。設定された時刻より、-60分～+59分のうちランダムに選ばれた時刻に更新チェックを行います。

③更新チェック周期

[更新チェック周期]を選択してください。設定された日数毎に更新チェックを行います。

④更新後の自動再起動時刻

更新後の[自動再起動時刻]を選択してください。ファームウェアの更新が完了すると設定した時刻に再起動を行います。

⑤ファームウェア更新先

サクサ更新サーバを使用する場合

「サクサ更新サーバ」を選択してください。

サクサ更新サーバ以外を使用する場合

「その他」を選択してください。その他を選択するとファームウェア更新先 URL が有効になりますので更新先の URL を入力してください。

ファームウェア更新先

サクサ更新サーバ その他

ファームウェア更新先URL

設定保存 元に戻す

⑥設定保存ボタン

入力が完了しましたら設定保存ボタンを押してください。

● WEB ブラウザから手動で更新する

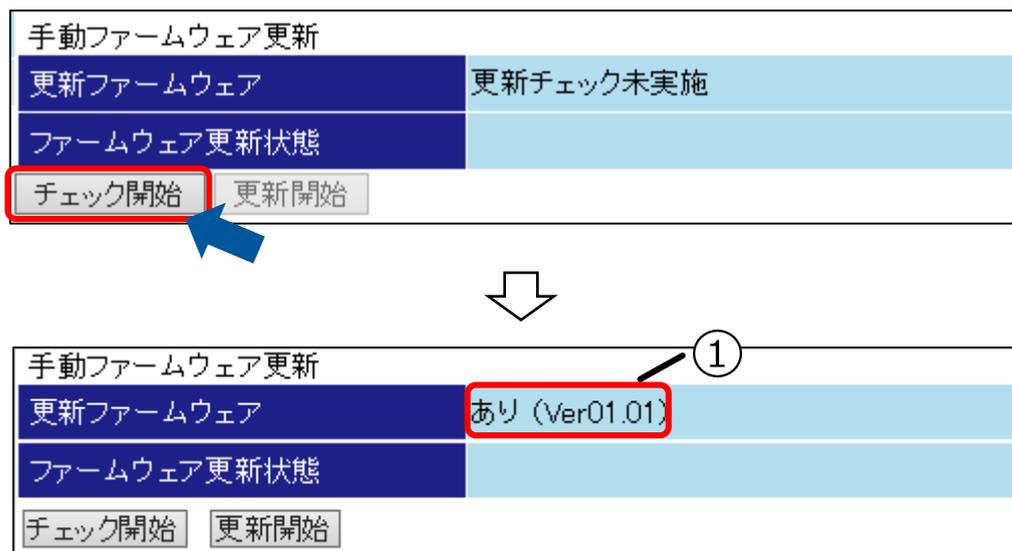
WEB ブラウザから手動で更新する設定をします。

本機能を実行することでインターネットからファームウェアファイルをダウンロードして更新することができます。本機能で使用するファームウェア更新先は[オンラインファームウェア更新設定]で指定している更新先となります。

1 オンライン画面を表示する



2 手動ファームウェア更新のチェック開始を押す



①更新ファームウェア

チェックの結果が表示されます。

チェックの結果が「あり(Verxx.xx)」だった場合

新しいバージョンへ更新ができます。**更新開始**ボタンを押して新しいバージョンに更新してください。更新完了後は自動で再起動します。

手動ファームウェア更新	
更新ファームウェア	あり (Ver01.01)
ファームウェア更新状態	
チェック開始	更新開始



ファームウェア更新中です。更新完了までお待ちください。
更新が完了すると、自動的に再起動されます。

更新停止

更新完了後はトップページからバージョンを確認してください。

インターネットへの接続設定を かんたん設定で行います	詳細設定や本装置の 保守を行います		
プロバイダ設定	詳細設定と保守		
プロバイダ状態			
インタフェース	状態	IPアドレス	操作
WAN(IPoE)	通信中	119.119.119.119	停止
Version : 01.01			

チェックの結果が「なし」だった場合

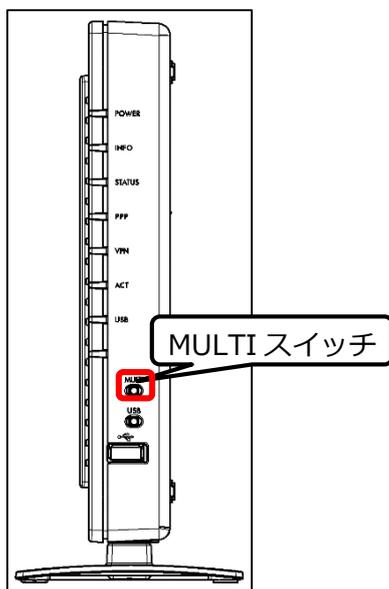
更新の必要はありません。現在のファームウェアバージョンが最新バージョンとなります。

手動ファームウェア更新	
更新ファームウェア	なし
ファームウェア更新状態	
チェック開始	更新開始

● MULTI スイッチで更新する

MULTI スイッチを使用し、手動でオンラインでファームウェア更新ができます。

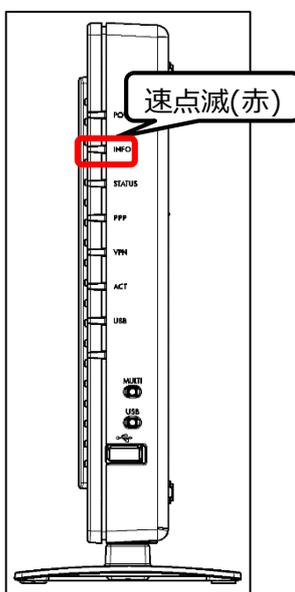
1 MULTI スイッチを5秒間押し続ける



2 最新ファームウェアの有無を確認(INFO ランプの速点滅(赤))する

サーバ上に最新ファームウェアがある場合

INFO ランプの速点滅(赤)が継続し、更新完了後に自動で再起動します。



再起動が完了しましたらトップページからシステムバージョンを確認してください。



サーバ上に最新ファームウェアがない場合

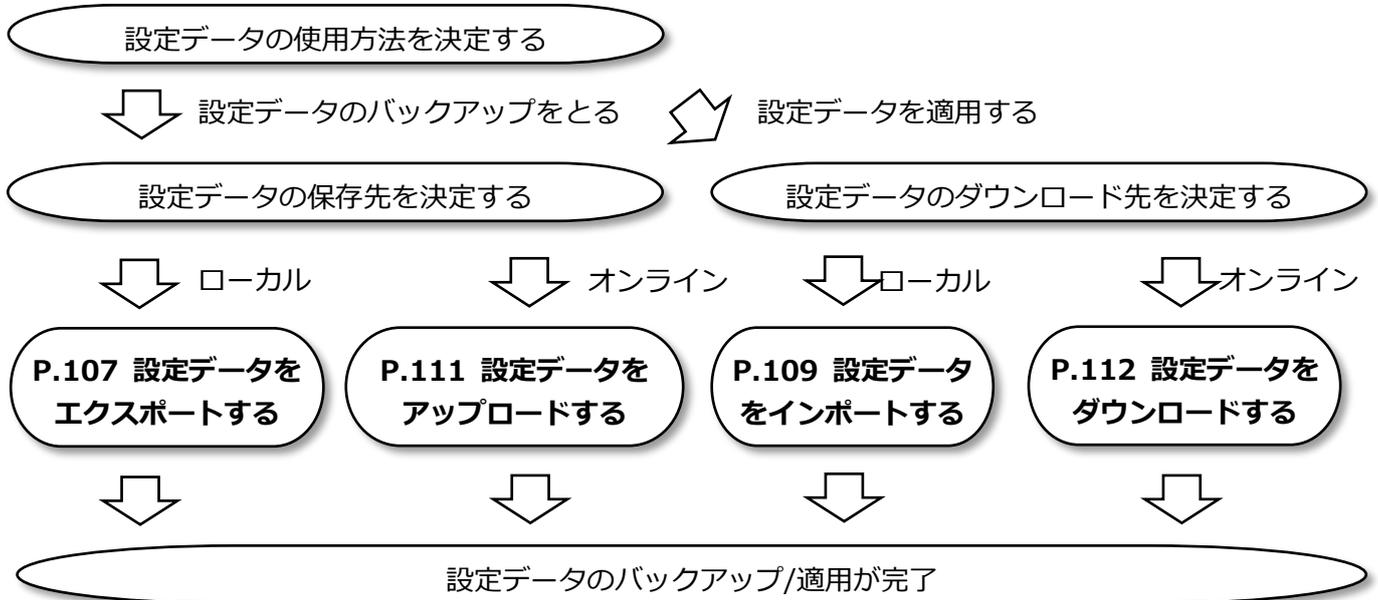
INFO ランプが消灯します。

◆ 設定データを管理する

設定データを管理します。

設定データを管理することで設定データの適用、外部への保存ができます。

- 大幅な設定変更などを行う場合には設定のバックアップを行ってください。



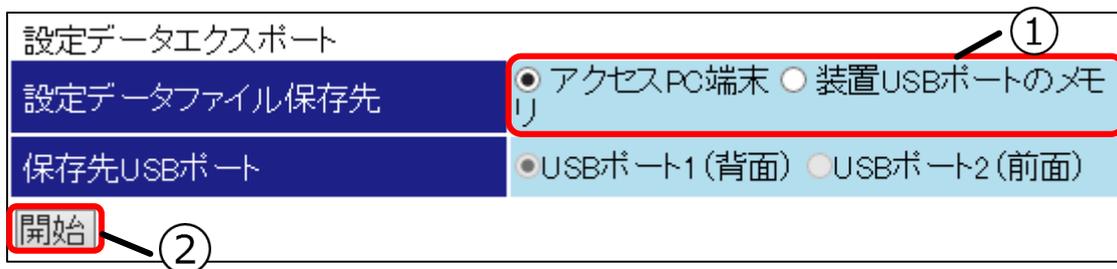
● 設定データをエクスポートする

設定データをエクスポートします。

1 エクスポート/インポート画面を表示する



2 設定データエクスポートを設定する



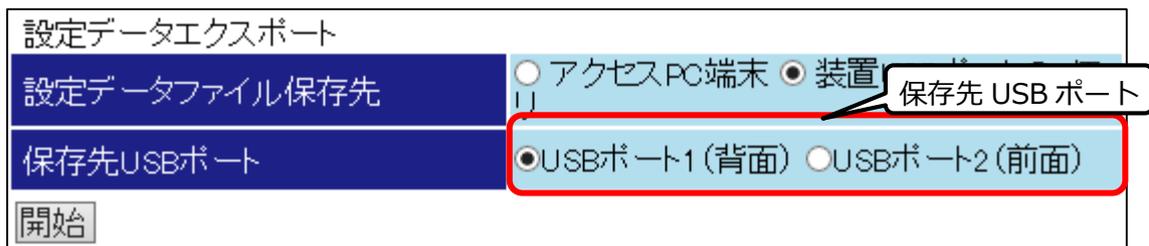
① 設定データファイル保存先

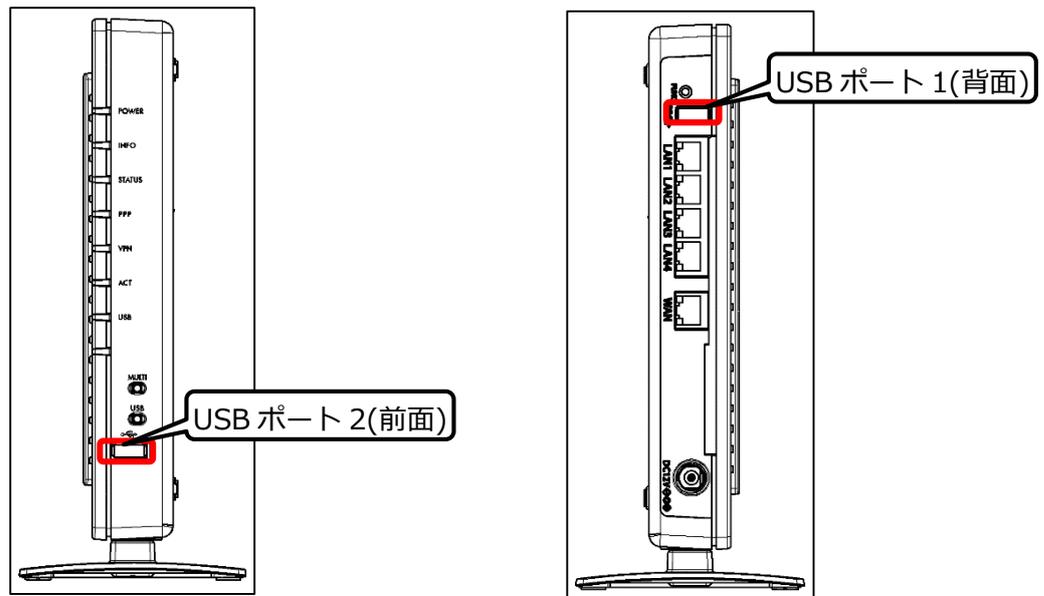
PCへエクスポートする場合

「アクセスPC端末」を選択してください。

USBメモリへエクスポートする場合

「装置USBポートのメモリ」を選択し、保存先USBポートを選択してください。
設定データを保存するUSBメモリを保存先ポートに接続してください。





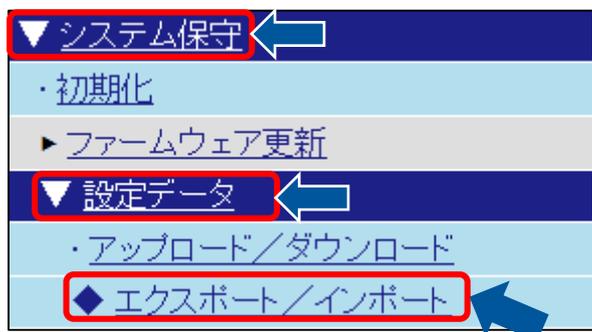
②開始ボタン

入力が完了しましたら**開始**ボタンを押してください。完了しましたら『[USBメモリから更新する](#)』を参照し、USBメモリを取り外してください。

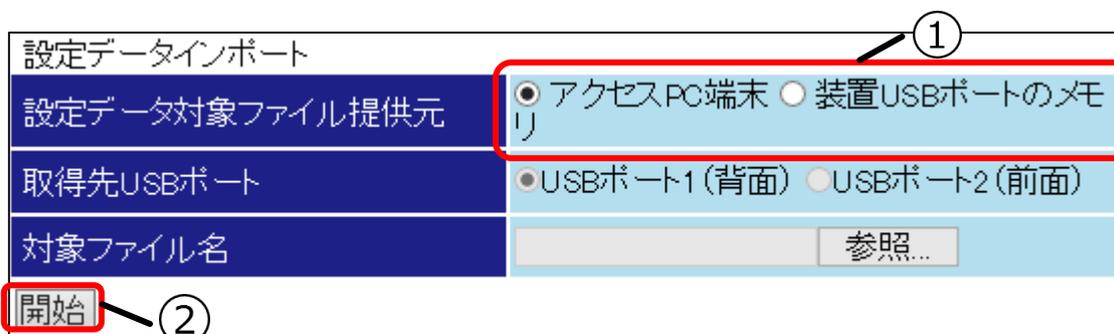
● 設定データをインポートする

設定データをインポートします。

1 エクスポート/インポート画面を表示する



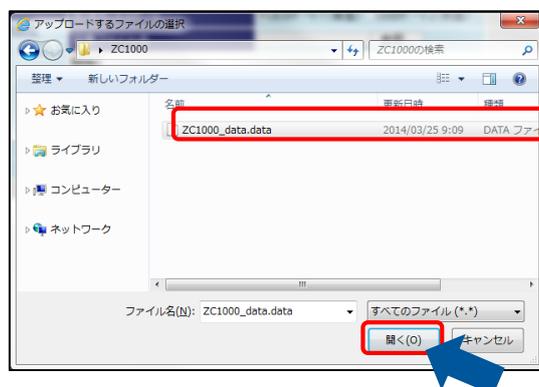
2 設定データインポートを設定する



① 設定データ対象ファイル提供元

PCからインポートする場合

「アクセス PC 端末」を選択し、**参照**ボタンを押してください。インポートするファイルを選択し、「開く」を押してください。



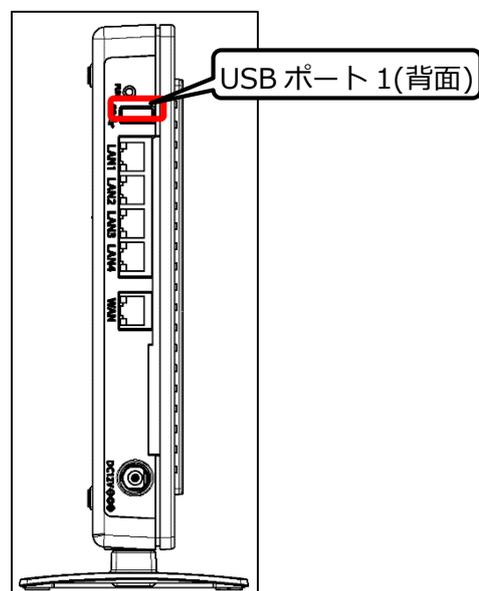
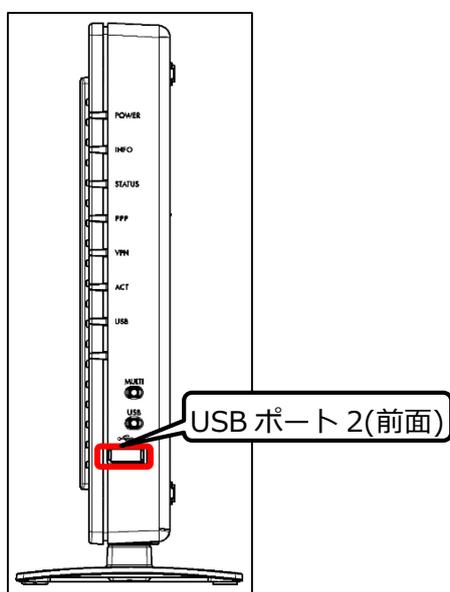
USBメモリからインポートする場合

「装置 USB ポートのメモリ」を選択してください。

「装置 USB ポートのメモリ」を選択すると、[取得先 USB ポート]と[対象ファイル名]が有効になります。

[取得先 USB ポート]で USB メモリを接続するポートを選択し、[対象ファイル名]に USB メモリに保存した設定データファイル名を入力してください。

設定データインポート		
設定データ対象ファイル提供元	<input type="radio"/> アクセスPC端末 <input checked="" type="radio"/> 装置 USB ポートのメモリ	取得先 USB ポート
取得先USBポート	<input checked="" type="radio"/> USBポート1 (背面) <input type="radio"/> USBポート2 (前面)	
対象ファイル名	<input type="text"/>	対象ファイル名
開始		



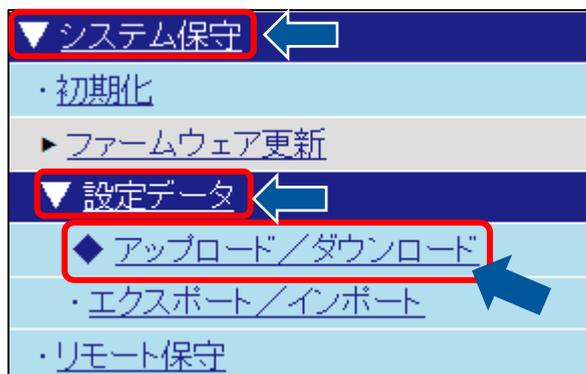
②開始ボタン

開始ボタンを押してください。完了しましたら『[USBメモリから更新する](#)』を参照し、USBメモリを取り外してください。

● 設定データをアップロードする

本製品の設定データを管理サーバへアップロードします。

1 アップロード/ダウンロード画面を表示する



2 設定アップロードを押す



設定データアップロード中です。完了までお待ちください。
アップロードが完了すると、自動的にアップロード/ダウンロード画面に戻ります。



① 設定アップロードボタン

設定アップロードボタンを押すと設定アップロードが開始されます。

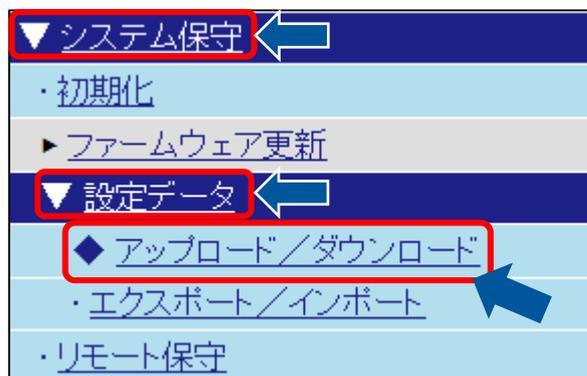
② 設定データタイムスタンプ

設定アップロードが完了すると完了した時間が表示されます。

● 設定データをダウンロードする

本製品の設定データを管理サーバへダウンロードします。ダウンロードした設定データを反映し、自動で再起動します

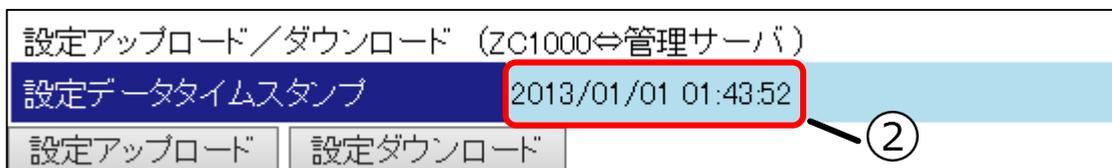
1 アップロード/ダウンロード画面を表示する



2 設定ダウンロードを押す



設定データダウンロード中です。完了までお待ちください。
ダウンロードしたデータと現在の設定データが異なる場合は、ダウンロード完了後、自動的に再起動されます。



① 設定ダウンロードボタン

設定ダウンロードボタンを押すと設定ダウンロードが開始されます。

② 設定データタイムスタンプ

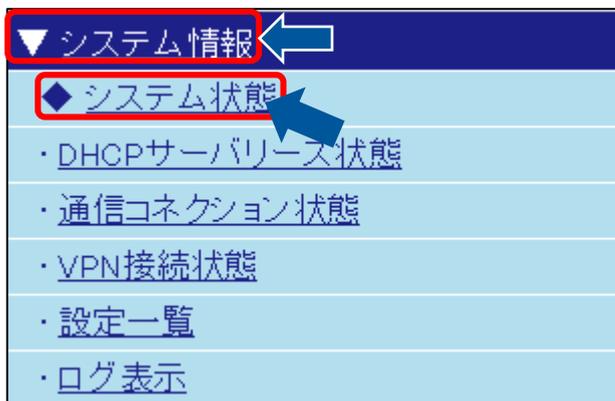
設定ダウンロードが完了すると完了した時間が表示されます。

◆ システムの状態を確認する

システムの状態を確認します。

情報を表示することで本製品の状態を確認することができます。表示できる情報は、[システム情報]、[インタフェース情報]、[WAN/LANポート情報]です。

1 システム状態を表示する



2 システム状態画面について

A screenshot of the system status page with four numbered callouts:

- ①: '更新' (Update) button
- ②: System information table
- ③: Interface information table
- ④: WAN/LAN port information table

システムバージョン	01.00
MACアドレス(WAN)	00:02:83:00:00:01
MACアドレス(LAN)	00:02:83:00:00:02
現在時刻	2023/08/28 09:55:52

インタフェース	状態	IPアドレス	送信パケット数	受信パケット数	操作
WAN(IPoE)	通信中	119.21.127.10	374	845	停止 再取得
PPPoE1	無効		0	0	開始
PPPoE2	無効		0	0	開始
PPPoE3	無効		0	0	開始
PPPoE4	無効		0	0	開始
PPPoE5	無効		0	0	開始
LAN	通信中	192.168.1.1	636	1148	

ポート	状態	リンク速度
WAN	リンクアップ	100Mbps 全二重
LAN1	リンクアップ	100Mbps 全二重
LAN2	リンクダウン	
LAN3	リンクダウン	
LAN4	リンクダウン	

①更新ボタン

更新ボタンを押すと表示中の[システム情報]、[インタフェース情報]、[WAN/LAN ポート情報]が更新されます。

②システム情報

[システム情報]ではシステムバージョン、MAC アドレス(WAN)、MAC アドレス(LAN)、現在時刻が表示されます。

表示される現在時刻はシステム状態画面を表示した時点の時刻です。

③インタフェース情報

現在の LAN/WAN インタフェース状態が表示されます。

また、有効となっている WAN インタフェースは操作ができます。操作の種類はプロバイダの接続方法で異なります。

プロバイダの接続種別が PPPoE(IPv4)の場合

「開始」と「停止」の操作ができます。

プロバイダの接続種別が IPoE(IPv4)の場合

「開始」と「停止」の操作ができます。また、DHCP を使用する IPoE を接続種別に行っている場合、IP アドレスの「再取得」の操作ができます。

④WAN/LAN ポート情報

WAN/LAN ポート情報では WAN ポート、LAN ポートの状態とリンク速度が表示されます。

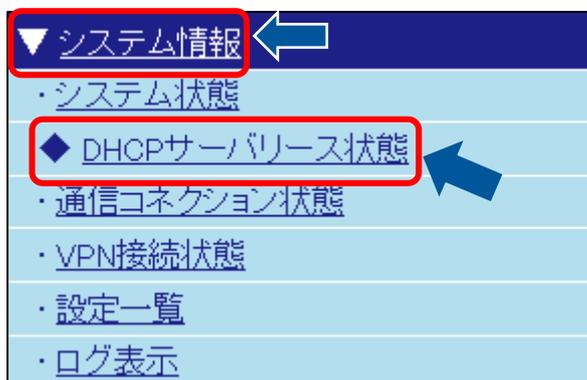
状態では各ポートに通信可能な端末が接続されているかが表示され、リンク速度では通信に使用されている速度が表示されます。

◆ IP アドレスのリース状態を確認する

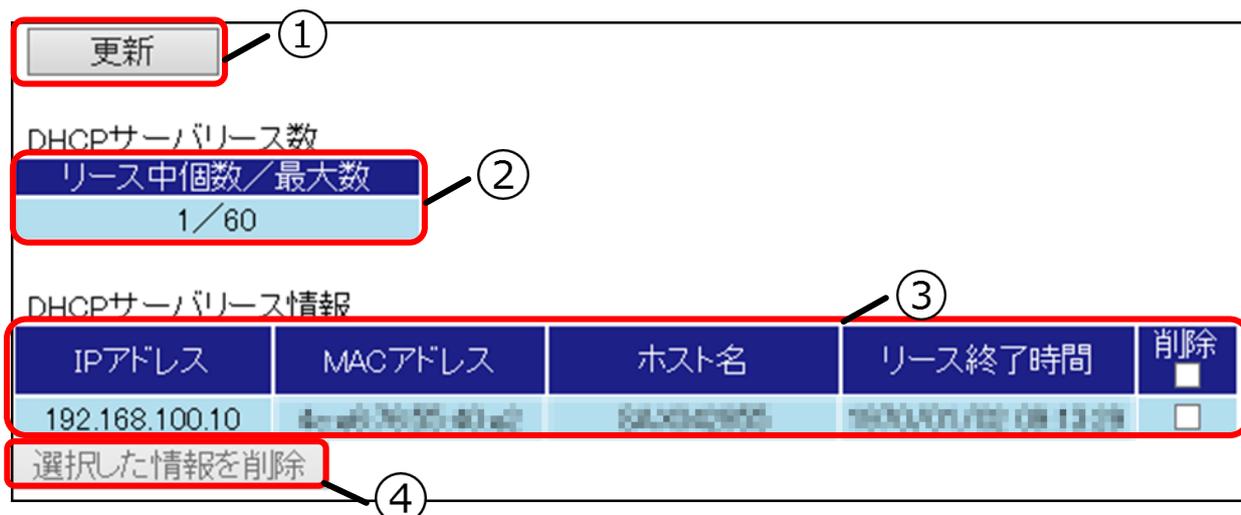
IP アドレスのリース状態(払い出し)を確認します。

DHCP サーバリース状態確認画面ではリース状態の確認とリース状態の削除が行えます。

1 DHCP サーバリース状態画面を表示する



2 DHCP サーバリース画面について



①更新ボタン

更新ボタンを押すことで DHCP サーバリース数と DHCP サーバリース情報を最新の状態に更新することができます。

②DHCP サーバリース数

リース中の IP アドレスの個数を表示します。最大数は DHCP サーバ設定(IPv4)で設定した払い出し IP アドレス個数で設定した個数です。

③DHCP サーバリース情報

DHCP サーバリース情報では払い出した IP アドレスとリース中の端末の MAC アドレス、ホスト名、リース終了時間が表示されます。

また、削除のチェックボックスを使用することで払い出している IP アドレスを削除することができます。

④ 選択した情報を削除ボタン

選択した情報を削除ボタンを押すことで削除が実行されます。

DHCPサーバリース情報				
IPアドレス	MACアドレス	ホスト名	リース終了時間	削除
192.168.100.10	08-00-27-08-40-02	SAKUMOTO	1870/04/02 09:13:29	<input checked="" type="checkbox"/>
選択した情報を削除				

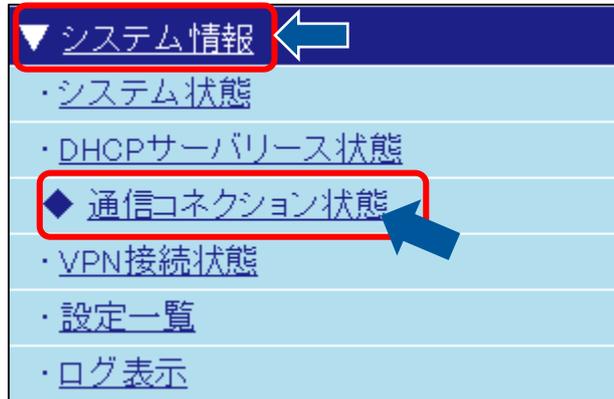


◆ ネットワークの通信状態を確認する

本製品のネットワークの通信状態を確認します。

通信コネクション状態画面では通信状態の確認、通信情報のエクスポート、通信情報の削除が行えます。

1 通信コネクション状態画面を表示する



2 通信コネクション状態画面について

A screenshot of the '通信コネクション状態' (Communication Connection Status) page. It features a summary section at the top with '通信コネクション数' (1/16384) and buttons for '更新', '通信コネクション情報エクスポート', and '全削除'. Below is a filter section with 'フィルタ表示' and input fields for 'プロトコル', 'IPアドレス', and 'ポート番号'. The main area is a table of connection information with a '更新時刻: 2013/01/02 04:49:19' timestamp. The table has columns for '初回パケット' and '応答パケット'.

プロトコル	有効時間(秒)	初回パケット				応答パケット			
		送信元IPアドレス	宛先IPアドレス	送信元ポート	宛先ポート	送信元IPアドレス	宛先IPアドレス	送信元ポート	宛先ポート
tcp	3599	192.168.100.10	192.168.100.1	57817	80	192.168.100.1	192.168.100.10	80	57817

①通信コネクション数

ページ表示時に有効だったコネクション数が表示されます。

②表示フィルタ

表示する通信コネクションを選択して表示することができます。フィルタの種別は[プロトコル]、[IPアドレス]、[ポート番号]の3種類があります。[フィルタ表示]ボタン入力された内容に該当する通信コネクションが表示されます。

③通信コネクション情報

ページ表示時に有効だった通信コネクションの情報が表示されます。有効時間を越えたコネクションは削除されます。

④更新時刻

ページ表示時の時刻です。

⑤更新ボタン

[更新]ボタンを押すと最新の通信コネクション情報を表示します。

⑥通信コネクション情報エクスポート

通信コネクション情報をダウンロードして保存することができます。

⑦全削除

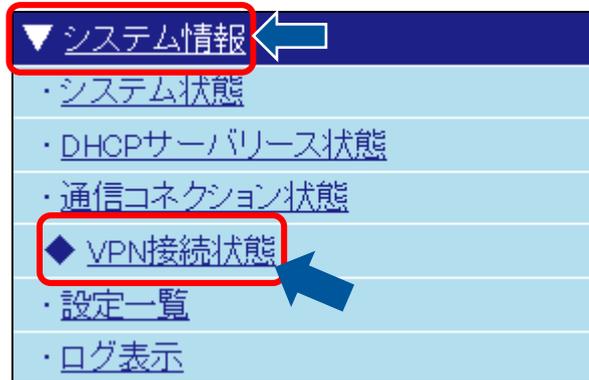
すべての通信コネクション情報を削除します。

◆ VPN 接続状態を確認する

VPN の接続状態を確認します。

VPN 接続状態では[自装置 VPN 情報]、[IPsec VPN 接続状態(拠点間 VPN)]、[IPsec VPN 接続状態(管理サーバ通信用 VPN)]、[L2TP VPN 接続状態(接続中のみ)]の確認ができます。

1 VPN 接続状態画面を表示する



2 VPN 接続状態画面について

A screenshot of the VPN connection status page. It contains several sections and tables. Callouts 1 through 5 point to specific elements:

- ①: 更新 (Refresh) button
- ②: Table header for '自装置VPN情報' (Local Device VPN Information)
- ③: Table header for 'IPsec VPN接続状態(拠点間VPN)' (IPsec VPN Connection Status (Site-to-Site VPN))
- ④: Table header for 'IPsec VPN接続状態(管理サーバ通信用VPN)' (IPsec VPN Connection Status (Management Server Communication VPN))
- ⑤: Table header for 'L2TP VPN接続状態(接続中のみ)' (L2TP VPN Connection Status (Only Connected))

ユーザ名	設置場所名
○○株式会社	本社

ユーザ名	設置場所名	接続先IPアドレス	接続先ネットワーク	接続状態
○○株式会社	関西支社	111.111.111.11	192.168.101.0/24	接続完了
○○株式会社	九州支社			接続開始処理中

接続先IPアドレス	接続先ネットワーク	接続状態
192.168.101.100	192.168.101.0/24	接続完了

接続ユーザ名	抽出しIPアドレス	種別
1234567890@company.fight	192.168.100.200	リモート保守
asdd@coo	192.168.100.100	リモートアクセス

① **更新ボタン**

更新ボタンを押すことで最新のVPN接続情報を表示します。

② **自装置VPN情報**

本製品のVPN情報を表示します。

③ **IPsec VPN 接続状態(拠点間VPN)**

IPsec VPN 接続状態の拠点間VPNに関する情報を表示します。

④ **IPsec VPN 接続状態(管理サーバ通信用VPN)**

IPsec VPN 接続状態の管理サーバ通信用VPNに関する情報を表示します。

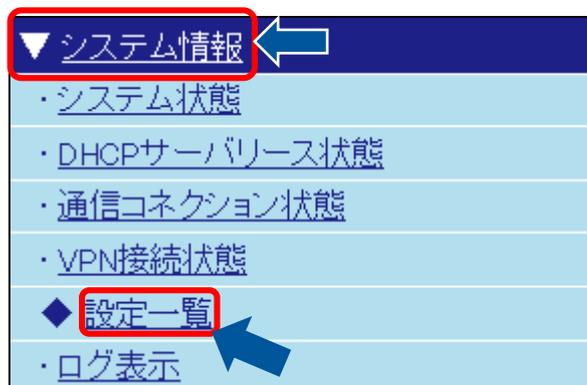
⑤ **L2TP VPN 接続状態(接続中のみ)**

L2TP VPN 接続に関する情報を表示します。

◆ 設定情報を確認する

設定情報の一覧を表示します。

1 設定一覧画面を表示する



2 設定一覧について

システム情報 > **設定一覧** ①

■ 基本設定

(1) WAN/プロバイダ	(2) LAN	(3) ルーティング	(4) DNS	(5) IPマスカレード
(6) 静的IPマスカレード	(7) 静的NAT	(8) DMZ	(9) PPTP VPN	

■ その他設定

(10) セキュリティレベル	(11) 静的フィルタ	(12) SPI動的フィルタ	(13) IDS侵入検知	(14) ステルス
(15) 優先・帯域制御	(16) UPnP	(17) ブリッジ	(18) SNMP	(19) アカウント
(20) 時刻	(21) ログ	(22) ハード関連		

■ システム保守

(23) [オンラインファームウェア更新](#)

(1) [WAN/プロバイダ](#)

機能設定

接続種別 ② [△先頭に戻る](#)

IPoE (IPv4)

① 設定項目へのリンク

表示したい設定項目名を左クリックすることでクリックされた設定項目を表示します。

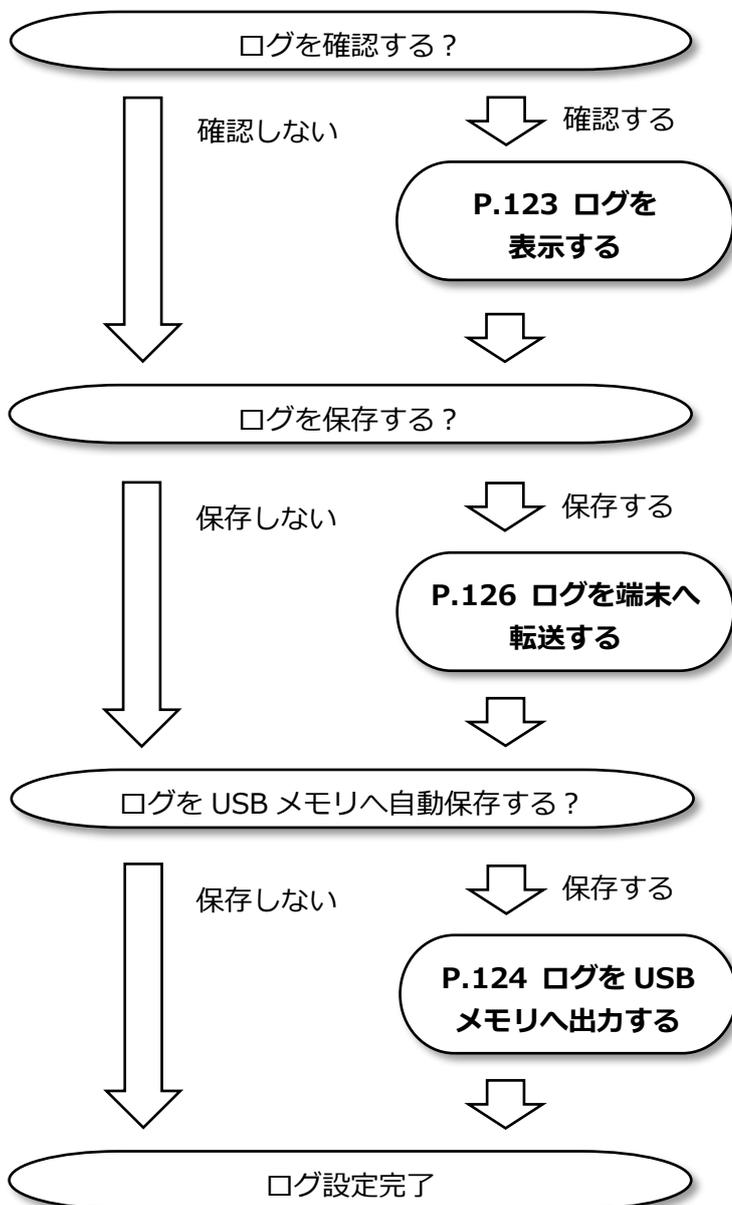
② △先頭に戻る

[△先頭に戻る](#)のリンクをクリックすることで画面上部に表示が切り替わります。

◆ ログを確認する

本製品のログを確認します。
ログの確認とログの外部保存ができます。

- サポートセンターの指示にしたがって作業を行ってください。

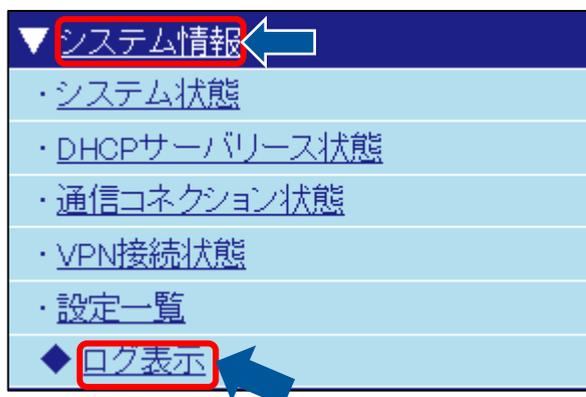


● ログを表示する

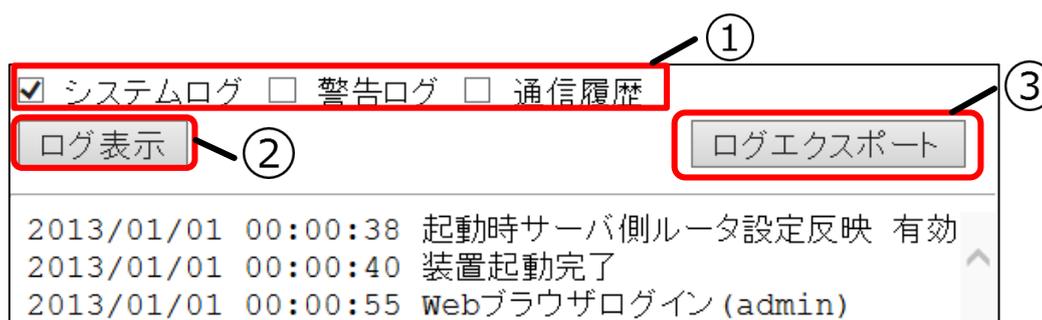
ログを表示する手順を説明します。

ログを表示し、本製品で発生したイベントを確認することができます。

1 ログ表示画面を表示する



2 ログ表示画面について



① ログ表示フィルタ

表示するログを選択してください。

② ログ表示ボタン

ログ表示ボタンを押すとログ表示フィルタで選択されているログが表示されます。選択されていないログは表示されません。

③ ログエクスポートボタン

ログエクスポートボタンを押すとパソコン上に保存できます。

● ログを USB メモリへ出力する

ログを USB メモリへ出力します。

USB メモリへのログ出力を有効にすることでログを USB メモリへ自動保存できます。USB メモリを取り外す場合は『[USB メモリから更新する](#)』を参照し、USB メモリを取り外してください。

1 ログ画面を表示する



2 USB ログ出力設定を設定する

USBログ出力設定	
USBログ出力機能	<input type="radio"/> 無効 <input checked="" type="radio"/> 有効 ①
出力先USBポート	<input checked="" type="radio"/> USBポート1 (背面) <input type="radio"/> USBポート2 (前面) ②
出力USBログ基本ファイル名	zc1000_log.txt ③
最大保存ファイル数	30 個 ④
ログ転送設定	
ログ転送機能	<input checked="" type="radio"/> 無効 <input type="radio"/> 有効
転送先ホスト	<input type="text"/>
転送先ポート	514
設定保存	<input type="button" value="戻る"/> ⑤

①USB ログ出力機能

「有効」を選択してください。

②出力先 USB ポート

出力先の USB ポートを選択してください。ここで選択した USB ポートへログが出力されます。

③出力 USB ログ基本ファイル名

保存するログのファイル名を入力してください。

④最大保存ファイル数

保存ファイル数を入力してください。入力されたファイル数でログを保存します。入力されたファイル数を超える場合、古いファイルから上書きしていきます。(* 1)

⑤設定保存ボタン

入力が完了しましたら設定保存ボタンを押してください。

* 1 : ログファイル 1 個の最大サイズは約 2.5MB です。

● ログを端末へ転送する

ログを端末へ転送します。

ログ転送機能を有効にすることで転送先に指定したホストに転送することができます。

1 ログ画面を表示する



2 ログ転送設定を設定する

ログ転送設定	
ログ転送機能	<input type="radio"/> 無効 <input checked="" type="radio"/> 有効 ①
転送先ホスト	<input type="text"/> ②
転送先ポート	514 ③
<input type="button" value="設定保存"/> ④	<input type="button" value="元に戻す"/>

① ログ転送機能

「有効」を選択する。

② 転送先ホスト

転送先ホストの IP アドレス、または FQDN を入力してください。

③ 転送先ポート

転送先のポート番号を入力してください。

④ 設定保存ボタン

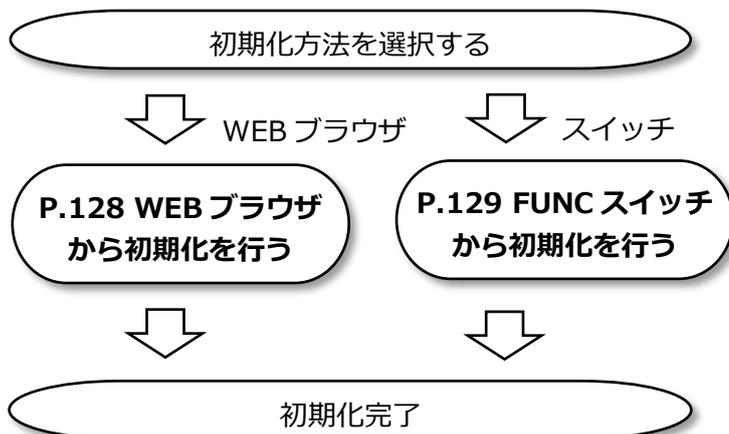
入力が完了しましたら ボタンを押してください。

◆ 設定内容を初期化する

設定内容を初期化します。

初期化することで設定データ、ログ、システム情報を工場出荷時の状態にすることができます。

- 初期化を行う前に設定のバックアップをお勧めします。



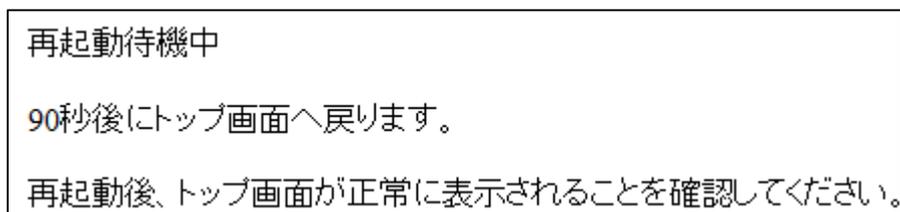
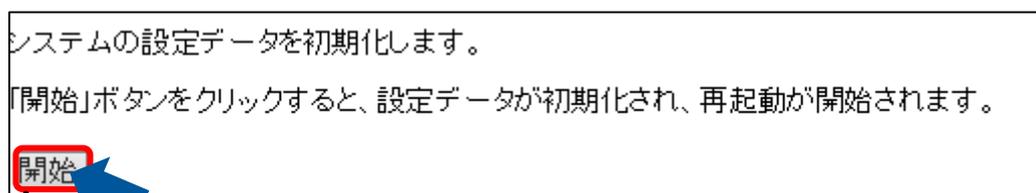
● WEB ブラウザから初期化を行う

WEB ブラウザから初期化を行います。

1 初期化画面を表示する



2 開始を押す



① 開始ボタン

初期化が開始されます。初期化には再起動が伴います。

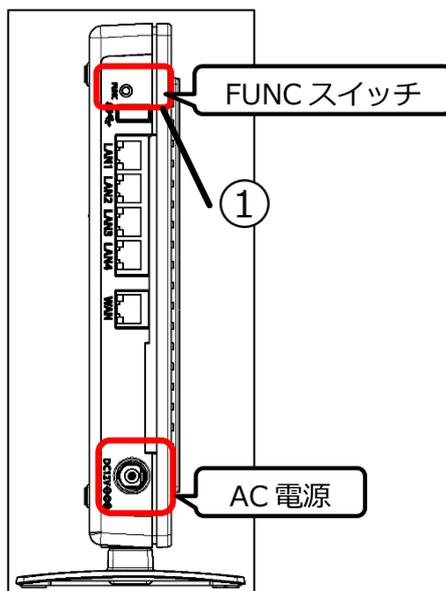
● FUNC スイッチから初期化を行う

FUNC スイッチから初期化を行います。

1 AC アダプタを電源から外す

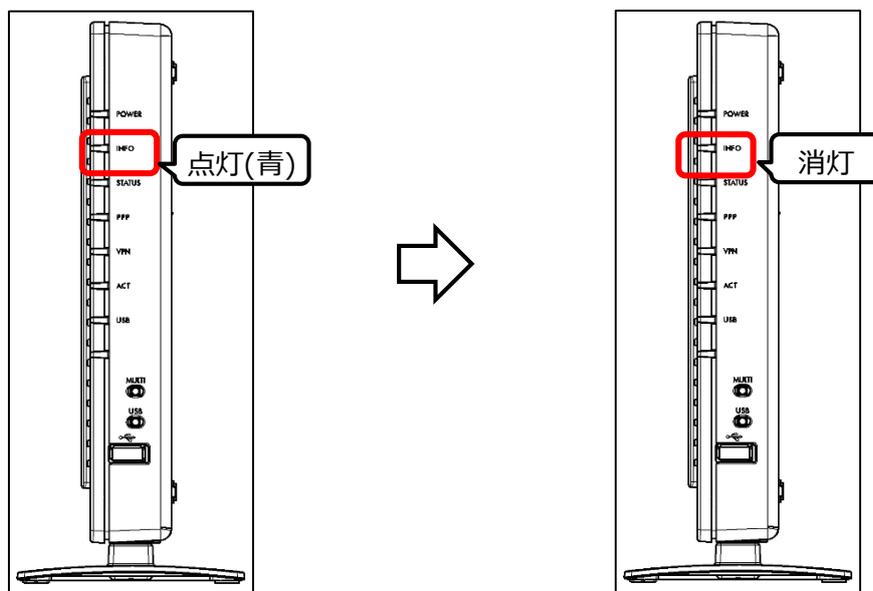
AC アダプタを電源から外してください。

2 FUNC スイッチを押しながら電源を投入する



① FUNC スイッチを押しながら電源を投入する

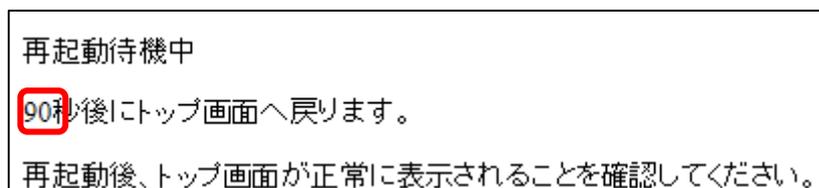
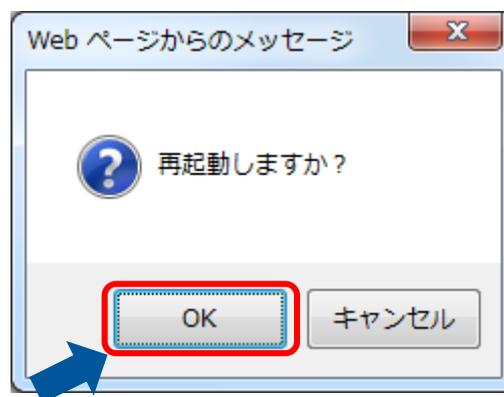
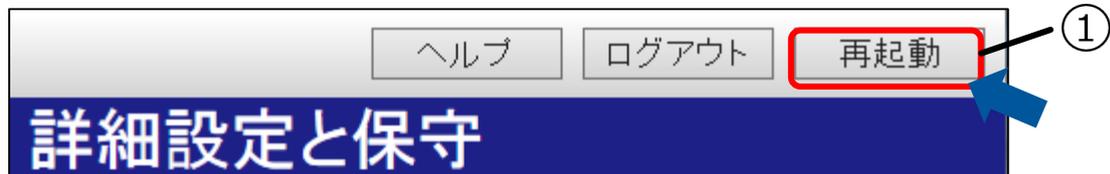
FUNC スイッチを押しながら電源を投入し、INFO ランプが点灯(青)するまで FUNC スイッチを押し続けてください。点灯(青)後、数秒で消灯します。消灯後、90 秒経過で初期化が完了します。



◆ 本製品を再起動する

本製品を再起動します。
WEB ブラウザから再起動することができます。

1 再起動を押す



①再起動ボタン

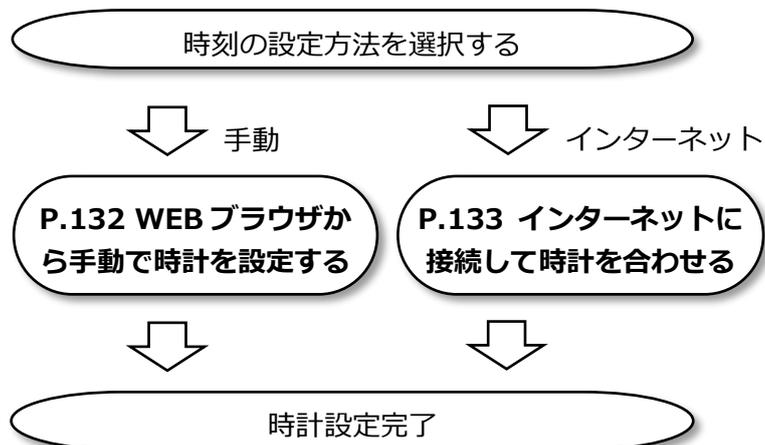
再起動ボタンを押すとメッセージが表示されますのでOKボタンを押してください。

◆ 時計を合わせる

本製品の時計を合わせます。

手動、または自動で時刻を設定することができます。

- インターネットからの時刻取得をお勧めします。



● WEB ブラウザから手動で時計を設定する

WEB ブラウザから手動で時計を設定します。

1 時刻画面を表示する



2 時刻設定を設定する

時刻設定	
現在時刻	2014/05/21 18:24:52
時刻入力	<input type="text"/> 年 <input type="text"/> 月 <input type="text"/> 日 <input type="text"/> : <input type="text"/> : <input type="text"/>
アクセスPC端末時刻取得	<input type="button" value="PC時刻取得"/>
NTPサーバアドレス5	<input type="text"/>
NTPサーバ問合せ	<input type="button" value="NTP時刻取得"/>
<input type="button" value="設定保存"/>	<input type="button" value="戻る"/>

①時刻を入力する

時刻を入力してください。入力の際は設定保存ボタンを押すまでの時間を考慮して入力してください。

②PC 時刻取得を押す

PC 時刻取得ボタンを押すとパソコンから時刻を取得した値を時刻入力欄に入力します。設定保存ボタンを押すまでの時間を考慮し、入力された時刻を調整してください。

③設定保存ボタン

入力が完了しましたら設定保存ボタンを押してください。

● インターネットに接続して時計を合わせる

インターネットに接続して時計を設定します。

1 時刻画面を表示する



2 NTP サーバアドレス設定を設定する

自動調整設定	
自動調整機能	<input type="radio"/> 無効 <input checked="" type="radio"/> 有効
調整時刻	0 時
調整周期	毎日
調整曜日	日曜日
調整日	1 日
NTPサーバアドレス設定	
NTPサーバアドレス1	<input type="text"/>
NTPサーバアドレス2	<input type="text"/>
NTPサーバアドレス3	<input type="text"/>
NTPサーバアドレス4	<input type="text"/>
NTPサーバアドレス5	<input type="text"/>
NTPサーバ問合せ	NTP時刻取得
<input type="button" value="設定保存"/> <input type="button" value="元に戻す"/>	

① 自動調整機能の「有効」ラジオボタン
 ② 調整時刻の「0 時」ドロップダウンメニュー
 ③ 調整周期の「毎日」ドロップダウンメニュー
 ④ NTPサーバアドレス1-5の入力フィールド
 ⑤ NTP時刻取得のラジオボタン
 ⑥ 設定保存ボタン

①自動調整機能

「有効」を選択してください。

②調整時刻

[調整時刻]を選択してください。指定した時刻に NTP サーバにアクセスし、時刻の補正を行います。

③調整周期

毎日時刻調整を行う場合

「毎日」を選択してください。[調整時刻]に時刻の補正を行います。

決まった曜日に時刻調整を行う場合

「毎週」を選択し、[調整曜日]を選択してください。指定した曜日の[調整時刻]に時刻の補正を行います。

調整周期	毎週	毎週
調整曜日	日曜日	調整曜日

決まった日にちに時刻調整を行う場合

「毎月」を選択し、[調整日]を入力してください。指定した[調整日]の[調整時刻]に時刻の補正を行います。

調整周期	毎月	毎月
調整曜日	日曜日	
調整日	1	調整日

④NTP サーバアドレス

[NTP サーバアドレス]を入力してください。入力した NTP サーバから時刻を取得します。

⑤NTP 時刻取得

NTP 時刻取得ボタンを押すと設定されている NTP サーバに対して時刻の取得を行います。

⑥設定保存ボタン

入力が完了しましたら設定保存ボタンを押してください。

◆ USB ポートの利用設定を変更する

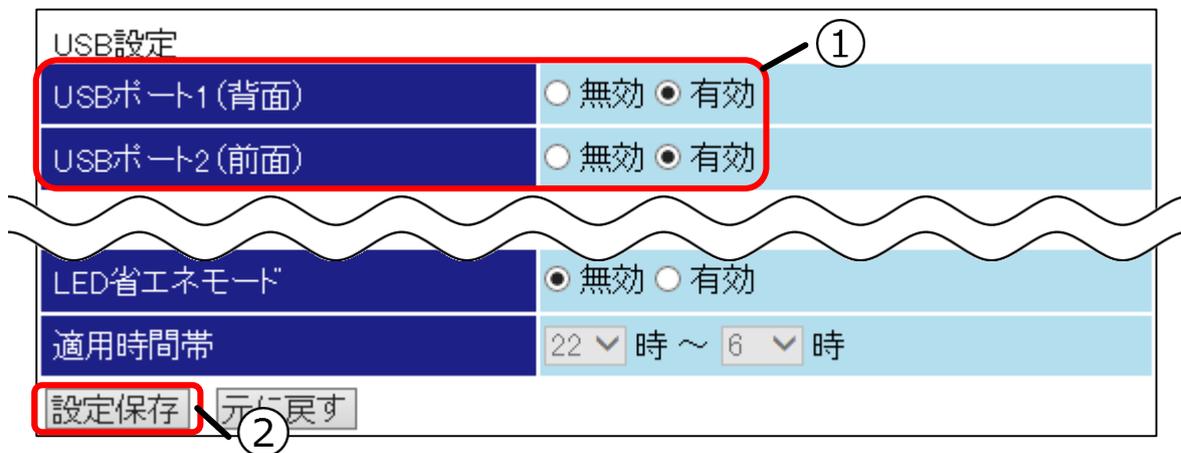
USB ポートの利用設定を変更します。

利用設定の変更では USB ポートの使用/不使用が設定できます。

1 ハード関連画面を開く



2 USB 設定を設定する



① USB ポート 1(背面)/2(前面)

USB ポートの利用有無を選択してください。無効にされた USB ポートは利用できなくなります。

② 設定保存ボタン

入力が完了しましたら設定保存ボタンを押してください。

◆ MULTI スイッチの機能を切り替える

MULTI スイッチの機能を切り替えます。

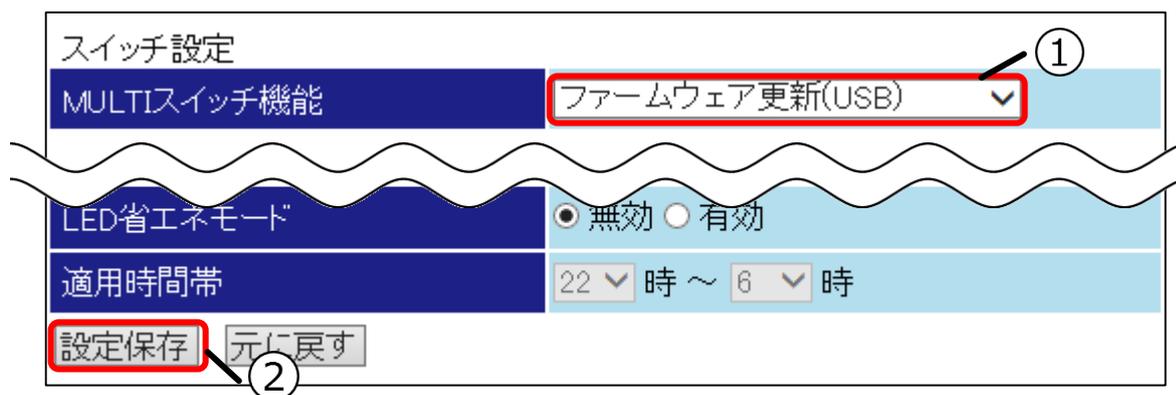
MULTI スイッチを使用することで WEB ブラウザを使用することなく、ファームウェア更新をすることができます。更新先となるのはあらかじめ設定されている MULTI スイッチの機能で決定されます。

MULTI スイッチの機能を切り替えることで、MULTI スイッチでの更新先を変更することができます。

1 ハード関連画面を表示する



2 スイッチ設定を設定する



① MULTI スイッチ機能

MULTI スイッチでの更新時に参照するファームウェアの保存先を選択してください。「無効」を選択すると MULTI スイッチ機能が使用できなくなります。(*1)

② 設定保存ボタン

入力が完了しましたら設定保存ボタンを押してください。

*1：無効の場合でもリモート保守の許可の実行は可能です。

◆ リンク設定を変更する

リンク設定を変更します。

LAN/WAN ポートのリンク設定を変更できます。

1 ハード関連画面を表示する



2 リンク設定を設定する

リンク設定	
WANポート	自動 ▼
LAN1ポート	自動 ▼
LAN2ポート	自動 ▼
LAN3ポート	自動 ▼
LAN4ポート	自動 ▼
LED省エネ機能設定	
LED省エネモード	<input checked="" type="radio"/> 無効 <input type="radio"/> 有効
適用時間帯	22 ▼ 時 ~ 6 ▼ 時
設定保存	元に戻す

① points to the dropdown menus in the Link Settings section. ② points to the '設定保存' button.

① リンク設定

[リンク設定]を選択してください。初期では「自動」が設定されていますので特別な理由がない場合は変更する必要はありません。

② 設定保存ボタン

入力が完了しましたら設定保存ボタンを押してください。

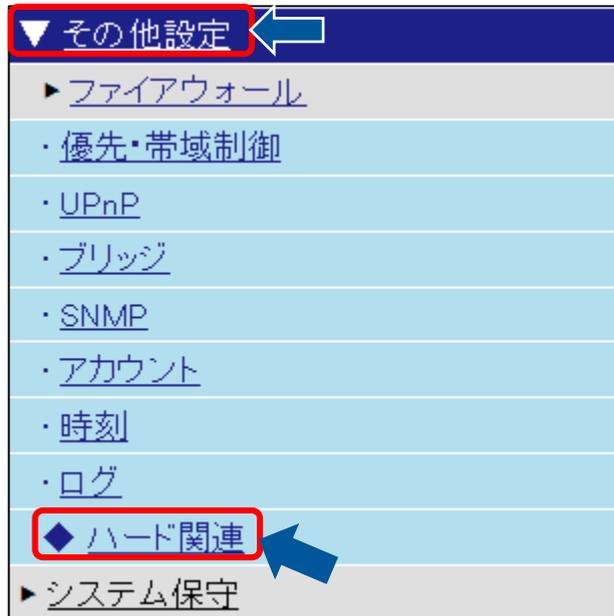
◆ ランプの省電力機能を切り替える

ランプの省電力機能を切り替えます。

ランプの動作を制限することにより、省電力で動作させることができます。

STATUS ランプ、PPP ランプ、VPN ランプを消灯し、POWER ランプを遅点滅(青)に切り替えます。

1 ハード関連画面を表示する



2 LED 省エネ機能設定を設定する



① LED 省エネモード

「有効」を選択してください。

② 適用時間帯

適用時間帯を選択してください。本製品動作中に選択した開始時間を迎えると終了時刻まで省エネモードとなります。

開始時刻と終了時刻を同じ時刻にすることで終日での動作となります。この場合も選択した開始時間を迎えると省エネモードとなります。

③ 設定保存ボタン

入力が完了しましたら設定保存ボタンを押してください。

◆ ログインパスワードを変更する

ログインパスワードを変更します。
ユーザ、管理者のパスワードを変更することができます。

1 アカウント画面を表示する



2 目的のアカウント設定を設定する

管理者アカウント設定	
ログインID	admin
パスワード	<input type="password"/>
パスワードの確認	<input type="password"/>
ユーザアカウント設定	
ログインID	user
パスワード	<input type="password"/>
パスワードの確認	<input type="password"/>
設定保存	元に戻す

① points to the password input field for the administrator account.
② points to the password input field for the user account.
③ points to the '設定保存' (Save Settings) button.

① 管理者アカウント設定

[パスワード]と[パスワードの確認]に変更後のパスワードを入力してください。

② ユーザアカウント設定

[パスワード]と[パスワードの確認]に変更後のパスワードを入力してください。

③ 設定保存ボタン

入力が完了しましたら設定保存ボタンを押してください。

◆ リモート保守の許可を実行する

リモート保守の許可を実行します。

リモート保守の許可の実行はブラウザ、または MULTI スイッチから行えます。

- リモート保守の許可の実行はサポートセンターの指示に従って行ってください。

リモート保守の許可の実行方法を選択する

↓ ブラウザ

↓ MULTI スイッチ

**P.141 WEB ブラウザから
リモート保守の許可を実行する**

**P.142 MULTI スイッチからリ
モート保守の許可を実行する**

↓

↓

リモート保守の許可実行完了

● WEB ブラウザからリモート保守の許可を実行する

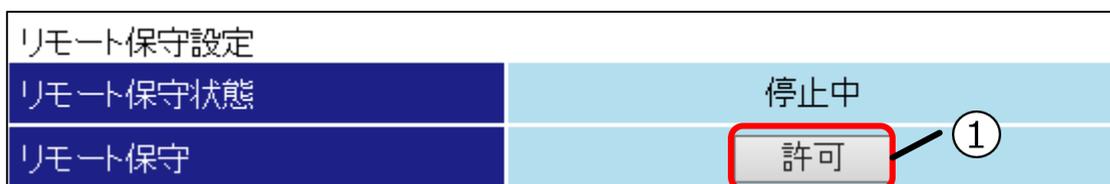
WEB ブラウザからリモート保守の許可を実行します。

本製品ではリモート(遠隔)での設定変更/保守が可能です。本機能の使用はサポートセンターの指示のもと行ってください。

1 リモート保守画面を表示する

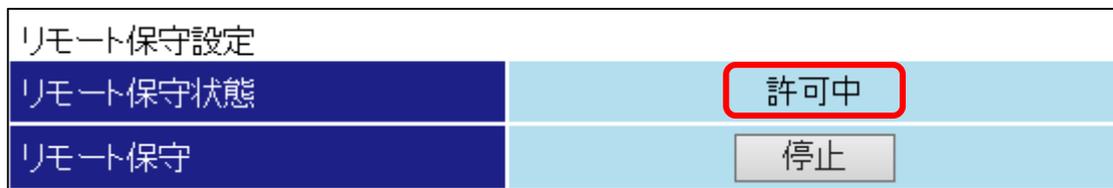
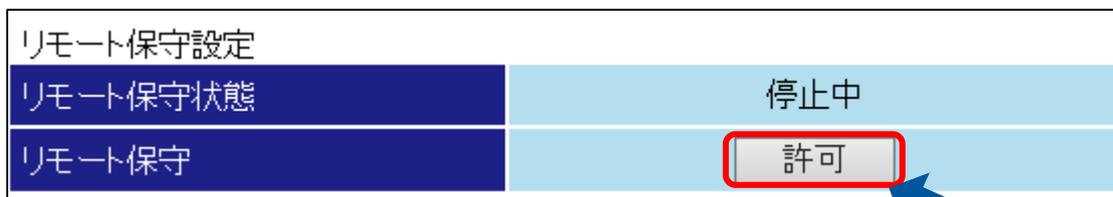


2 リモート保守の許可を押す



① リモート保守

許可ボタンを押してください。リモート保守の状態が停止中から許可中へ切り替わります。許可中から停止中へ切り替える場合も同様の操作で切替可能です。(* 1)



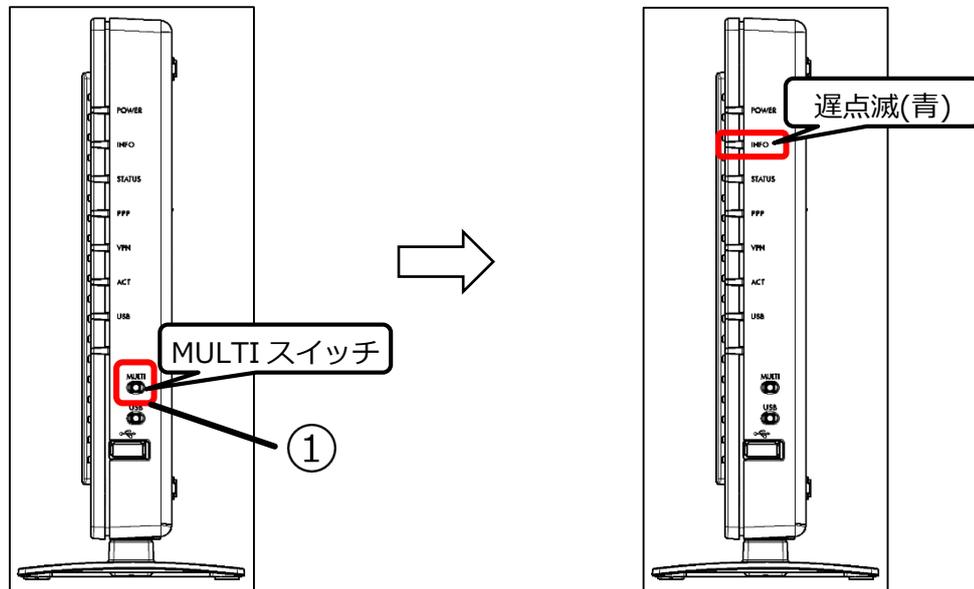
* 1 : リモート保守状態は、最後に許可された時点から 1 時間経過すると自動的に停止中となります。

● MULTI スイッチからリモート保守の許可を実行する

MULTI スイッチからリモート保守の許可を実行します。

本製品ではリモート(遠隔)での設定変更/保守が可能です。本機能の使用はサポートセンターの指示のもと行ってください。

1 MULTI スイッチを 0.3 秒間押す



① リモート保守

MULTI スイッチを、INFO ランプが遅点滅(青)状態になるまで押し続けてください。

※押下開始から INFO ランプが遅点滅(青)状態になるまでは 0.3 秒です。

INFO ランプが遅点滅(青)していればリモート保守許可中です。(* 1)

* 1 : リモート保守状態は、最後に許可された時点から 1 時間経過すると自動的に停止中となります。

困ったときは

本製品の使用中にお困りのことがありましたら、お問い合わせになる前に以下の内容を確認してください。

ランプの表示を確認する	144
本製品にアクセスできない	145
インターネットに接続できない.....	146
その他の問題	147

ランプの表示を確認する

症状	原因と解決策
すべてのランプが消灯している	<p>[原因] 本製品が電源に接続されていない</p> <p>[解決策] ● 本製品、電源アダプタ、電源コードのいずれかが正しく接続されていない可能性があります。接続を確認してください。 ● 電源コードがコンセントに接続されていない可能性があります。接続を確認してください。</p> <p>[原因] 付属の電源アダプタ、電源コードを使用していない</p> <p>[解決策] ● 購入時に付属している電源アダプタ、電源コードを使用してください。他製品の電源アダプタ、電源コードの使用は火災の原因となります。</p>
POWER ランプが遅点滅(青)している	<p>[原因] 省エネ機能が有効になっている</p> <p>[解決策] ● 省エネ機能を無効に設定するか、または省エネ機能の適用時間帯を変更してください。</p>
STATUS ランプが点灯(赤)している	<p>[原因] システム障害が発生している</p> <p>[解決策] ● 販売店にお問い合わせください。</p>

本製品にアクセスできない

症状	原因と解決策
本製品にアクセスできない	<p>[原因] LAN ケーブルが接続されていない</p> <p>[解決策] ● アクセスに使用しているパソコンと本製品が接続されているか確認してください。</p>
本製品にアクセスできない	<p>[原因] アクセスしているパソコンの IP アドレスが間違っている</p> <p>[解決策] ● パソコンの IP アドレス構成を確認し、本製品の IP アドレス構成にあわせて設定してください。</p>
本製品にアクセスできない	<p>[原因] アクセスしようとしている本製品のアドレスが間違っている</p> <p>[解決策] ● ブラウザに本製品の IP アドレスを正しく入力してください。</p> <p>[本製品の初期 IP アドレス構成] 初期 IP アドレス : 192.168.100.1 初期サブネットマスク : 255.255.255.0</p>
本製品にアクセスできない	<p>[原因] 本製品のアドレスが変更されている</p> <p>[解決策] ● ネットワーク管理者に問い合わせてください。</p>
本製品にアクセスできない	<p>[原因] ファイアウォール機能を設定している</p> <p>[解決策] ● ネットワーク管理者に問い合わせてください。</p>

インターネットに接続できない

症状	原因と解決策
インターネットに接続できない	<p>[原因] LAN ケーブルが正しく接続されていない</p> <p>[解決策] ●本製品の LAN インタフェース、WAN インタフェースに正しく接続されているか確認してください。</p>
	<p>[原因] プロバイダ設定が間違っている</p> <p>[解決策] ●プロバイダ提供の情報を元に、プロバイダ設定の内容を確認してください。 ●DNS サーバ IP アドレスを手動入力している場合、入力されている DNS サーバ IP アドレスが正しいか確認してください。</p>
	<p>[原因] ファイアウォール機能の設定が間違っている</p> <p>[解決策] ●ネットワーク管理者に問い合わせてください。</p>

その他の問題

症状	原因と解決策
本製品の LAN アドレスが反映されない	<p>[原因] LAN インタフェースへの IP アドレス設定は再起動が必要</p> <p>[解決策] ●LAN インタフェース設定完了後に、ブラウザから本製品の再起動をしてください。</p>
更新に失敗する(オンライン)	<p>[原因] その他サーバを使用しており、アドレスが間違っている</p> <p>[解決策] ●ファームウェア更新先 URL を確認してください。</p>
更新に失敗する(ローカル)	<p>[原因] USB メモリの接続ポートが間違っている</p> <p>[解決策] ●USB メモリで更新する場合、USB メモリの接続先は USB ポート(前面)のみとなります。</p> <p>[原因] ローカルファームウェア更新(USB)のファイル名が間違っている</p> <p>[解決策] ●正しいファイル名を入力してください。</p>
USB メモリを認識しない	<p>[原因] USB のポート設定が間違っている</p> <p>[解決策] ●USB ポートは設定により、使用/不使用が設定できます。USB 設定を確認してください。</p>
エクスポート/インポートに失敗する	<p>[原因] USB メモリの接続先ポートと保存先 USB ポートの設定が異なる</p> <p>[解決策] ●保存先 USB ポート/取得先 USB ポートの設定を確認してください。</p> <p>[原因] 設定データインポートのファイル名が間違っている</p> <p>[解決策] ●正しいファイル名を入力してください。</p>

装置を再起動したら設定が元に戻った	<p>[原因] 設定データがアップロードされていない</p> <p>[解決策] ●設定変更後に、管理サーバへ設定データをアップロードしてください。</p>
設定を変更してもすぐに元の設定に戻ってしまう	<p>[原因] 設定変更後に、元の設定データが自動ダウンロードされている</p> <p>[解決策] ●ネットワーク管理者に問い合わせてください。</p>

付録

製品仕様

ハードウェア仕様

WAN ポート	
準拠規格	IEEE802.3 (10BASE-T) IEEE802.3u (100BASE-TX) IEEE802.3ab (1000BASE-T)
伝送速度	10/100/1000Mbps 自動認識 または手動設定 (AUTO-MDIX 対応)
ポート数	1 ポート
接続コネクタ	RJ45 (8 ピンモジュラジャック)
最大伝送距離	100m
LAN ポート	
準拠規格	IEEE802.3 (10BASE-T) IEEE802.3u (100BASE-TX) IEEE802.3ab (1000BASE-T)
伝送速度	10/100/1000Mbps 自動認識 または手動設定 (AUTO-MDIX 対応)
ポート数	4 ポート
接続コネクタ	RJ45 (8 ピンモジュラジャック)
最大伝送距離	100m
USB2.0 インタフェース(*1)(*2)	
準拠規格	USB2.0
転送速度	最大 480Mbps
ポート数	1 ポート
接続コネクタ	USB TypeA
最大伝送距離	5m
給電	5V/500mA
USB3.0 インタフェース(*1)(*2)	
準拠規格	USB3.0
転送速度	最大 5Gbps
ポート数	1 ポート
接続コネクタ	USB TypeA
最大伝送距離	3m
給電	5V/900mA

電源	
使用電源	AC100V±10V (50/60Hz) ※ A Cアダプタ使用
消費電力	最大 24W
その他	
本体外形寸法	約 160mm(W)×約 220mm(H)×約 39.5(D)mm (スタンド、ケーブル、端子、突起類は含まず)
質量	約 0.5kg
使用条件	温度：0～40℃ 湿度：35～85% (結露しないこと)

*1：USB2.0/3.0 インタフェースに接続できる機器はマスのストレージデバイスのみとなります。

*2：USB2.0/3.0 インタフェースに接続するマスのストレージデバイスで利用できるファイルフォーマットは、FAT/FAT32 のみに対応しています。

ランプ点灯仕様

名称	説明	ランプ点灯状態	内容	
POWER ランプ	電源状態(OFF、またはON)を表示する。	消灯	電源 OFF	
		点灯 (青)	電源 ON	
		点滅 (青)	省エネモード中	
INFO ランプ	システム状態を表示する。	消灯	通常状態	
		点灯 (赤)	ファームウェア更新あり	
		速点滅 (赤)	ファームウェア更新確認中、またはファームウェア更新中	
		遅点滅 (赤)	ファームウェア更新完了 (再起動待ち)	
		点灯 (青)	設定データ初期化実行中	
		点滅 (青)	リモート保守接続許可状態	
STATUS ランプ	システムの障害状況を表示する。	消灯	通常状態、または省エネモード中	
		点灯 (赤)	障害発生中	
		点滅 (赤)	自動設定情報取得不可 (自動設定情報なし時を含む)	
		点灯 (青)	自動設定処理完了	
PPP ランプ	PPPoE の接続状況を表示する。	消灯	PPPoE 未接続、または省エネモード中	
		点滅 (青)	PPPoE 接続処理中	
VPN ランプ	VPN の状態を表示する。	消灯	VPN 未接続、または省エネモード中	
		点灯 (青)	拠点間 VPN 接続完了、またはリモートアクセス VPN 接続完了	
		点滅 (青)	リモート保守 VPN 接続完了、または管理サーバ通信用 VPN 接続完了	
ACT ランプ	WAN インタフェースの状態を表示する。	消灯	WAN ポート未接続	
		点灯 (青)	WAN ポート接続中	
		点滅 (青)	WAN ポートデータ通信中	
USB ランプ	USB の接続状態等を表示する。	–	USB ポート (前面)	USB ポート (背面)
		消灯	未接続	未接続
		点灯 (赤)	いずれかひとつが接続状態	
		点滅 (赤)	片方が未接続状態で、もう一方が認識中または、取り外し中	
		点灯 (青)	接続状態	接続状態
		点滅 (青)	片方が接続状態で、もう一方が認識中または、取り外し中	

プロバイダ設定詳細

新規のプロバイダ設定で自動設定される項目、プロバイダ設定の編集で自動設定される項目、プロバイダ設定の削除で自動設定される項目、プロバイダ設定の追加で自動設定される項目について記載します。

表の[設定値]列で「入力値」、「変更なし」以外の設定項目は自動設定されます。設定される内容は[設定値]列に書かれている値です。

ファイアウォールの自動設定項目については『[セキュリティレベル](#)』を参照してください。

◆ 新規プロバイダ設定

新規プロバイダ設定での自動設定項目について記載します。

新規プロバイダ設定とはプロバイダの接続方法が無効の状態でのプロバイダ設定です。プロバイダの接続方法に PPPoE を選択した場合、登録されるインタフェースは PPP1 となります。

プロバイダの接続方法 : PPPoE を用いた端末型プロバイダ接続

設定項目			設定値	備考		
基本設定	WAN / プロバイダ	機能設定	接続種別	PPPoE(IPv4)		
		PPP1 セッション	基本設定	PPPoE セッション	有効	
				接続方式	常時接続	
				認証方式	自動	
				接続ユーザ名	入力値	
				接続パスワード	入力値	
		詳細設定	IP アドレス設定方式	自動取得		
			IP アドレス	空白	IP アドレス設定方式が自動取得のため	
			DNS サーバ IP アドレス (プライマリ)	入力値		
			DNS サーバ IP アドレス (セカンダリ)	入力値		
			自動切断機能	有効		
			自動切断監視時間	5分		
			MTU 値	入力値		
			MRU 値	入力値		
		ルーティング	デフォルトルート設定 (IPv4)	デフォルトゲートウェイ	有効	
経路先	PPP1					
経路先ゲートウェイ IP アドレス	空白			経路先をインタフェース指定にしているため		

設定項目				設定値	備考	
基本設定	DNS	Proxy DNS設定	DNS問い合わせ先		PPP1	
	アドレス変換	IPマスカレード	NAT設定 (IPv4)	PPP1	有効	
その他設定	ファイアウォール	セキュリティレベル			5 : 最強～ 1 : 最弱	セキュリティレベルによって自動設定されるフィルタが異なるため、詳細は付録・セキュリティレベル参照。

接続種別：PPPoE を用いた LAN 型プロバイダ接続

設定項目				設定値	備考	
基本設定	WAN/プロバイダ	機能設定		接続種別	PPPoE(IPv4)	
		PPP1セッション	基本設定	PPPoE セッション	有効	
				接続方式	常時接続	
				認証方式	自動	
				接続ユーザ名	入力値	
				接続パスワード	入力値	
		詳細設定	IP アドレス設定方式	unnumbered		
			IP アドレス	空白	IP アドレス設定方式が unnumbered のため	
			DNS サーバ IP アドレス (プライマリ)	入力値		
			DNS サーバ IP アドレス (セカンダリ)	入力値		
	自動切断機能		有効			
	自動切断監視時間		5分			
	MTU 値		入力値			
	MRU 値	入力値				
	ルーティング	デフォルトルート設定 (IPv4)	デフォルトゲートウェイ		有効	
			経路先		PPP1	
			経路先ゲートウェイ IP アドレス	空白	経路先をインタフェース指定にしているため	
	DNS	Proxy DNS 設定	DNS 問い合わせ先		PPP1	
	アドレス変換	IP マスカレード	NAT 設定 (IPv4)	PPP1	無効	

設定項目		設定値	備考
その他設定	ファイアウォール	セキュリティレベル 5：最強～ 1：最弱	セキュリティレベルによって自動設定されるフィルタが異なるため、詳細は付録・セキュリティレベル参照。

プロバイダの接続方法：IPoE(DHCP)を用いた端末型プロバイダ接続

		設定項目		設定値	備考	
基本設定	WAN/ プロバイダ	機能設定	接続種別	IPoE(IPv4)		
		IPoE (IPv4)	IP アドレス設定方法		自動取得 (DHCP)	
			IP アドレス		空白	IP アドレス設定方式が自動取得のため
			サブネットマスク		空白	IP アドレス設定方式が自動取得のため
			ゲートウェイ IP アドレス		空白	IP アドレス設定方式が自動取得のため
			DNS サーバ IP アドレス (プライマリ)		入力値	
			DNS サーバ IP アドレス (セカンダリ)		入力値	
			MTU 値		入力値	
	ルーティング	デフォルトルート設定 (IPv4)	デフォルトゲートウェイ 経路先		有効 WAN(IPoE)	
			経路先ゲートウェイ IP アドレス		空白	経路先をインタフェース指定にしているため
DNS			Proxy DNS 設定	DNS 問い合わせ先	WAN(IPoE)	
ファイアウォール		セキュリティレベル				5：最強～ 1：最弱
その他設定						

プロバイダの接続方法：IPoE(固定 IP アドレス)を用いた端末型プロバイダ接続

設定項目		設定値	備考			
基本設定	WAN / プロバイダ	機能設定	接続種別	IPoE(IPv4)		
		IPoE (IPv4)	IP アドレス設定方法		手動設定	
			IP アドレス		入力値	
			サブネットマスク		入力値	
			ゲートウェイ IP アドレス		入力値	
			DNS サーバ IP アドレス (プライマリ)		入力値	
			DNS サーバ IP アドレス (セカンダリ)		入力値	
	MTU 値		入力値			
	ルーティング	デフォルトルート設定 (IPv4)	デフォルトゲートウェイ		有効	
			経路先		WAN(IPoE)	
		経路先ゲートウェイ IP アドレス		空白	経路先をインタフェース指定にしているため	
	DNS	Proxy DNS 設定	DNS 問い合わせ先		WAN(IPoE)	
	その他設定	ファイアウォール	セキュリティレベル		5：最強～ 1：最弱	セキュリティレベルによって自動設定されるフィルタが異なるため、詳細は付録・セキュリティレベル参照。

◆ プロバイダ設定編集

プロバイダ設定編集での自動設定項目について記載します。

プロバイダ設定編集とはプロバイダの接続方法に PPPoE、または WAN(IPoE)が設定されている状態でのプロバイダ設定です。

プロバイダの接続方法：PPPoE を用いた端末型プロバイダ接続

設定項目				設定値	備考	
基本設定	WAN / プロバイダ	PPPoE セッション	基本設定	PPPoE セッション	有効	
				接続方式	常時接続	
				認証方式	自動	
				接続ユーザ名	入力値	
				接続パスワード	入力値	
		詳細設定	IP アドレス設定方式	自動取得		
			IP アドレス	空白	IP アドレス設定方式が自動取得のため	
			DNS サーバ IP アドレス (プライマリ)	入力値		
			DNS サーバ IP アドレス (セカンダリ)	入力値		
			自動切断機能	有効		
	自動切断監視時間	5分				
	MTU 値	入力値				
	MRU 値	入力値				
	DNS	ドメインルーティング設定	ドメインルーティング機能		有効	ドメインルーティングテーブルを新規追加、設定変更すると有効になる。
ドメインルーティングテーブル			入力値			
アドレス変換	静的 IP マスカレード	機能設定	静的 IP マスカレード機能	有効	静的 IP マスカレードテーブルを新規追加、設定変更すると有効になる。	
			静的 IP マスカレードテーブル (IPv4)	入力値		

設定項目		設定値	備考
その他設定	ファイアウォール	セキュリティレベル 5：最強～ 1：最弱	セキュリティレベルによって自動設定されるフィルタが異なるため、詳細は付録・セキュリティレベル参照。

プロバイダの接続方法：PPPoE を用いた LAN 型プロバイダ接続

設定項目				設定値	備考	
基本設定	WAN / プロバイダ	PPPoEセッション	基本設定	PPPoE セッション	有効	
				接続方式	常時接続	
				認証方式	自動	
				接続ユーザ名	入力値	
				接続パスワード	入力値	
			詳細設定	IP アドレス設定方式	unnumbered	
				IP アドレス	空白	IPアドレス設定方式がunnumberedのため
				DNS サーバ IP アドレス (プライマリ)	入力値	
				DNS サーバ IP アドレス (セカンダリ)	入力値	
				自動切断機能	有効	
		自動切断監視時間	5分			
		MTU 値	入力値			
		MRU 値	入力値			
		DNS	ドメインルーティング設定	ドメインルーティング機能		有効
ドメインルーティングテーブル				入力値		
アドレス変換	静的 IP マスカレード		機能設定	静的 IP マスカレード機能	有効	静的 IP マスカレードテーブルを新規追加、設定変更すると有効になる。
		静的 IP マスカレードテーブル (IPv4)		入力値		
その他設定	ファイアウォール	セキュリティレベル		5：最強～ 1：最弱	セキュリティレベルによって自動設定されるフィルタが異なるため、詳細は付録・セキュリティレベル参照。	

プロバイダの接続方法：IPoE(DHCP)を用いた端末型プロバイダ接続

設定項目			設定値	備考	
基本設定	WAN/ プロバイダ	IPoE (IPv4)	IP アドレス設定方法	自動取得 (DHCP)	
			IP アドレス	空白	IP アドレス設定方法が自動取得のため
			サブネットマスク	空白	IP アドレス設定方法が自動取得のため
			ゲートウェイ IP アドレス	空白	IP アドレス設定方法が自動取得のため
			DNS サーバ IP アドレス (プライマリ)	入力値	
			DNS サーバ IP アドレス (セカンダリ)	入力値	
			MTU 値	入力値	
	DNS	ドメインルーティング設定	ドメインルーティング機能	有効	ドメインルーティングテーブルを新規追加、設定変更すると有効になる。
		ドメインルーティングテーブル		入力値	
	アドレス変換	静的 IP マスカレード機能設定	静的 IP マスカレード機能	有効	静的 IP マスカレードテーブルを新規追加、設定変更すると有効になる。
静的 IP マスカレードテーブル (IPv4)			入力値		
その他設定	ファイアウォール	セキュリティレベル	5：最強～ 1：最弱	セキュリティレベルによって自動設定されるフィルタが異なるため、詳細は付録・セキュリティレベル参照。	

プロバイダの接続方法：IPoE(固定 IP アドレス)を用いた端末型プロバイダ接続

設定項目			設定値	備考	
基本設定	WAN / プロバイダ	IPoE (IPv4)	IP アドレス設定方法	手動設定	
			IP アドレス	入力値	
			サブネットマスク	入力値	
			ゲートウェイ IP アドレス	入力値	
			DNS サーバ IP アドレス (プライマリ)	入力値	
			DNS サーバ IP アドレス (セカンダリ)	入力値	
			MTU 値	入力値	
	DNS	ドメインルーティング設定	ドメインルーティング機能	有効	ドメインルーティングテーブルを新規追加、設定変更すると有効になる。
			ドメインルーティングテーブル	入力値	
	アドレス変換	静的 IP マスカレード	機能設定	静的 IP マスカレード機能	有効
静的 IP マスカレードテーブル (IPv4)			入力値		
その他設定	ファイアウォール	セキュリティレベル	5 : 最強～ 1 : 最弱	セキュリティレベルによって自動設定されるフィルタが異なるため、詳細は付録・セキュリティレベル参照。	

◆ プロバイダ設定削除

プロバイダ設定削除での自動設定項目について記載します。

プロバイダの接続方法：PPPoE を用いた端末型プロバイダ接続、PPPoE を用いた LAN 型プロバイダ接続

設定項目			設定値	備考	
基本設定	WAN / プロバイダ	機能設定	接続種別	無効	PPP1～PPP5 まで、全てが削除された場合に無効となる。
		削除 PPP セッション	基本設定	PPPoE セッション	
				接続方式	常時接続
				認証方式	自動
				接続ユーザ名	空白
				接続パスワード	空白
		詳細設定	IP アドレス設定方式	自動取得	
			IP アドレス	空白	
			DNS サーバ IP アドレス (プライマリ)	空白	
			DNS サーバ IP アドレス (セカンダリ)	空白	
	自動切断機能		有効		
	自動切断監視時間		5 分		
	MTU 値		1454		
	MRU 値	1454			
	ルーティング	デフォルトルート設定 (IPv4)	デフォルトゲートウェイ	変更なし	
			経路先	変更なし	
			経路先ゲートウェイ IP アドレス	変更なし	

目 項 定 設			設定値	備考			
基本設定	DNS	Proxy DNS設定	DNS 問い合わせ先		変更なし		
			ドメインルーティング機能		変更なし		
		ドメインルーティングテーブル		削除	削除したインタフェースが指定されているテーブルをすべて削除する。		
	アドレス変換	IP マスカレード	NAT設定 (IPv4)	削除 PPP インタフェース		有効	
				静的 IP マスカレード機能		変更なし	
		静的 IP マスカレードテーブル		削除	削除したインタフェースが指定されているテーブルをすべて削除する。		
その他設定	ファイアウォール	セキュリティレベル		5 : 最強	静的フィルタ、SPI 動的パケットフィルタリング、IDS 侵入検知の設定をセキュリティレベル「5 : 最強」のデータで上書きをする。また、新たに登録したテーブルは削除される。 セキュリティレベル「5 : 最強」の設定内容については付録・セキュリティレベルを参照。		

プロバイダの接続方法：IPoE(DHCP)を用いた端末型プロバイダ接続、IPoE(固定 IP アドレス)を用いた端末型プロバイダ接続

		設定項目		設定値	備考	
基本設定	WAN / プロバイダ	機能設定	接続種別	無効		
		IPoE (IPv4)	IP アドレス設定方法		無効	
			IP アドレス		空白	
			サブネットマスク		255.255.255.0 (24 ビット)	
			ゲートウェイ IP アドレス		空白	
			DNS サーバ IP アドレス (プライマリ)		空白	
			DNS サーバ IP アドレス (セカンダリ)		空白	
			MTU 値		1500	
	ルーティング	デフォルトルート設定 (IPv4)	デフォルトゲートウェイ		変更なし	
			経路先		変更なし	
			経路先ゲートウェイ IP アドレス		変更なし	
	DNS	Proxy DNS 設定	DNS 問い合わせ先		変更なし	
			ドメインルーティング機能		変更なし	
		ドメインルーティング設定	ドメインルーティングテーブル		削除	削除したインタフェースが指定されているテーブルをすべて削除する。

目 項 定 設			設定値	備考
基本設定	アドレス変換	静的 IP マスカレード機能	変更なし	
		静的 IP マスカレードテーブル	削除	削除したインタフェースが指定されているテーブルをすべて削除する。
その他設定	ファイアウォール	セキュリティレベル	5 : 最強	静的フィルタ、SPI 動的パケットフィルタリング、IDS 侵入検知の設定をセキュリティレベル「5 : 最強」のデータで上書きをする。また、新たに登録したテーブルは削除される。 セキュリティレベル「5 : 最強」の設定内容については付録・セキュリティレベルを参照。

◆ プロバイダ設定追加

プロバイダ設定追加での自動設定項目について記載します。

プロバイダ設定追加とはプロバイダの接続方法に PPPoE が選択されている状態でのプロバイダ設定です。

プロバイダの接続方法 : PPPoE を用いた端末型プロバイダ接続

設定項目				設定値	備考	
基本設定	WAN / プロバイダ	機能設定	接続種別	変更無し		
			追加 PPP セッション	基本設定	PPPoE セッション	有効
		接続方式			常時接続	
		認証方式			自動	
		接続ユーザ名			入力値	
		接続パスワード			入力値	
		詳細設定	IP アドレス設定方式	自動取得		
			IP アドレス	空白		
			DNS サーバ IP アドレス (プライマリ)	入力値		
			DNS サーバ IP アドレス (セカンダリ)	入力値		
			自動切断機能	有効		
			自動切断監視時間	5分		
			MTU 値	入力値		
			MRU 値	入力値		
	アドレス変換	IP マスカレード	NAT 設定 (IPv4)	追加 PPP インタフェース	有効	
その他設定	ファイアウォール	セキュリティレベル		5 : 最強～ 1 : 最弱	セキュリティレベルによって自動設定されるフィルタが異なるため、詳細は付録・セキュリティレベル参照。	

プロバイダの接続方法：PPPoE を用いた LAN 型プロバイダ接続

設定項目				設定値	備考		
基本設定	WAN / プロバイダ	機能設定		変更無し			
		追加 PPP セッション	基本設定	接続種別	PPPoE セッション	有効	
				接続方式		常時接続	
				認証方式		自動	
				接続ユーザ名		入力値	
				接続パスワード		入力値	
		詳細設定	IP アドレス設定方式		unnumbered		
			IP アドレス		空白		
			DNS サーバ IP アドレス (プライマリ)		入力値		
			DNS サーバ IP アドレス (セカンダリ)		入力値		
			自動切断機能		有効		
			自動切断監視時間		5分		
			MTU 値		入力値		
	MRU 値		入力値				
アドレス変換	IP マスカレード	NAT 設定 (IPv4)	追加 PPP インタフェース	無効			
その他設定	ファイアウォール	セキュリティレベル		5 : 最強～ 1 : 最弱	セキュリティレベルによって自動設定されるフィルタが異なるため、詳細は付録・セキュリティレベル参照。		

◆ セキュリティレベル

セキュリティレベルごとのファイアウォール設定を記載します。

セキュリティレベルごとに設定されるファイアウォール設定は以下となります。

レベル	静的フィルタ	SPI 動的フィルタ (*1)	IDS 侵入検知(*1)	備考
5：最強	○	○	○	
4：強	○	○	×	
3：中	○	×	○	
2：弱	○	×	×	
1：最弱	×	×	×	ファイアウォール無効

グローバルアドレスが割り当てられた WAN インタフェースを利用して、インターネット接続する場合は、レベル5を選択してください。

他のルータ配下に WAN インタフェースを IPoE で接続するような構成の場合には、IDS 侵入検知を OFF にする必要があります。レベル4または2を選択してください。

Unnumbered を利用する場合には、SPI 動的フィルタを OFF にする必要があります。レベル3以下を選択してください。

*1：SPI 動的パケットフィルタリング、IDS 侵入検知は設定した WAN インタフェースのみ設定されます。

静的フィルタ設定の自動設定項目(*2)は以下となります。セキュリティレベルによる違いは適用方向のみです。

No	フィルタ種別	適用方向				プロトコル	送信先		送信元		備考
		5：最強 ～2：弱		1：最弱			IP アドレス	ポート	IP アドレス	ポート	
		入力	出力	入力	出力						
1	拒否	有効	無効	TCP	無効	135	無効	無効	DCE 標準 RPC		
2	拒否			UDP	無効	135	無効	無効			
3	拒否			TCP	無効	無効	無効	135			
4	拒否			UDP	無効	無効	無効	135			
5	拒否			TCP	無効	137～139	無効	無効	NetBIOS		
6	拒否			UDP	無効	137～139	無効	無効			
7	拒否			TCP	無効	無効	無効	137～139			
8	拒否			UDP	無効	無効	無効	137～139			
9	拒否			TCP	無効	445	無効	無効	ダイレクト ホスティング SMB サービス		
10	拒否			UDP	無効	445	無効	無効			
11	拒否			TCP	無効	無効	無効	445			
12	拒否			UDP	無効	無効	無効	445			

No	フィルタ種別	適用方向				プロトコル	送信先		送信元		備考
		5 : 最強 ~2 : 弱		1 : 最弱			IP アドレス	ポート	IP アドレス	ポート	
		入力	出力	入力	出力						
13	空白	空白				空白	空白		空白		未設定
4											
49											
50	空白	空白				空白	空白		空白		未設定

*2 : 静的フィルタ設定はフィルタ No.1~No.50 までが自動設定されます。[詳細設定と保守]から静的フィルタの追加を行った場合はプロバイダ設定の編集にご注意ください。選択したセキュリティレベルに応じた上記の静的フィルタが再設定されるため、追加して静的フィルタは上書きされます。

用語集

【アルファベット順】

AUTO-MDIX	接続先のポートを自動判別し、適切な方法(端子の割り当て)で接続する機能。
DHCP	ネットワークに接続された端末に対し、IP アドレスやサブネットマスク、経路情報、DNS サーバアドレスなどを配布するプロトコル。
DHCP サーバ	DHCP を使用し、ネットワークに接続された端末の IP アドレスなどの設定を一括管理するサーバ。
DHCP クライアント	DHCP サーバから IP アドレスやサブネットマスク、経路情報、DNS サーバなどの情報を自動的に取得する機能。
DMZ	WAN 側から LAN 側へのアクセスのうち、未知ポートへのアクセスを特定の LAN 側端末に転送する機能。
DNS	ホスト名と IP アドレスの管理を行うシステム。
DNS サーバ	ホスト名と IP アドレスの対照表を管理するサーバ。
DSCP	パケットの優先度をあらわす 6bit のフィールド。
FQDN	ホスト名、サブドメイン名、ドメイン名を略さずに記述する形式。
ICMP	パケットが到達できなかった際に障害の通知や診断を行う問い合わせを送信するプロトコル。
IDS	WAN 側で受信したパケットに対して攻撃を検出し、攻撃と判断した場合はパケットを一定時間破棄するシステム。
IEEE802.3	イーサネットの仕様に関する国際規格。伝送速度を高速化した 100Mbps の IEEE802.3u、1Gbps の IEEE802.3ab という規格がある。
IP アドレス	ネットワークに接続された端末を識別するための番号。32bit を 8bit で区切った形式であらわされ、ネットワーク部とホスト部からなる。
IP マスカレード	ひとつのグローバル IP アドレスを複数の端末で共有する技術。
IPoE	イーサネットを通じて IP ネットワークに接続する規格。
IPsec	インターネットで暗号化通信を行うための規格。
L2TP	VPN 接続を実現するトンネリングプロトコル。
LAN	ひとつの建物内など、比較的狭い範囲でのネットワーク。
MAC アドレス	ネットワークに接続された端末を識別するため、ハードウェアに割り当てられた番号。原則として変更はできず、一意に割り当てられる。
MIB 情報	SNMP で通信されるルータ等の管理情報。
MRU	1 度の転送で受信できるデータの最大値。
MTU	1 度の転送で送信できるデータの最大値。
NAT	異なるアドレス形式のネットワークと通信するためにアドレスを変換する技術。
NetBIOS	端末同士でデータをやり取りする際に使用される機能。
NTP	ネットワークから現在時刻を取得するプロトコル。
NTP サーバ	NTP を使用し、現在時刻を配信しているサーバ。
Ping	相手先ホストに対し、到達可能かを調べるコマンド。

PPPoE	ダイヤルアップ接続で使用されていた PPP プロトコルをイーサネットに応用したユーザ認証技術。
PPTP	PPP を拡張したプロトコル。暗号化技術などと組み合わせて VPN 構築に使用される。
Proxy DNS	端末に変わり、DNS サーバへドメイン解決を行う機能。
RIP	ダイナミックルーティングプロトコル。自動で経路情報を取得し、定期的に更新を行う。RIPv1 と RIPv2 がある。
SNMP	ネットワーク上の端末を監視できるプロトコル。
SPI 動的パケットフィルタリング	WAN 側インタフェースを通過するパケットを読み取り、動的にパケットの破棄を行うシステム。
TCP	パケットの到達を保証した信頼性のあるプロトコル。
UDP	パケットの到達を保証しない信頼性のないプロトコル。
unnumbered	ルータの WAN 側に IP アドレスを割り当てず、LAN 側に IP アドレスを割り当てる技術。
UPnP	パソコンに周辺機器を接続しただけで使用できるプラグアンドプレイをネットワークレベルで実行する機能。
USB	パソコンなどに周辺機器(マウス、キーボードなど)を接続するための規格。
VPN	インターネット上でセキュリティ技術を使用して仮想のネットワークを構築し、拠点間での相互接続を安全に行う技術。
VPN パススルー	WAN 側ネットワーク上の VPN クライアントからのパケットを LAN 側ネットワークへ通過させる技術。
WAN	電話回線や専用線を使用し、地理的に離れた地点にあるパソコン同士で通信させるネットワーク。

【あいうえお順】

インターネットプロバイダ	インターネットへの接続を提供する電気通信事業者。
管理サーバ	本製品の設定データを管理するサーバ。
管理サーバ通信用 VPN	本製品が管理サーバとの設定データアップロード/ダウンロードをセキュアな通信環境で行うための IPsec を利用した VPN。
拠点間 VPN	本製品同士で接続してセキュアな通信を行うための IPsec を利用した VPN。
サブネットマスク	IP アドレスの先頭 bit から何 bit までがネットワーク部かを表す番号。
省エネ機能	ランプを制御し、消費電力を抑える機能。
ステルス	Ping、ICMP などリクエストを無視し、外部から存在を隠蔽する機能。
静的 NAT	静的にアドレス変換を行う機能。1 対 1(固定)での変換を行う。
静的 IP マスカレード	静的に IP マスカレードを行う機能。プロトコルやポート番号、転送先などをあらかじめ登録することで特定の packets をアドレス変換することができる。
設定データアップロード	管理サーバ上に本製品の設定データをアップロードし、バックアップをする機能。
設定データインポート	外部に保存した設定データを読み込み、反映する機能。

設定データエクスポート	本製品の設定データをローカル(パソコン、USB メモリ)にバックアップをする機能。
設定データダウンロード	管理サーバ上から本製品の設定データを取得し、反映させる機能。
送信先ルーティング	送信先の IP アドレスごとに経路先を指定する機能。
送信元ルーティング	送信元の IP アドレスごとに経路先を指定する機能。
帯域制御	パケット送信時に、データの種類に応じて送出するデータ量を制御する機能。
デフォルトルート	送信パケットがどのルーティング情報にも該当しない場合に使用される経路。
ドメイン	ホストが所属する組織を判別するための名称。
ドメインルーティング	ドメインによって送信経路を決定する機能。
パケットフィルタリング	WAN/LAN インタフェースでパケットを読み取り、あらかじめ設定された条件にしたがって通過、または破棄を行う機能。
パケット送出優先制御	条件に該当するパケットを優先的に送信する機能。
ファイアウォール	外部からの攻撃や不正な侵入を禁止する機能。パケットフィルタリングや IDS、SPI、ステルスなどがある。
ブリッジ機能	LAN-WAN 間で通信を中継する機能。
プロトコル	通信をする上で信号やデータを送信する手順やあらかじめ決められた決まりごと。
プロバイダ設定	プロバイダ情報を設定するだけでインターネットに接続する上で必要となる設定を自動で行う機能。
プロバイダ情報	インターネットプロバイダが提供するインターネットに接続する上で必要となる情報。ユーザ名やパスワード。
ポート	パソコンが通信する際に通信先のプログラムを特定するための番号。
リモートアクセス VPN	ユーザがインターネット等の外部から本製品の LAN 側ネットワークサービスを受けるために、Windows PC 等で各拠点の本製品に L2TP/IPsec を利用して接続する VPN。
リモート保守	サポートセンターの保守端末から本製品に接続し、メンテナンスを行う機能。
リモート保守 VPN	サポートセンターから本製品やその配下の端末をリモート保守するため、本製品に L2TP/IPsec を利用して接続される VPN。
リンクアップ	端末がネットワークに接続され、通信が可能になること。
リンクダウン	端末とネットワークの接続が解消され、通信が不能になること。
ルーティング	目的のホストにパケットを送信するための最適な経路を選択すること。

免責事項

- 地震および当社の責任以外の火災、第三者による行為、その他の事故、お客様の故意または過失、誤用、その他異常な条件下での使用により生じた損害に関して、当社は一切の責任を負いません。
- 本製品の使用または使用不能から生じる付随的な損害(記憶内容の変化・消失、事業利益の損失、事業の中断、通信機関の喪失など)に関して、当社は一切の責任を負いません。
- 本書の記載内容を守らないことにより生じた損害に関して、当社は一切の責任を負いません。
- 当社が関与しない接続機器、ソフトウェアとの組み合わせによる誤作動などから生じた損害に関して、当社は一切の責任を負いません。

索引

A	
ACT ランプ	9, 151
D	
DHCP クライアント	45
DHCP サーバ	52
DHCP 固定割付テーブル	54
DHCP サーバリース状態	115
F	
FUNC スイッチ	9
I	
INFO ランプ	9, 151
L	
LAN	51
IP アドレス	51
LAN ポート	9
M	
MULTI スイッチ	9
P	
POWER ランプ	9, 151
PPPoE クライアント	42
接続パスワード	44
接続ユーザ名	44
PPP ランプ	9, 151
Proxy DNS	48
R	
RIP	
RIPv1	58
RIPv2	58
S	
SNMP	70
SNMP マネージャ	70
SysContact	71
SysLocation	71
Sysname	71
エージェントプロトコル	71
STATUS ランプ	9, 151
U	
UPnP	92
USB スイッチ	9
USB ポート	9
USB ランプ	9, 151
V	
VPN パススルー	93
VPN ランプ	9, 151
VPN 接続状態	119
W	
WAN ポート	9
あ	
アドレス変換	62
DMZ	69
NAT 設定	63
静的 IP マスカレード	65
静的 NAT 設定	67
こ	
固定 IP アドレス	46
さ	
再起動	130
し	
システム状態	13, 113
詳細設定と保守	36
初期化	127
WEB ブラウザから初期化を行う	128
スイッチから初期化を行う	129
せ	
設定一覧	121
設定データ	106
アップロード	111
インポート	109
エクスポート	107

ダウンロード.....	112	ブリッジ.....	73
た		IPv6ブリッジ.....	73
帯域制御.....	90	PPPoEブリッジ.....	73
つ		プロバイダ情報を変更する.....	26
通信コネクション状態.....	117	プロバイダ情報(IPoE)を編集する.....	29
て		プロバイダ情報(PPPoE)を追加する.....	34
電源コネクタ.....	9	プロバイダ情報(PPPoE)を編集する.....	26
と		プロバイダ情報を削除する.....	32
時計.....	131	プロバイダ設定.....	22
WEBブラウザから手動で時計を設定する.....	132	IPoE(DHCP).....	24
インターネットに接続して時計を合わせる.....	133	IPoE(固定IPアドレス).....	25
トップページ.....	12, 20	PPPoE.....	23
再起動.....	21	め	
詳細設定と保守.....	20	メイン画面.....	39
プロバイダ状態.....	12	メニュー.....	38
プロバイダ情報.....	20	り	
プロバイダ設定.....	20	リモート保守.....	17, 140
ヘルプ.....	12, 20	MULTIスイッチからリモート保守を実行する..	142
ログアウト.....	12, 21	リモート保守	
ドメインルーティング.....	49	WEBブラウザからリモート保守を実行する.....	141
は		る	
バージョンアップ.....	96	ルーティング.....	55
MULTIスイッチでバージョンアップする.....	104	送信先ルーティングテーブル.....	60
USBメモリからバージョンアップする.....	97	送信元ルーティングテーブル.....	61
WEBブラウザから手動でバージョンアップする.....	102	ダイナミックルーティング.....	58
指定した時刻に自動でバージョンアップする...	100	デフォルトルート.....	56
パソコンからバージョンアップする.....	99	ろ	
パケット送出優先制御.....	86	ログ.....	15, 122
ふ		ログエクスポート.....	16
ファイアウォール.....	74	ログをUSBメモリへ出力する.....	124
IDS侵入検知システム.....	81	ログを端末へ転送する.....	126
SPI動的パケットフィルタリング.....	79	ログを表示する.....	123
ステルス.....	83	ログイン.....	11, 19
静的フィルタ.....	75	パスワード.....	11, 19
		ユーザ名.....	11, 19
		ログインパスワードを変更する.....	139



本製品はサクサエコマークの製品です

当社では、今後も環境に配慮した製品の開発を推進し、サクサブランドのエコ製品をグループ一体となって生み出すことにより、地球環境保全に貢献していきたいと考えています。

サクサエコマークは、下記の条件を満たした製品に適用します。

サクサエコ商品認定基準

<環境に配慮した材料の採用>

- ・ 当社の定めた含有禁止物質を製品に使用しません。
- ・ 当社の定めた含有抑制物質については、その使用量を把握管理し抑制に努めます。
- ・ 酸性雨で地中に溶け出し人体に影響がある鉛については、使用量を把握管理し抑制に努めます。
- ・ 焼却時にダイオキシンが発生する恐れのあるポリ塩化ビニル(PVC)を特定臭素難燃剤(PBDE 及び PBB)の仕様を抑制します。
- ・ 廃棄時の環境影響に配慮した当社の基準で推奨するプラスチック材料や金属材料を使用します。

<リサイクルしやすい設計>

- ・ リサイクルを容易にするために、プラスチック部品には材料名を表示します。
- ・ リサイクルを考慮しプラスチック材料はできる限り統一します。
- ・ プラスチック材料への二次加工を抑制した設計を行います。

<環境に配慮した梱包材>

- ・ 緩衝材に発泡スチロールはできる限り使用しないようにします。

<省エネルギー>

- ・ 省エネルギーを考慮した設計を行います。

<事前評価>

- ・ 設計・製造にあたっては、当社の定めた製品アセスメントを実施し、製品が環境与える影響を評価しています。

■ お客様窓口(製品についてのお問い合わせ、ご相談)

● お客様相談室： 0570-001-393
050-5507-8039
<http://www.saxa.co.jp>

このたびは、当社の製品をお求めいただき、誠にありがとうございます。

製品についてのお問い合わせ、ご相談、アフターサービス(修理)などにつきましては、お求めになられました販売店または上記の当社窓口にご相談ください。

なお、お客様との電話応対時においては、お問い合わせ・ご相談内容などの正確な把握、今後のサービス向上のために、通話を録音させていただく場合があります。

《サクサグループ》

上記窓口・電話番号は都合により、変更になる場合がございます。その際は、お買い求め頂いた販売店にご相談いただくか、または、当社ホームページ(<http://www.saxa.co.jp>)より最新情報を入手してください。

PHS・IP 電話等、ナビダイヤル(0570 で始まる番号)がご利用できない場合は、050-5507-8039 にお問い合わせください。

サクサ株式会社

この資料の内容は平成26年7月現在のものです。

1183IT | 147-1 | Z

4441061000